

トヲ得ルモ當事者カ唯一ノ證據方法ヲ申立テタル場合ニ於テハ其申立
ノ不適法ナラサル限ハ之ヲ却下シ舉證ナキ理由ヲ以テ其申立者ニ對シ
敗訴ノ裁判ヲ爲スコトヲ得ス

(同主旨)

一ノ事實ヲ證センカ爲メ數多ノ證據ヲ提出シタル場合ニ於テ證人喚問ノ申請ヲ許否スルハ固
ヨリ裁判所ノ權内ニ屬スト雖モ(民訴二七四條)一事實ヲ證スル唯一ノ證據トシテ證人喚問ノ
申請ヲ爲シタル場合ニ於テ之ヲ容ササルハ證據提出ノ途ヲ拒絕スル筋合ナルヲ以テ民事訴訟
法規定ノ精神ニ違背スルモノナリト云ハサルヲ得ス

村長カ記憶セシ事項ヲ證明シタルニ止マリ法律上村長ノ資格ヲ以テ作りタル公正證書ト看做
スコトヲ得サルモノニ對シ之カ反證タル唯一ノ證據調ノ申請ヲ排斥シ該證明ヲ採用シタルハ
不法ナリ
當事者カ申請シタル證據ノ外他ニ證明ノ具ナキ場合ニ其申請ヲ却下シ敗訴ヲ言渡シタル裁判
ハ不法ナリ

或事實ノ主張ニ對シ唯一ノ證據タル證人ノ申請ヲ許容セス而シテ其主張ヲ口頭無證ノ供述ト
シテ排斥シタル裁判ハ證據ニ關スル訴訟手續ニ違反セルモノトス
當事者カ唯一ノ證據決定ノ申請ヲ爲シタルニ拘ハラス判決ニ必要ナシトシテ之ヲ斥ケ立證ナ
シトノコトヲ以テ其請求ノ理由ナシト判斷シタル裁判ハ不法ナリ
當事者ノ提供セル證據方法ヲ排斥シ其立證ナキヲ根據トシテ敗訴ヲ言渡シタルハ立證ノ途ヲ
杜絶シ不當ニ事實ヲ確定シタル不法ノ裁判ナリ

三五	二七	二九	二九	二六	二七
五	一	八	一	一	二〇
六	二	〇	八	一	二〇
六	二	〇	八	一	二〇
六	二	〇	八	一	二〇
六	二	〇	八	一	二〇
六	二	〇	八	一	二〇
六	二	〇	八	一	二〇
六	二	〇	八	一	二〇
六	二	〇	八	一	二〇

立證方法ヲ拒絕シ其證明ナキヲ責ムルハ不當ナリ
數多ノ證據申其調フヘキ限度ヲ定ムルハ事實裁判所ノ自由權内ニ屬スト雖モ係爭事實ヲ證明
スヘキ唯一ノ證據ヲ申出テタル場合ニハ裁判所ハ其證據調ヲ爲スノ責務アリトス
第一審ニ於テ人證ノ申立ヲ却下シタルヲ不服トシテ控訴ヲ爲シ尙ホ同一人證ノ申立ヲ爲シタ
ルトキハ其人證ハ唯一ノ證據ナルヲ以テ控訴審ハ之ヲ取調フヘキモノトス

○法律上ノ問題ヲ解決スルノミヲ以テ事件ノ勝敗ヲ決シ得ルカ又ハ當事
者ノ立證セントスル事實ニ關セス他ノ事實理由ニ依リ勝敗ヲ決シ得ヘ
キ場合ニ於テハ立證方法ハ不必要ニ屬スルカ故ニ裁判所ハ職權ヲ以テ
其申立ヲ棄却スルコトヲ得ヘシ

○當事者雙方カ數多ノ證據ヲ舉ケテ辯論ヲ爲シタル後其一方ヨリ更ニ新
事實ヲ主張シ檢證ヲ申請シタル場合ニ裁判所ニ於テ其新證據方法ヲ採
用シ之カ證據調ヲ爲スモ既ニ得タル事實上ノ心證ヲ翻スニ足ラサルモ
ノト認ムルトキハ之ヲ許ササルコトヲ得ヘシ

○當事者ニ對シ唯一ナル證據ノ提出ヲ拒絕シテ其主張セシ事實ト反對ノ
事實アルコトヲ是認シタル判決ハ不法ナリ
○唯一ノ證據方法ト雖モ直接爭點事實ニ對スルモノニ非ザルトキハ裁判
所ハ其證據調ノ申請ヲ許否スルコトヲ得ヘキハ勿論之ヲ排斥シタル後
其立證旨趣ニ反對ナル事實ヲ認定スルコトヲ得ルモノトス

三二	三三	三四	三五	三六	三六
九	四	五	一	一	一
九	四	五	一	一	一
九	四	五	一	一	一
九	四	五	一	一	一
九	四	五	一	一	一
九	四	五	一	一	一
九	四	五	一	一	一
九	四	五	一	一	一
九	四	五	一	一	一

(同主旨)

争點ノ判斷ニ適切ナラサル證據方法ハ縱令唯一ノモノト雖モ之カ取調ヲ爲ササルコトヲ得
○當事者カ同一ノ立證方法トシテ二名ノ人證ヲ申出テタル場合ニハ其一
名ノミヲ訊問シ他ノ訊問ヲ許可セサルモ違法ニ非ス

○當事者カ同一ノ事實ヲ立證スル爲メ人證ノ外書證ヲ提出シタル場合ニ
ハ縱令其書證ヲ採用セラレサルモ該人證ヲ目シテ唯一ノ證據ト云フヲ
得ス從テ裁判所カ其證人喚問ヲ許ササルハ違法ニ非ス

(同主旨)

○反證トシテ既ニ書證ヲ提出シタルモ仍ホ同一事實ヲ證センカ爲メ更ニ人證ヲ申出テタルハ唯
一ノ防禦方法ニ非サルコト明カナリ此場合ニ裁判所カ其申請ヲ許ササルハ民事訴訟法第二百
七十四條第一項ニ據リ證據調ノ限度ヲ定メタルモノト認ムルヲ得ヘシ

書證提出ノ後ニ於テ同一事實ヲ立證スル爲メ申請シタル證人ノ訊問ハ唯一ノ證據方法ニ非サ
ルヲ以テ裁判所ハ民事訴訟法第二百七十四條第一項ニ從ヒ之ヲ排斥スルモ違法ニ非ス

○當事者カ檢證ヲ申請スルモ裁判所ハ他ノ證據ニ依リ十分ナル考覈ヲ得
更ニ檢證ノ必要ヲ認メサルトキハ此立證方法カ當事者ノ爲メ唯一ノ證
據タルニ拘ハラズ之ヲ許可セサルコトヲ得ヘシ

(同主旨)

檢證ナルモノハ裁判官カ自働的ニ現物ヲ實檢シ考覈ヲ確ムル方法ナレハ其事實ヲ認定スルニ

當リ檢證ヲ爲ササレハ十分考覈ヲ得ヘカラスト認ムルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲シ得ルト同時
ニ當事者ノ申立アルモ他ノ方法若クハ狀況等ニ依リ十分ナル考覈ヲ得更ニ檢證ヲ爲スモ既ニ
確メタル考覈ヲ變スヘキ事情ナカルヘシト認ムルトキハ之ヲ爲ササルコトヲ得ヘキモノトス
裁判所カ係争事實ヲ認定スルニ當リ自ら檢證ヲ必要ト認ムルトキハ職權ヲ以テ之ヲ爲シ得ル
ト同時ニ其必要ヲ認メサルニ於テハ縱令當事者ノ申立アルモ檢證ヲ爲ササルコトヲ得而シテ
此場合ニハ其證據方法カ當事者ノ爲メ唯一ノ立證タルヤ否ヤハ問フ所ニ非ス

○相手方ノ提出セシ證據ノ信用スヘカラサルコトヲ證明スル爲メ提出シ
タル證據方法ハ縱令唯一ノ場合ト雖モ之ヲ許容セサルコトヲ得

○當事者カ相手方ノ抗辯ニ對スル反證トシテ提出シタル證據方法ノ申請
ヲ全然却下シテ相手方ノ抗辯ヲ採用シタル判決ハ唯一ノ證據方法ヲ杜
絶シタルモノニシテ違法ナリ

○裁判所ニ於テ證據調ヲ爲シ當事者主張ノ如キ結果ヲ得ルモ争點ニ不必
要ナルコトノ心證ヲ得タルトキハ唯一ノ證據方法タルト否トニ論ナク
其證據申請ヲ却下シ得ルモノトス

(同主旨)

裁判所ニ於テ證人出廷シ申請人申出ノ通り供述ヲ爲スモ申請人ノ勝訴ト爲ラサルコトノ心證
ヲ得タルトキハ唯一ノ證據方法タルト否トニ拘ハラズ其申請ヲ却下スルコトヲ得
證人カ當事者主張ノ如ク證言スルモ争點ニ不必要ナルコト瞭然タルトキハ其訊問申請ヲ却下
スルハ當然ニシテ唯一ノ證據方法ヲ拒絶シタルカ如キ違法ノ裁判ニ非ス

三六	三九	四一	四二	四三	四四	四五	四六	四七	四八	四九	五〇	五一	五二	五三	五四	五五	五六	五七	五八	五九	六〇	六一	六二	六三	六四	六五	六六	六七	六八	六九	七〇	七一	七二	七三	七四	七五	七六	七七	七八	七九	八〇	八一	八二	八三	八四	八五	八六	八七	八八	八九	九〇	九一	九二	九三	九四	九五	九六	九七	九八	九九	一〇〇	一〇一	一〇二	一〇三	一〇四	一〇五	一〇六	一〇七	一〇八	一〇九	一一〇	一一一	一一二	一一三	一一四	一一五	一一六	一一七	一一八	一一九	一二〇	一二一	一二二	一二三	一二四	一二五	一二六	一二七	一二八	一二九	一三〇	一三一	一三二	一三三	一三四	一三五	一三六	一三七	一三八	一三九	一四〇	一四一	一四二	一四三	一四四	一四五	一四六	一四七	一四八	一四九	一五〇	一五一	一五二	一五三	一五四	一五五	一五六	一五七	一五八	一五九	一六〇	一六一	一六二	一六三	一六四	一六五	一六六	一六七	一六八	一六九	一七〇	一七一	一七二	一七三	一七四	一七五	一七六	一七七	一七八	一七九	一八〇	一八一	一八二	一八三	一八四	一八五	一八六	一八七	一八八	一八九	一九〇	一九一	一九二	一九三	一九四	一九五	一九六	一九七	一九八	一九九	二〇〇
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

○證據決定ノ際受命判事ヲ指名セス又ハ受命判事指名ノ事項カ口頭辯論調書ニ記載ナカリシト雖モ爲メニ右受命判事ノ爲シタル證據調ヲ全然無効ナリトスルヲ得ス

○受訴裁判所カ證據調ニ付キ受命判事ヲ指定シタル手續ニ違法ノ點アルモ當事者カ異議ヲ留メスシテ判決ヲ受ケタルトキハ後日ニ至リ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

『第二百七十九條』

○裁判長ノ發スル證據調囑託書ニハ裁判長自ラ署名スヘキハ固ヨリ當然ナリト雖モ其自署ヲ欠缺セル一事ニ依リ直ニ該囑託書ノ效力ヲ否定スヘキ規定ナケレハ之ニ基キテ爲シタル訊問調書ヲ無効トスヘキモノニ非ス

(第二百七十九條)

『第二百八十條』

○民事訴訟法第二百八十條ノ法規ハ當事者ヲシテ可成の便宜ヲ得セシメントノ主意ニ出テタルモノニシテ期日通知ナキ爲メ證據調ヲ當然無効タラシムル精神ニ非ス而シテ當事者カ自己ノ過失ナクシテ出頭セザリシトキハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結ニ至ルマテ證據調追完又ハ補充

充ノ申立ヲ爲シ得ヘキモノナルニ絶ヘテ其事ナク徒ニ期日通知ナキヲ以テ論告スルモ上告適法ノ理由ナキモノトス

○受命判事カ證人訊問ニ付キ民事訴訟法第二百八十條ノ手續ヲ盡ササルモ口頭辯論ノ際當事者ニ於テ異議ヲ申立テサルトキハ原判決非難ノ理由ト爲ラス

○受託判事カ證據調ノ期日及ヒ場所ヲ當事者ニ通知セサルモ其證據調ヲ以テ當然無効ナリト云フヲ得ス唯相手方ハ通知ノ欠缺ヲ理由トシテ其效力ヲ争フコトヲ得ルニ過キス

○受託區裁判所カ證據調期日ヲ當事者ニ通知セサル不法ハ其證據調ニ接續スル口頭辯論ニ於テ之ヲ詰責スルニ非サレハ責問權ヲ喪失スルモノニシテ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得サルモノトス

(第二百八十七條)

『第二百八十七條』

○受訴裁判所ニ於テ爲ス證據調ノ期日ハ同時ニ口頭辯論續行ノ期日ナレハ證據調手續ノ終了セサル限ハ口頭辯論續行期日開始セスト謂フヲ得

(同主旨)

受訴裁判所ニ於テ證據調ヲ爲ストキハ其期日ハ同時ニ口頭辯論ヲ續行スル期日ニシテ證據調

民事訴訟法 第一審ノ訴訟手續 地方裁判所ノ訴訟手續 證據調ノ總則 一五二九

三〇六

三〇五

三〇八

三〇七

三〇九

三〇八

三〇九

三〇八

二七〇

二六九

二七〇

二六九

二七〇

二六九

二七〇

二六九

二七〇

二六九

二七〇

二六九

意見ヲ陳述スヘキモノニ非サレハ證人ノ意見ハ裁判所ノ判斷ノ資料ト爲スヘキモノニ非ス

○本案訴訟ニ利害關係ヲ有スル者ト雖モ當事者ニ於テ異議ノ申立ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ之ニ宣誓セシメ證人トシテ訊問シ其證言調書ヲ證據トスルモ不法ニ非ス

○證人ハ五官ノ作用ニ依リ直接ニ知リタル事實ニ限り證言スヘキモノニシテ慣例ノ存否ノ如キハ證人ノ證言シ得ヘキモノニ非ス

○宣誓ヲ爲ス權利アル證人ニ宣誓セシメスシテ其陳述ヲ聽クモ當然無効ト爲ルヘキ理ナケレハ縱令斯ノ如キ陳述ヲ判斷ノ用ニ供シタリトテ該判決ヲ破毀スルノ理由ト爲スニ足ラス

○證人訊問調書ニ訊問場所ノ表示ヲ缺クモ之ヲ無効ト爲スヲ得ス

○神社ノ氏子總代カ總代勤務中關係書類ノ調査ニ因リテ知得シタル事實ヲ供述スルハ一ノ證言タルヲ妨ケス

○裁判所カ證人申請ヲ許容シタルニ拘ハラズ之ヲ訊問セシテ結審ヲ告ケタルニ對シテ異議ヲ留メサルハ是レ責問權ヲ拋棄シタルモノナレハ後ニ至リ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

○受託判事カ屬託セラレタル訊問事項ニ牽聯セサル事項ヲ證人ニ訊問ス

ルハ違法ナリト雖モ之ニ對シ異議ヲ申立テサルトキハ責問權ヲ喪失スヘキヲ以テ後日ニ至リ其不法ヲ主張スルコトヲ得ス

○既ニ書證トシテ提出シアル書面ニ非サレハ之ヲ證人ニ示シテ訊問スルコトヲ得サル旨ノ法規又ハ法理アルコトナケレハ後ニ書證トシテ提出スヘキ書面ト雖モ之ヲ證人ニ示シテ訊問スルコトヲ妨ケス從テ斯ル書面ニ關スル證人ノ供述ヲ採テ事實認定ノ材料ト爲スモ違法ニ非ス

○裁判所カ民事訴訟法第三百十二條ノ規定ニ依リ先ツ證人ニ其氏名年齢等ヲ訊問シタルトキト雖モ證言ヲ要スル事項ノ内容ニ付キ訊問ヲ爲ス以前ニ於テハ宣誓ハ訊問前ノ形式ニ從フヘク又後ニ訊問スヘキ證人ノ在ル場所ニ於テ先ツ氏名、年齢等ヲ訊問シタル上更ニ專ラ證言ヲ要スル訊問事項ノ内容ニ付テノミ該證人ノ在ラサル場所ニテ各別ニ訊問スルコトヲ妨ケサルモノトス

○證人カ民事訴訟法第二百九十七條第三百十條列記ノ一ニ該當スル者ナルヤ否ヤハ裁判所ニ於テ之ヲ調査スルヲ以テ足り特ニ之ノ調査スルヲ要セス又調査シタル事實ハ訊問調書ニ錄取スルコトヲ要セサルヲ以テ訊問調書ニ證人資格調査ノ事跡記載ナケレハトテ直ニ其資格ノ調査ヲ欠キタル不適法ノ證據調ト謂フコトヲ得ス

元

九七七

三

一〇七

五

六七六

五

一六七

三四

五

二二七

三四

二

二四

三五

二

四一

四二

二

二五五

四五

八

七三七

四五

二

二七二

四五

二

五〇三

○合資會社ト之ヲ代表スル社員トハ各別個人ノ人格ヲ有スルモノナレハ會社ヲ代表スヘキ社員カ自ラ會社ヲ代表セサル訴訟ニ於テハ其社員ヲ證人トシテ訊問スルコトヲ得ルモノトス

(同主旨)

○會社ト其取締役トノ間ニハ會社ノ業務執行ニ付キ代表關係アルニ止マリ各別個人ノ人格ヲ有スルモノトス而シテ取締役ハ自ラ會社ヲ代表セサル訴訟ニ於テ證人タル資格ヲ有セストノ規定ナシ

○訴訟代理人ハ證人タル資格ニ何等缺クル所ナケレハ之ヲ證人トシテ訊問シ其證言ヲ判斷ノ資料ニ供スルモ不法ニ非ス

『第二百八十九條』

(第二百八十九條) (聯)

○民事訴訟法第二百八十九條ニ所謂證言トハ自己ノ見聞ニ因リ係爭事實ニ付キ知得シタルコトヲ裁判所ニ於テ供述スルノ義ナリトス而シテ證人自ラ係爭事實ニ直接干與セルニ因リ之ヲ知得シタルト將タ當事者若クハ他人ヨリ聽取リタルニ因リテ之ヲ知得シタルトハ問フ所ニ非ス

(同主旨)

○證人ハ自ラ知得シタル事實ヲ陳述スヘキモノナルモ其知得ノ方法タルヲ係爭事實ニ付キ自ラ直接ニ干與シタルニ因ルト間接ニ他人ヨリ聞取リタルニ因ルトヲ問フモノニ非ス

(第二百九十一條)

『第二百九十一條』

(第二百九十七條)

○人證ノ申出及ヒ證據決定ニ訊問スヘキ證人ノ氏名知レタルトキハ其氏名ヲ明示スヘキハ勿論ナレトモ若シ知レサルトキハ其人ヲ表示スルニ足ルヘキ事項ヲ掲記セハ右ノ申出者クハ決定ノ效力ニ妨アルヘカラス

『第二百九十七條』

○民事上原告又ハ被告ト親戚ノ關係ヲ有スル者ハ證言ヲ拒ムノ權利アルモ證人タルノ資格ナキ者ニ非ス

○民事訴訟法第二百九十七條第一項三號ハ證言ヲ拒ミ得ル者ヲ明示シタルマテニシテ裁判官ニ對シ證人訊問前ニ必ス其關係ヲ尋問スヘキコトヲ命シタルモノニ非ス

○證人カ當事者一方ノ親戚ナルカ爲メ法律上宣誓セシムヘキモノニ非サルトキト雖モ相手方ニ於テ其證言ニ對シ何等ノ異議ヲ申立テサリシ場合ニハ該證言ヲ證據トシテ採用スルモ違法ニ非ス

○民事訴訟法第二百九十七條ハ原告又ハ被告ト親族其他ノ關係アル者ニ付テ規定スルモ參加人トノ關係ニ言及セサレハ裁判所カ證人ニ對シ從參加人トノ關係ヲ問查セサリシトテ之ヲ不法ナリト云フヲ得ス故ニ該證言ヲ證據トシテ採用スルモ違法ニ非ス

○株式會社ノ監査役ハ會社ノ機關ニシテ會社ノ雇人ニ非ス

七	三	七	三	三	三	三	三
二二	三〇九	一八七五	四〇	四六	一〇一	一〇三	一〇四
三	三	三	三	三	三	三	三

○證人ト原告若クハ被告トノ間ニ雇傭關係ノ存スル以上ハ使用者カ自然
人タルト法人タルトニ因リテ民事訴訟法第二百九十七條ノ適用ヲ異ニ
スルモノニ非ス

三七

八〇二

○民事訴訟法第二百九十七條第三號ニ所謂雇人トシテ原告若クハ被告ニ
仕フル者トハ原告若クハ被告トノ雇傭關係上從屬的ニ其使役ニ服スル
勞務者ノミヲ指稱ス

四二

一八九

○會社ノ番頭ハ法人タル會社ノ使用人ナルヲ以テ業務上會社ヲ主人トシ
從屬的ニ其使役ニ服スルモノトス從テ民事訴訟法第二百九十七條第三
號ノ雇人ニ該當ス

四二

一八九

○民事訴訟法第二百九十七條第一項第三號ニ所謂原告若クハ被告ト同居
スル者トハ原告若クハ被告ノ親族ニ非スシテ一家ニ同棲スル者ヲ指稱
シ親族ニシテ同居スル者ヲ包含セス

四四

三〇二

○民事訴訟法第二百九十七條第二項ハ單ニ訓示の規定ニ過キサルヲ以テ
縱令證人訊問カ右條項ニ違背シタリトスルモ其證言ヲ採用スルニ毫モ
妨ナシ

二

四七一

(同旨)

民事訴訟法第二百九十七條第二項ハ訓示的ノ規定ニ過キサルカ故ニ右ノ規定ニ違背シテ證人

ヲ訊問シタルニ拘ハラズ判決裁判所ハ自由探證ノ通則ニ依リ評定ヲ遂ケ其證言ヲ採用スルニ
妨ナシ

三四

二〇

○民事訴訟法第二百九十七條第三號ニ所謂原告若クハ被告ト同居スル者
トハ原告若クハ被告ノ同居人ヲ指稱スルモノニシテ同居人トハ戶主其
他世帯主タル原告若クハ被告方ニ同居スル者ヲ謂フモノトス

七

四二

○民事訴訟法第二百九十七條第一項第三號ニ所謂原告若クハ被告ト同居
スル者トハ原告若クハ被告ノ親族ニ非スシテ一家内ニ同棲スル者ヲ指
稱スルモノニシテ親族ニシテ同居スル者ヲ包含セシムル旨趣ニ非ス

七

一七四

(第二百九十八條)

第二百九十八條

○民事訴訟法第二百九十八條第四號ハ例ヘシテ證言ノ結果ニ依リ證人等カ
保證人共同債務者若クハ償還義務者トシテ其義務ヲ履行セサルヘカラ
サルニ至リ又ハ債權者ヲシテ證人等ニ對シ債權ノ執行ヲ容易ナラシム
ルニ至ルカ如キ場合ヲ云フモノトス

三五

八七九

○民事訴訟法第二百九十八條第四號ノ規定ハ本訴訟ノ當事者間ノ權關係
係ニ付キ其當事者ノ一方ト權利共通若クハ義務共通ノ地位ニ在ル場合
又ハ其一方ノ保證人ト爲リタル場合ノ如ク本訴訟ノ裁判ニ依リ直ニ損
害ヲ生スヘキ場合ニ適用スヘキ法意ニシテ間接ニ利害ノ關係ヲ生スル

三六

四〇〇

場合ノ如キハ之ニ屬セス

○民事訴訟法第二百九十八條第四號ハ問ニ付テノ答辯ノ結果ニ因リ證人カ直接ニ財産權上ノ損害ヲ被ムルヘキ場合ノ規定ニシテ問ニ付テノ答辯カ唯間接ニ財産權上ニ損害ノ影響ヲ生スル虞アルカ如キ場合ヲ包含セス

(同主旨)

民事訴訟法第二百九十八條第四號ノ規定ハ問ニ付テノ證人ノ答辯カ未タ確定セサル債務ニ付キ自己ノ債務タルコトヲ認諾スヘキトキノ如ク直接ニ財産權上ノ損害ヲ生セシムヘキ場合ニ於テ其適用ヲ受クヘキモノトス

○民事訴訟法第二百九十八條第四號ニ問ニ付テノ答辯カ直接ニ損害ヲ生セシムヘキトキトアルハ訊問事項ニ對スル證言ノミニ因リテ當然損害ヲ生セシムヘキ場合ノ謂ニシテ其場合ニ限り證言ヲ拒ムコトヲ得ルノ法意ニ出テタルモノトス

(第二百九十九條)

『第二百九十九條』

○民事訴訟法第二百九十九條ハ證人カ同第二百九十七條第一號ノ關係アルトキハ證言ヲ拒ムコトヲ得サル旨ヲ規定スレトモ同條第二號及ヒ第三號ノ關係アル者ヲ除外スルカ故ニ此等ノ者ハ同第二百九十八條第四

號ノ場合ニ付テノミ證言ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

(刑)

○婚姻事項ニ關シテハ親族ト雖モ證人タルノ資格ヲ有ス

○民事訴訟法第二百九十九條第二號ハ家族ノ關係ニ因リ生スル財産上ノ爭訟ノ場合ヲ云フモノニシテ本分家ノ關係アルヤ否ヤヲ爭フカ如キ場合ニ適用スヘキ條規ニ非ス

○家督相續回復ノ效果ハ當然相續財産ノ回復ニ及フヘキモノナレハ家督相續ノ回復ハ民事訴訟法第二百九十九條第一項第二號ニ所謂家族ノ關係ニ因リ生スル財産事件ニ該當スルモノトス

○甲者カ親族會ノ選定ニ因リ亡乙者ノ家督相續人ト爲リタルニ拘ハラス其以前丙者カ乙者ノ家督相續人ニ選定セラレタリト稱シテ届出ヲ爲シ甲者ノ相續權ヲ侵害シタルコトヲ理由トシ家督相續ノ回復ヲ請求スル事件ニ於テ丙者カ親族會ノ決議ニ因リ相續人ニ選定セラレタルヤ否ヤノ事實ハ民事訴訟法第二百九十九條第一項第二號ニ該當スルモノトス

○民事訴訟法第二百九十九條第一項第二號ニハ「家族ノ關係ニ因リ生スル財産事件ニ關スル事實」トアルノミナレハ苟モ家族ノ關係ニ因リ生スル財産事件ニ付テハ證人ハ其證言ヲ拒ムコトヲ得サルモノニシテ證人ト訴訟當事者トノ間ニ家族關係アルコトヲ要セサルモノトス

三六	元	三五	二	元	四三
四二〇	八六六	一〇	三〇六	一	三二
				六	一五五
				四	八四二
				五	一〇四
				五	二五五

(同主旨)

民事訴訟法第二百九十九條第一項第二號ノ規定ハ係争財産事件カ家族關係ニ因リ生セシモノナル場合ハ其事件ニ關スル事實ニ付キ證言ヲ拒ミ得サラシムルモノニシテ證人ノ家族ノ財産事件ニ關スル事實ノミニ付キ證言ヲ拒ムコトヲ得サラシムル旨趣ニ非ス

○民事訴訟法第二百九十九條第二號ニ所謂家族ノ關係ニ因リ生スル財産

事件ニ關スル事實トハ證人訊問ノ目的ト爲リタル事項カ家族ノ關係ニ

因リ生シタル財産關係ヲ指稱スルモノニシテ訴訟當事者間ノ訴訟事件

カ家族關係ヨリ生スル財産關係ナルコトヲ謂フモノニ非ス

○禁治產者ノ管財人カ其資格ニテ爲シタル行爲ハ民事訴訟法第二百九十

九條第四號ノ代理人トシテ係争ノ權利關係ニ關シ爲シタル行爲トアル

ニ該當スルヲ以テ管財人ハ縱令直接ノ利害關係アリトスルモ其行爲ニ

關シ證言ヲ拒ムコトヲ得ス

○主タル債務者ハ保證人ニ對スル關係ニ於テハ民事訴訟法第二百九十九

條第四號ノ所謂前主ニ非ス故ニ債權者ヨリ保證人ニ對スル訴訟ニ於テ

其債務關係ニ付キ主タル債務者ヲ證人トシテ訊問スル場合ニハ同條ノ

規定ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

○民事訴訟法第二百九十九條第四號ノ所謂原告若クハ被告ノ代理人トシ

テ係争ノ權利關係ニ關シ爲シタル行爲ニハ證人カ當事者ノ一方ノ代理

人ト爲リ其相手方ニ對シテ係争ノ權利關係ニ關シ爲シタル行爲ヲモ包

含スルモノトス

○證人カ民事訴訟法第二百九十九條ニ所謂原告若クハ被告ノ前主又ハ代

理人トシテ係争ノ權利關係ニ干與シタリトノ事實ハ必スシモ訴訟ノ事

實上ノ演述ニ於テ既ニ表明セラレ又ハ其疏明アルコトヲ要スルモノニ

○非ス證人ニ依リ證セントスル事項ニシテ苟モ同法條ニ掲クル場合ニ該

當スルトキハ證據決定ノ施行上證人ハ其證言ヲ拒ムコトヲ得ス從テ相

手方ハ其證人ヲ忌避スルコトヲ得サルモノトス

○前主カ係争ノ權利關係ニ關シ實驗シタル事實ト雖モ苟モ前主トシテ爲

シタル行爲ニ關係ヲ有セサルモノハ民事訴訟法第二百九十九條第一項

第四號所定ノ事項ニ適合セサルヲ以テ斯ノ如キ事實ニ付キ獨立ノ訊問

○事項トシテ證言ヲ求メラレタル場合ニ於テハ同條ノ規定ヲ適用スヘキ

限ニ在ラス

○民事訴訟法第二百九十九條第一項第四號ニ所謂前主トハ權利カ逐次數

人ノ承繼ヲ經テ原告若クハ被告ニ移轉セラレタル場合ニ於テハ審ニ直

接ニ之ヲ原告若クハ被告ニ移轉シタル者ノミナラス其前者タル逐次ノ

五	四	三	二	一
一〇四	一五七	四	八五	二二七
		六	三	四
		四〇	七	六
			七	七

各被承繼人ヲモ包含スヘキモノトス

(同三三)

○民事訴訟法第二百九十九條第四號ニ所謂前主トハ權利又ハ義務ノ被承繼人ヲ指稱セルモノトス

○民事訴訟法第二百九十九條第一項第四號ニ所謂原告若クハ被告ノ前主トハ原告若クハ被告ノ前主其人ニ限定セルモノニ非スシテ前主未成年者ナルトキハ其法定代理人ヲ指稱スルモノト解釋スヘキモノトス

○民事訴訟法第二百九十九條第一項第四ニ所謂代理人ハ原告若クハ被告ニ代リテ或行爲ヲ爲シタル人ノ謂ニシテ法律行爲ヲ代理シタル人ノミニ限ラサルモノトス

○民事訴訟法第二百九十九條第四號ニ原告又ハ被告ノ代理人トシテ係争ノ權利關係ニ關シ爲シタル行爲トアルハ必スシモ代理人トシテ係争ノ權利關係ヲ成立セシメタルヤ否ヤノミニ限定セルモノニ非スシテ事後ニ於テ係争ノ權利關係ニ關シ爲シタル行爲ヲモ包含スルモノトス

〔第三百一〕

〔第三百一條〕

○民事訴訟法第三百一條ニ規定セル證言拒絕ノ當否ヲ裁判スルニ付キ當事者ヲ審訊スル手續ハ本案ニ關スル受訴裁判所カ裁判ヲ爲ス場合ニ付

テノ手續ニシテ抗告裁判所カ抗告ニ付テノ裁判ヲ爲ス場合ニ行フヘキ手續ニ非ス

○證言拒絕ニ付テノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スヘキ者ハ其證言拒絕ノ當否ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者即チ證言拒絕事件ノ當事者タル證人喚問ヲ申請セル者及ヒ證人トシテ指名セラレタル者ナルヲ要ス

〔第三百二〕

〔第三百二條〕

○民事訴訟法第三百二條ニ謂フ原因ヲ開示セスシテ證言ヲ拒ムトハ毫モ證言拒絕ノ事由ヲ陳述スルコトナク證言ヲ拒ムノ謂ニシテ證人カ拒絕ノ事由ヲ陳述セル場合ハ縱令其原因正當ナラサルトキト雖モ之ヲ以テ原因ヲ開示セスシテ證言ヲ拒ムモノト云フヲ得ス

〔第三百三〕

〔第三百三條〕

○證人カ當事者ノ一方ト親族關係ヲ有シ且其訊問事項ハ證人ニ於テ其當事者ノ祖父ノ病氣ヲ看護セシコトアリヤ其死亡前數日間ノ容體如何トノ二點ナルトキハ證人ハ證言ヲ拒ムコトヲ得從テ此場合ニ相手方ヨリ提出シタル忌避ノ申請ハ其原因アルモノトス

○民事訴訟法第二百九十九條ハ同第二百九十七條ノ例外規定ナルカ故ニ同法第三百三條ハ此例外規定ニ當ル場合ヲ除外シ唯證言ヲ拒ミ得ヘキ

四五 六〇七

四〇 七三二

四五 六三三

三 七三二

三 八五七

三六 三

三五 八三

三六 九五四

三六 二六二

三七 二五五

證人ノミヲ忌避セシムルノ法意ナリトス

三九

五九三

民事訴訟法第三百三條ノ規定ハ同第二百九十七條ノ場合ニ限リ忌避スルコトヲ得ル規定ニシテ同第
二百九十九條ノ例外規定ノ場合ニモ尙ホ忌避スルコトヲ得ルノ法意ニ非ス
民事訴訟法第三百三條ハ證言ヲ拒ムコトヲ得ヘキ親族カ之ヲ拒マサルトキハ相手方ナシテ其
證人ヲ忌避スルコトヲ得セシムル法意ニシテ證人カ同法第二百九十九條ニ從ヒ其證言ヲ拒ミ
得サル事項ヲ證言スヘキ場合ニ於テモ之ヲ忌避スルコトヲ得セシムル旨趣ニ非ス

三六

一六一

○民事訴訟法ノ證人忌避ニ關スル規定ハ其人證カ舉證者ノ爲メ唯一ノ證
據タル場合ト否トヲ論セス之ヲ適用スヘキモノナリ

四〇

七五

○裁判所カ證人忌避ノ原因アリト決定シタルニ拘ハラス尙ホ之ヲ訊問ス
ルハ不法ナリトス故ニ縱令其供述ノ援用ニ對シ忌避ノ申請人ニ於テ特
ニ異議ヲ留メサルモ責問權ヲ拋棄シタリト認ムヘキモノニ非ス

四〇

一九四

○當事者ノ一方ノ妻カ其證人ノ妻ト姉妹ノ關係ヲ有スル場合ニ於テハ證
人ト該當事者トハ何等ノ親族關係ナシト雖モ其證人ハ自己ノ配偶者ヲ
通シテ當事者ノ配偶者ト二等親ノ姻族關係アル親族ニ該當スルヲ以テ
相手方ハ民事訴訟法第三百三條第二百九十七條第一號ニ依リ之ヲ忌避
スルコトヲ得ルモノトス

四一

七六四

○民事訴訟法第三百三條ノ證人忌避ノ規定ハ證人カ同第二百九十七條ノ

規定ニ據リ證言ヲ拒ムコトヲ得ヘキ場合ニノミ適用スヘキモノニシテ
同第二百九十九條ニ依リ其證言ヲ拒ムコトヲ得サル場合ニハ之ヲ適用
スヘキ限ニ在ラス

(同旨)

民事訴訟法第三百三條ノ規定ハ證人カ同法第二百九十七條ニ依リ證言ヲ拒ムコトヲ得ル場合
ニノミ適用スヘキモノニシテ同第二百九十九條ニ依リ證言ヲ拒ムコトヲ得サル場合ニ適用ス
ヘキモノニ非ス

三六

八三

民事訴訟法第三百三條ノ證人忌避ノ規定ハ證人カ同法第二百九十七條第一號乃至第三號ノ關
係アリテ證言ヲ拒ムコトヲ得ヘキ場合ニノミ適用スヘキモノニシテ同第二百九十九條ニ依リ
證人カ其證言ヲ拒ムコトヲ得サル事項ヲ證言スル場合ニハ之ヲ適用スヘキ限ニ在ラス(同
判例三五年八卷三四頁)

四〇

一五〇

○甲乙丙ノ三名ヲ被告トスル共同訴訟ニ於テ乙丙ノ申請シタル證人カ甲
ト親族關係ヲ有スルノミニシテ申請者ト親族關係ヲ有セサルモ其證人
取調ノ結果カ直接ニ乙丙ノ訴訟ノ勝敗ニ影響ヲ及ホスノミナラス甲ニ
對シテモ亦其影響ヲ及ホスモノナルトキハ民事訴訟法第三百三條ニ依
リ其證人ヲ忌避スルコトヲ得ヘシ

四一

一〇八三

○證人訊問事項カ家族ノ關係ニ因リ生シタル財産關係ナル場合ニハ證人
カ當事者ノ親族ナルトキト雖モ證言ヲ拒ムコトヲ得サレハ該證人ヲ忌

四一

一五四五

避スルコトヲ得サルモノトス

(同主旨)

證人カ抗告人ト民事訴訟法第二百九十七條第一號ノ關係アルモ其訊問事項ニシテ同法第二百九十九條第四號ニ該當スルトキハ之ヲ忌避スルヲ得ス

證人カ當事者ノ一方ト親族關係ヲ有スルモ民事訴訟法第二百九十九條ニ依リ證言ヲ拒絕シ得サル場合ニ於テハ之ヲ忌避スルコトヲ許サス

○證人カ相手方ノ同居人ナルトキハ縱令其證人カ相手方ノ内縁ノ夫タル關係ヲ有スル場合ニ於テモ當事者ノ一方ハ之ヲ忌避スルコトヲ得ルモノトス

(第三百四十四條)

『第三百四十四條』

○民事訴訟法第二百四十四條ニ所謂訊問前トハ如上ノ訊問ヲ爲ス以前ヲ指稱スルモノトス(第三百六條七年六五九頁參照)

(第三百五十五條)

『第三百五十五條』

○證人忌避ノ決定ハ必ス其理由ヲ付スルコトヲ要スルモノニ非サルヲ以テ單ニ其理由ノ明示ナキコトノミヲ以テ直ニ之ヲ違法ト爲スコトヲ得ス

(聯)

○民事訴訟法第二百五條第二項ニ於テ證人忌避ノ原因アリト宣言スル決定ニ對シ上訴ヲ許ササルハ訴訟ヲ遅延セサラシメンカ爲メニ外ナラス

シテ同一ノ證人ニ付キ上級審ニ於テモ絶對ニ其喚問申請ヲ爲スコトヲ許ササルノ法意ニ非ス

○控訴裁判所カ忌避ノ原因アリト宣言シタル裁判ニ對シテハ上告裁判所ノ判斷ヲ受クルコトヲ得ス

(同主旨)

忌避ノ原因アリト宣言スル決定ハ民事訴訟法第四百三十三條但書前半ノ規定ニ該當スルモノニシテ上級審ヲ羈束スル裁判ナリトス

忌避ノ原因アリト宣言スル決定ハ終局判決前ニ爲シタル裁判ナリト雖モ之ニ對シ不服ヲ申立テ上告裁判所ノ判斷ヲ受クルコトヲ得ス

○民事訴訟法第二百五條第二項前段ノ規定ハ第一審裁判所ノ與ヘタル決定ナルト抗告裁判所ノ與ヘタル決定ナルトヲ問ハス適用スヘキモノトス

『第三百六條、第三百七條』

○同一ノ事柄ニ付キ同一ノ證人ヲ繼續シテ訊問スヘキ場合ニ於テハ最初ノ日ニ一タヒ宣誓セシムルトキハ其效力ハ其後ノ訊問ニ及フヘキカ故ニ訊問ノ都度更ニ宣誓セシムルコトヲ要セサルモノトス

○證人ノ人違ナラサルコトヲ判然ナラシメタルコトハ之ヲ證人訊問調書

民事訴訟法 第一審ノ訴訟手續 地方裁判所ノ訴訟手續 人證

(第三百六條、第三百七條)

三五 六 一六二

七 一三九二

三五 一〇 一一八

三四 一〇 五九

四一 九五〇

四二 三三七

三五 八 三四

七 六五九

七 四六一

三九 一六三九

三五 五 三七

六 一五八七

ニ記載スルコトヲ要セサレハ反對事實ノ證明セラレサル限ハ其人違ナ
ラサルコトヲ判然ナラシメタルモノト做スヲ相當トス

○民事訴訟法第三百六條第一項ニ各別ニ宣誓ヲ爲サシムヘシトアルハ各
別ニ宣誓ノ式ヲ履踐セシムヘキ法意ニシテ他ノ證人ノ在ラサル場合ニ
於テ宣誓ヲ爲サシムヘシトノ旨趣ニ非ス

○民事訴訟法第三百七條ニハ證人ハ云云ノ誓ヲ宣フヘシトアルノミニシ
テ別ニ其形式ヲ制限セス又書面ヲ以テ宣誓ヲ爲ス場合ニハ自署若クハ
捺印ヲ必要トセサレハ唯其證人ノ宣誓書タルコトヲ知リ得ルヲ以テ足
レリトス

○證人宣誓ノ規定ハ專ラ當事者ノ利益ニ根據セル非強行的規定ナルヲ以
テ其手續ノ違背ニ對シ當事者カ證人訊問ニ接續スル口頭辯論ニ於テ異
議ヲ述ヘサル限り最早其違背ヲ責問スルヲ得サルモノトス

○民事訴訟法第三百七條第一項ハ證人宣誓ノ方式トシテ良心ニ從ヒ眞實
ヲ述ヘ何事ヲモ默秘セス又附加セサル旨ノ誓ヲ宣フヘキコトヲ命スル
ノミニシテ特ニ宣誓書ナル書面ノ作成ヲ命セサルモノトス

○現行民事訴訟法ハ事前ノ宣誓ヲ原則トスルヲ以テ裁判長ハ先ツ同法第
二百九十九條所定ノ關係アリヤ否ニ付キ訊問ヲ爲シタル上宣誓ヲ爲サ
シムヘキヤ否ヲ決シ然ル後始メテ同法第三百十二條所定ノ事項ニ付キ
訊問ヲ爲スヘキモノトス

第三百八條

○宣誓ノ法式ヲ爲ス以上ハ偽證罪ノ諭示ヲ爲ササルモ以テ上告ノ理由ト
爲スニ足ラス

○證人ノ宣誓前ニ於テ偽證ノ罰ヲ諭示スルノ手續ヲ爲ササリシトキト雖
モ之カ爲メニ其爲シタル證言自體カ無効ニ屬スヘキモノニ非ス

第三百十條

○民事訴訟法第三百十條ニ從ヒ宣誓ヲ爲サシメスシテ訊問スルモノト雖
モ證人タルニ外ナラサレハ申請者ニ於テ既ニ證人喚問ノ申請ヲ取消シ
タル以上ハ參考人トシテモ訊問スルヲ得サルモノトス

○證人ハ宣誓ヲ爲サシメタル上之ヲ訊問スルヲ原則ト爲スモ民事訴訟法
第三百十條第一號乃至第五號ニ該當スル者ハ單ニ參考ノ爲メ訊問スル
コトヲ得ルノミニシテ之ニ宣誓セシムルコトヲ得サルモノトス

○民事訴訟法第三百十條ノ訴訟手續ノ違背ハ當事者ニ於テ何等ノ異議ヲ
述ヘサルトキハ裁判所カ其證言ヲ採用スルモ不法ニ非ス

(同法旨)

七	三五	三〇	三三	三二	三二
七	二	三	一	二	二
六五九	三	九	一七	二七	二七

三六	三九	四一	四五	四一	三六
七六八	三五九	三六九	二二〇	二二〇	二二〇

證人タル資格ナキ者ノ宣誓シタル證言ト雖モ當事者之ニ異議ヲ唱ヘサル以上ハ裁判所ハ其證言ヲ採用スルニ於テ何等ノ妨ナシ

(友對)

民事訴訟法第三百十條ニ掲ケタル者ハ總テ宣誓ヲ爲サシメス參考ノ爲メ訊問スルヲ得ヘキ者ナレハ之ニ對シ宣誓ヲ爲サシメ訊問スルハ不法ナリ隨テ其陳述ヲ採テ判斷ノ資料ニ供シタルモ亦違法ナリ

保證人ハ民事訴訟法第三百十條第五號ニ該當スル者ナルニ依リ宣誓ヲ爲サシメスシテ參考ノ爲メ之ヲ訊問スルヲ得ヘキモ普通證人ト同シク之ニ宣誓ヲ爲サシメタル上其證言ヲ採リテ裁判ノ資料ニ供シタルハ不法ナリ

證人カ當事者ト親族ノ關係アルトキハ民事訴訟法第三百十條ノ規定ニ從ヒ宣誓ヲ爲サシメスシテ之ヲ訊問セサルヘカラス故ニ之ニ宣誓ヲ爲サシメタル上其證言ヲ採テ判決ヲ爲シタルハ違法ナリ

證人トシテ呼出サレタル者カ當事者ノ提出セル證書ニ反對ノ證言ヲ爲セハ私書偽造若クハ變造行使ノ共犯人トシテ刑事訴訟ヲ招ク恐アルトキハ民事訴訟法第二百九十八條第三號第三百十條第四號ノ場合ニ該當ス故ニ其者ニ宣誓ヲ爲サシメタル上其證言ニ據リテ證書ノ眞正ナルコトヲ斷定シタル裁判ハ不法ナリ

訊問ニ付テノ答辯カ證人ノ刑事上ノ訴追ヲ招ク恐アル場合ニ於テ之ニ宣誓ヲ爲サシメ訊問シ其證言ヲ採用シタル判決ハ訴訟手續ニ違背セル不法ノ裁判ナリ

○民事訴訟法第三百十條第一號乃至第五號ニ列記シタル者ハ宣誓ヲ爲サシメスシテ參考ノ爲メニ訊問スヘキモノナルモ是レ亦證人ニシテ參考

人ト稱スヘキモノニ非ス

(同主旨)

民事訴訟法中參考人ノ名稱ヲ以テ規定シタル法條ナシ故ニ證人トシテ呼出シ參考ノ爲メ訊問スルモ違法ニ非ス

參考ノ爲メ訊問シタル者ニ證人ノ名稱ヲ用ヒ及ヒ其供述ニ證言ノ名稱ヲ附シテ之ヲ判斷ノ資料ニ供スルモ違法ニ非ス

民事訴訟法中宣誓ヲ爲サシメスシテ參考ノ爲メ訊問シタル者ニ對シ參考人ノ名稱ヲ付シタル規定ナケレハ此等ノ者モ證人ノ名稱中ニ包含スヘキモノトス

(友對)

對手者ノ代人カ若シ係争物件ノ一部ノ所有者ナルニ於テハ訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スヘキモノナルヲ以テ參考ノ爲メ訊問スルヲ得ルモ證人ト爲スヲ得サルハ法律ノ規定スル所ナリ然ルニ原院カ該代人ハ果シテ係争物件ノ一部ノ所有者タルヤ否ヤヲ判決セス且該代人ヲ證人トシテ訊問シ其證言ヲ採リタルハ争點ヲ判セスシテ法律ヲ不當ニ適用シタル不法ノ裁判ナリ

○宣誓ヲ爲サシメサル證人ノ供述ト雖モ裁判所カ之ヲ信用シテ判斷ノ資料ト爲スニ何等ノ妨ナシ

(同主旨)

民事訴訟法第三百十條ニ依リ事實參考ノ爲メニ訊問セラレタル者モ證人タルニ外ナラサレハ其者ノ供述ニシテ心證上採用スルニ足レリト思料スルトキハ裁判所ハ之ヲ採用シテ判斷ノ資料ト爲スニ何等ノ妨ナシ

三	三	三	三	三	三
八	九	三	四	五	六
二	七	四	六	七	八

三	三	三	三	三	三
八	九	三	四	五	六
二	七	四	六	七	八

ヲ得サルモノトス

(同(三))

訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者ヲ證人ト爲シ宣誓セシメテ訊問シタルハ手續上違法ナリト雖モ當事者ニ於テ之ニ對シ何等ノ異議ヲ申立テス該證言ニ據リ裁判ヲ受ケタル以上ハ後日ニ至リ其手續ノ違法ナルコトヲ理由トシテ裁判ヲ非難スルコトヲ得ス

裁判所カ訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者ヲ證人トシテ訊問スルニ當リ宣誓ヲ爲サシメタル場合ト雖モ當事者ニ於テ其不法ヲ責問セサリシ以上ハ之ヲ以テ上告ノ理由トスルヲ得ス

裁判所カ公權停止者ヲ證人トシテ訊問スルニ當リ宣誓ヲ爲サシメタル場合ニ於テ當事者カ何等ノ異議ヲ申立テサリシトキハ自ら責問權ヲ放棄シタルモノナルヲ以テ後日ニ至リ斯ル事由ヲ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

(第三百十二條)

『第三百十二條』

○現行民事訴訟法ハ事前ノ宣誓ヲ原則トスルヲ以テ裁判長ハ先ツ同法第二百九十九條所定ノ關係アリヤ否ニ付キ訊問ヲ爲シタル上宣誓ヲ爲サシムヘキヤ否ヲ決シ然ル後始メテ同法第二百二十二條所定ノ事項ニ付キ訊問ヲ爲スヘキモノトス

(第三百十六條)

『第三百十六條』

○證人訊問調書ニ民事訴訟法第三百十六條ノ命スル所ヲ記載セサルハ違法ナルモ此違法ハ其證人ノ供述ヲ裁判ノ資料ト爲スノ妨ト爲ラサルモノトス

(第三百十七條)

『第三百十七條』

○民事訴訟法第三百十七條ノ所謂證人ノ再訊問トハ同一審ニ於テ再ヒ同一ノ證人ヲ訊問スルノ義ナルカ故ニ同法第二百二十二條ニ依リ該規定ヲ鑑定ニ準用スル場合モ亦同一審ニ於テ再鑑定ヲ命スヘキ時ニ限ルモノトス

○裁判所ハ證人カ相牴觸シタル供述ヲ爲シタル場合ニ於テ其内一ヲ以テ眞實トシ明確ヲ缺ク所ナシト認メタルトキハ再訊問ヲ爲スヲ要セス又單ニ參考ノ爲メ供述ヲ聽キタル證人ノ證言ト雖モ信スルニ足ルモノト思料スルニ於テハ宣誓ノ上供述シタル證人ノ證言ト同一ニ之ヲ採用スルコトヲ得

○證人カ其供述更正ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テ該證人ノ供述ヲ採用セシムニハ其再訊問ヲ爲ササルヘカラス

(同(三))

宣誓ヲ爲シタル證人カ事實相違ノ供述ヲ爲シタルトキ裁判官渡前ニ在リテハ之ヲ更正シテ偽

民事訴訟法 第一審ノ訴訟手續 地方裁判所ノ訴訟手續 入證

四 五二〇

三 二九一

三 三九二

三 三三二

四 四三二

七 六五九

三 二七

三 二九〇

三 九六

三 三七

證ノ罰ヲ免ルルコトヲ得故ニ證人ヨリ其供述ノ更正ヲ申立テタル上ハ裁判所ハ民事訴訟法第三百十七條ニ從ヒ更ニ再訊問ヲ爲スニ非サレハ其供述ヲ採テ裁判ノ材料ニ供スルコトヲ得ス

○證人カ後日其供述ヲ補充シ又ハ更正セントスルニハ民事訴訟法第三百十七條ニ從ヒ證人ヨリ再訊問ヲ申請スヘキ途アルノミニシテ當事者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得ヘキ規定ナシ

○證人カ其供述ニ對シテ何等補充更正ヲ爲ササルトキハ其供述ハ錯誤ナキモノト認ムルヲ當然トス

第三百十九條

○受命判事若クハ受託判事ノ爲シタル裁判ノ變更ヲ求ムルニハ先ツ受命裁判所ノ裁判ヲ求メサルヘカラス

第三百二十一條

○裁判所ノ呼出狀ニ基キ出頭シタル證人ハ其證據決定ノ取消アリタルニ拘ハラヌ出頭ノ日當及ヒ費用ヲ請求シ得ヘク裁判所ハ之ヲ支給シ訴訟費用トシテ敗訴者ニ負擔セシムルコトヲ得ルモノトス

第七節 鑑定

○印影ノ眞否ニ付キ爭アリテ之ヲ鑑定セシムル場合ニ際リ其基本ト爲スヘキ印鑑ニ付キ爭アルヲ措キ其印鑑ニ基キタルハ適法ノモノニ非ス從

三〇	九	八〇
四一	一七三	
四二	一七三	
三	八	二〇
七		1057

テ此鑑定書ヲ裁判ノ材料ニ供シタルハ不法タルヲ免レス

○裁判所ハ鑑定人ノ說ニ從フノ義務ナキコト言フ 竣タス例之檢眞ノ上印影ノ同一ナルコトヲ認メタルトキハ即チ同村ニ同一ノ印願ヲ所持スルモノ兩三名アリトノ事ヲ證明セラレタル場合ノ如キハ確然某ノ印影ナリトノ心證ヲ得ルコト能ハサルヲ以テ鑑定ヲ採ラサルモ不當ニ非ス

○意見書ナルモノハ鑑定書ノ如ク熟事者ニ於テ宣誓ノ上調査シタル結果ヲ書面ニ調製シタルモノト異ナリ單ニ自己ノ所見ヲ書面ニ表ハシタルニ過キササルヲ以テ裁判上證據物件トシテ見ルヲ得ス故ニ之ヲ鑑定書トシテ裁判ノ資料ニ供シタルハ不法ナリトス

二七	三
二六	二九三

(聯)

○當事者ノ一方カ指名シタル鑑定人ニ對シ相手方ニ於テ異議ヲ述ヘサルトキハ裁判所ハ其鑑定人ヲシテ鑑定ヲ爲サシムルモ不法ニ非ス

○鑑定ハ檢眞ノ一方法ナルモ鑑定アリタルヲ以テ檢眞アリタルモノト爲スヲ得ス

○鑑定ハ當事者ノ申立有無ニ拘ハラヌ裁判官ノ心證補助ニ止マルモノナレハ之ヲ排斥スルニ付キ特ニ理由ヲ付スルノ要ナシ

○相手方ノ否認スル印章ハ直ニ採テ鑑定ノ對照物ト爲スヘカラスト雖モ裁判所カ其印章ヲ眞正ナリト判斷シテ之ヲ鑑定ノ材料ニ採用スルハ違

二九	四	九二
二九	五	二九
二八	一	六二
二五	一〇	二二

○裁判所カ鑑定人ノ選定ヲ受託判事ニ委任スルコトヲ得ルハ民事訴訟法第三百三十一條ノ規定スル所ニシテ之ヲ委任スルコトヲ證據決定ニ掲クルニ非サレハ委任スルヲ得サルノ規定ナシ

〔第三百三十三條〕

○鑑定ノ事項カ事物其物ノ表明ニ係ルトキハ民事訴訟法第三百三十三條ニ所謂人證ニ付テノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス

○過去ニ屬スル商品ノ市價カ幾何ナリシヤヲ鑑別セシムル場合ニハ鑑定ニ關スル規定ヲ適用スヘキモノニ非スシテ民事訴訟法第三百三十三條ニ依リ人證ニ付テノ規定ヲ適用スヘキモノトス

○係争時日ニ於テ或慣習ノ存在シタルヤ否ヤハ民事訴訟法第三百三十三條ニ所謂過去ノ事實ニ該當スルカ故ニ此等ノ事實ニ實驗アル者ノ訊問ニ因リ之ヲ證明スル場合ハ同條ニ依リ人證ニ關スル規定ヲ適用スヘキモノトス

○他人ヲ喚問シテ某地方ノ辯護士カ訴訟上金庫ニ供託ヲ爲ス場合ニ於ケル慣習ノ存否ヲ立證スル場合ニハ民事訴訟法第三百三十三條ニ依リ人證ニ付テノ規定ヲ適用スヘキモノトス

〔同主旨〕

他人ヲ喚問シテ或慣習ノ有無ヲ立證スルハ所謂鑑定證人ナルモノニシテ民事訴訟法第三百三十三條ニ依リ人證ニ付テノ規定ヲ適用スヘキモノトス

○民事訴訟法第三百三十三條ニ依リ人證ニ付テノ規定ヲ適用シテ訊問スヘキ鑑定人ニ對シ單純ナル鑑定人ニ付テノ規定ヲ適用シテ鑑定ヲ命シタル場合ト雖モ當事者ニ於テ何等ノ異議ヲ述ヘサルトキハ自ラ責問權ヲ拋棄シタルモノナレハ之ヲ以テ上告ノ理由トスルヲ得ス

第八節 書證

○村役場ニ於テ爲シタル證明ハ普通ノ公正證書ト同一視スヘキモノニ非ス

○官吏ノ資格ヲ以テ官廳ノ爲メニ債務ヲ約スルニ際シテハ證券印紙ノ貼用ヲ要セス官名ヲ用フルノ外官印若クハ廳印ヲ押捺スルヲ常トス乃チ茲ニ官名ノ肩書アルノミニテ私印ヲ押捺シ證券印紙ヲ貼用シタル證書アルトキハ之ヲ官廳ノ債務ナリト判定スルヲ得ス仍ホ其債務ヲ縣債ナリト主張セントスル者ハ相當長官ノ委任若クハ其他適法ノ方法ニ依テ之カ立證ヲ爲スノ責任ヲ有スルモノトス

○明治十七年中被上告人ヨリ上告人ニ宛テタル地所賣渡證書ニシテ之ニ所轄戸長代理筆生ノ奥書アリ且原院ノ口頭辯論書ニモ之ニ付テ當事者

元

一〇五

二元

三 六三

三元

一四〇

三元

三

三元

一六七

三元

一四五六

三元

四二二

二元

二 四

二元

二 三〇

- 間ニ異論アリシ形跡ヲ存セス斯ク公證ヲ經タル地所賣買證書ハ法律上ノ所謂公正證書ニシテ私署證書ニ非サルナリ
- 金錢判取帳ニ第三者カ義務者ノ爲メ支拂フ金錢ヲ記載スルモ其帳簿ノ性質ニ背カス
- 證書ニ印章押捺ノ有無ヲ判別スルハ事實上ノ關係ナルヲ以テ第二審ニ原本ノ調査ヲ請求シ其事實ノ確認ヲ經タル上ニ非サレハ上告審ニ於テ之ヲ押捺ナキモノトシテ立論スルコトヲ得ス
- 登記濟ノ認證アル地所書入證書ハ公正證書ニ非ス
- 證書ノ謄本トシテ記録ニ編入シアル上ハ裁判所ニ其證書ヲ提出シタルモノト看做ス
- 證書中ノ押印スヘキ要部トハ習慣上金額記載アル部分ノ如キモノヲ指シ期限ノ如キハ普通要部ト看做スヘキモノニ非ス
- 知覺精神ヲ喪失シタルモノニ非サル限ハ本人カ疾病其他ノ障礙ニ依リ自由ニ執筆スル能ハサル場合ニ於テ他人ノ扶助ヲ受ケ書記シタルモノハ本人ノ自筆タル效力ヲ有ス
- 公正證書ノ本質ハ其證書自體ニ限り存スルモノナレハ之ニ添附セル委任狀等ハ公正證書ノ一部ト看做スヘキモノニ非ス

二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元

- 一私人ヨリ村長ニ對シテ差出シタル改印届ノ如キ書面ハ村役場ニ保管スルモ公文書ト云フヲ得ス
- 共有地人名簿土地臺帳土地所有者名簿ノ如キモ公正證書ニ非ス故ニ此等ノ簿冊ハ裁判官ニ於テ自由ニ取捨シ得ヘキモノトス
- 當事者ノ一方ハ相手方ノ提出シタル證書ニシテ其立證點トセサル事柄ト雖モ之ヲ援用シテ自己ノ立證ニ供スルヲ得ルモノトス
- 當事者間ノ賣買取引等ヲ詳記シタル商業帳簿ト雖モ相手方所有ノ帳簿タル上ハ強テ閲覧ヲ求ムルノ權ナシ隨テ特ニ法律ニ於テ規定シタル場合ノ外獨立ノ訴ヲ以テ之カ閲覧ヲ求メ得ヘキモノニ非ス
- 公正證書カ其公正證書ナルコト及ヒ其記載事項ノ眞實ナルコトニ付テ反證アラサル間證據力ヲ有スルニハ必スヤ當該官吏若クハ公吏カ其管掌ノ事項ニ關シテ法令ノ規定ニ從ヒ作りタル文書ニシテ而カモ法令ノ規定シタル法式ヲ具備シタルモノナルコトヲ要ス(第二百十七條三三年五卷二三頁參照)
- (同前)
- 公正證書ハ官吏又ハ公吏カ職權ヲ以テ法律ニ定メタル方式ニ從ヒ作成シタルモノナルコトヲ要ス

二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元

第三百三十九條、第三百四十條

具タルト同時ニ買主ノ爲メニモ亦買受物品ノ數額品質及ヒ代價等ヲ證スルノ具ナリトス從テ民事訴訟法第三百三十六條第二號ニ所謂證書カ其旨趣ニ因リ舉證者及ヒ相手方ニ共通ナルモノニ該當ス

○當事者ノ一方カ相手方ノ手ニ存スル證書提出ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テハ縱令相手方カ之ヲ所持セサル旨ヲ申立ツルモ裁判所カ證書ニ依リ證スヘキ事實ヲ重要ナリト認メ且申立ヲ正當ト爲シタルトキハ相手方本人ヲ訊問シテ其取捨ヲ決セサルヘカラス

○當事者ノ一方ヨリ相手方ノ手ニ存スル證書ノ提出ヲ命センコトノ申立アルトキト雖モ裁判所ハ證書ニ依リ證スヘキ事實ノ重要ニシテ且申立ヲ正當ナリト認ムル場合ニ於テ相手方カ證書ノ其手ニ存スルコトヲ自命スヘキ限ニ在ラス

○民事訴訟法第三百三十九條、第三百四十條ノ規定ハ當事者ノ一方ヨリ書證提出ノ申請ヲ受理シタル裁判所カ其申請ヲ理由アリト思料シタル場合ニ相手方ニ對シテ其提出ヲ命スルノ前提トシ遵守スヘキ手續ナレハ書證提出ノ申請カ理由ナキ場合ニ於テハ直ニ之ヲ却下スルコトヲ得ルモノニシテ右規定ノ手續ヲ履踐スルノ必要ナキモノトス

第三百四十六條

○官吏ノ作成シタル報告書ニシテ一件記録ニ添附セラレ現ニ裁判所ニ提出シアルモノニ付テハ民事訴訟法第三百四十六條ニ規定スル證書送付ノ申立ヲ爲スヘキモノニ非ス從テ舉證者ハ唯之ヲ援用スレハ足ルモノトス

第三百四十九條

○他事件ノ證人訊問調書ノ寫ヲ證據ト爲シタル場合ニ於テ相手方カ該證書ノ成立ヲ認メタル以上ハ其正本若クハ認證謄本ヲ提出スルコトヲ要セス

第三百五十條

○一方カ取消シタル證據ニ付キ相手方カ其取消ヲ承諾セサルトキハ之ヲ證據トシテ採用スルモ不法ニ非ス

三三	二九	三三	三七
三	九	一	
七	二五	五	五〇
四			
三			
二			
一			
〇			

民事訴訟法第三百五十一條ニ所謂檢眞ヲ經タル私署證書トハ他ノ事件ニ於テ檢眞ノ裁判ヲ受ケ既ニ確定シタル私署證書ヲ指稱ス

民事訴訟法第三百五十一條ニ所謂檢眞ヲ經タル私署證書トハ他ノ事件ニ於テ檢眞ヲ經且其裁判ノ確定シタルモノヲ指稱ス

私署證書ノ眞否確定ノ申立ハ其證書カ他事件ニ於テ檢眞ヲ經其事件ノ既ニ終局シタル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス故ニ本案裁判前檢眞ノ裁判アルモ民事訴訟法第三百五十一條ニ據リ直ニ眞否確定ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

○商法第四百四十二條第二項ニ依リ町役場ニ問合ヲ爲シタル場合ニ於テ町長カ其問合ニ對シテ作りタル書面ハ公正ノ證書ナレハ其效力ヲ爭ハント欲スル者ハ眞否確定ノ申立ヲ爲ササルヘカラス

○民事訴訟法第三百五十一條ハ檢眞ノ裁判確定シタル私署證書ヲ指シテ之ヲ偽造若クハ變造ナリト主張スル場合ニ限り適用スヘキモノニシテ檢眞ノ裁判未タ確定セサル場合ニハ之ヲ適用スルコトヲ得ス

○當事者ヨリ證書ノ眞否ヲ確定センコトノ申立アラサル場合ニ於テ公證ノ効ナキ公正證書ヲ以テ普通ノ證書ナリト判斷スルカ如キ裁判ハ中間判決ヲ以テ爲スヘキモノニ非ス

○人民ノ進達ニ依リ官廳ニ保存セラレタル山林原野地調帳ハ法律上ノ所謂公正證書ニ非ス又之ニ付テ變造ノ申立ヲ爲シタルコトモナケレハ民

民事訴訟法第三百五十一條ニ據テ中間判決ヲ爲スヘキモノニ非ス

○公正證書又ハ檢眞ヲ經タル私署證書ニ對シ眞否確定ノ申立アルトキハ中間判決ヲ以テ其眞否ヲ確定スヘキモノナリ然レトモ私署證書ノ眞否ヲ確定シタル中間判決及ヒ本案ノ終局判決ニ對スル控訴ニ付テハ一箇ノ終局判決ヲ以テ同時ニ裁判ヲ爲スハ相當ナリ

『第三百五十二條』

○檢眞申立書中單ニ鑑定ノ事項ノミヲ掲クルトキハ鑑定ノ申出ト看做シ其手續ヲ盡セハ可ナリ

○檢眞ノ申立ハ單純ナル證據方法ニ非スシテ爭アル證據物件ニ付キ眞否ノ判斷ヲ求ムルモノナレハ受命判事ハ其爭ヲ斷スルノ權限ヲ有セス從テ受訴裁判所ニ其申立ヲ爲スヘキモノトス

○印影ノ眞否ハ一度檢眞ヲ經タルノミニテハ確定ノ效力ヲ有セス其訴訟事件終結ノ後ニ至リ確定スルモノトス

○私署證書ノ眞否ニ付キ爭アルトキハ必スシモ檢眞ノ方法ニ依ルヲ要セス諸般ノ立證方法ヲ以テ其證書ノ確實ナルコトヲ證明スルヲ得

(同第三條)

檢眞ノ申立ヲ爲ササリシ一事ヲ以テ證據方法ヲ拋棄シタルモノトシ他ノ理由及ヒ證據ノ有無

三〇	七	一
三〇	九	六七
三二	四	四〇
三五	一	三六
三九		一四五
二六	一	八九

二六	二	三五
三〇	八	三七
三二	三	八八
三九	六	七三
二九	八	一六
二九	二	八五

如何ヲ問ハスシテ直ニ排斥スルハ違法ノ裁判ナリ

私署證書ノ眞否ニ付キ争アルトキハ舉證者ノ申立ニ因リ檢眞ヲ爲スコトヲ得ルハ法律ノ命スル所ナレトモ此申立ヲ爲ササルニ於テハ絶對ニ證據力ヲ有セストノ法規ヲシ則チ舉證者ハ此申立ヲ爲ササルモ總テノ證據方法ニ依リ之ヲ證據立ツルヲ得

民事訴訟法第三百五十二條ハ私署證書ノ眞否ニ付キ争アルトキハ舉證者ハ檢眞ノ申立ヲ爲シ得ヘキ規定ニシテ之ヲ爲ササルニ於テハ如何ナル方法ヲ盡スモ證據力ヲ有セストノ法意ニ非ス

私署證書ノ眞否ニ付キ檢眞以外ノ立證方法ヲ許スヘカラサルモノトシテ舉證ヲ排斥シタルハ不法ナリトス

私署證書ノ眞否ニ付キ争アルトキハ必スシモ檢眞手續ニ依リ其眞否ヲ判定セサルヘカラサルモノニ非ス

民事訴訟法第三百五十二條ハ檢眞ヲ以テ私署證書ノ眞否ヲ定ムル唯一ノ立證方法ト爲シ他ノ方法ヲ許容セサル法意ニ非ス

私署證書ノ眞否ニ付キ争アル場合ニ於テ裁判所ハ檢眞ノ手續ニ依ラス他ノ方法ニ依リ其眞否ノ判斷ヲ爲スコトヲ得

私署證書ノ眞否ニ付キ争アルトキハ必スシモ檢眞ノ方法ニノミ依リ其眞否ヲ判定セサルヲ得サルモノニ非ス

私署證書ノ眞否ハ必スシモ檢眞ノ方法ニ由ルニ非サレハ立證シ得サルモノニ非ス故ニ裁判所ハ檢眞ノ申立ナキニ拘ハラス他ノ立證方法ニ依リ其證書中ノ或文詞ヲ正確ナリト認メ採用シタルハ不法ニ非ス

二五	二七	二八	二九	二九	二九	二九	二九	二九
一	一	三	一	一	一	一	一	一
一七	三〇	九九	九九	九九	九九	九九	九九	九九

(反對)

相手方ニ於テ私署證書ヲ認メサル場合ニハ必ス民事訴訟法ノ所謂檢眞ノ申立ヲ爲ササルハカラス唯對照スヘキ書類ヲ提出シテ本證書ノ眞正ナルコトヲ陳辯スルヲ以テ檢眞ノ申立ヲ爲シタルモノトハ云フヘカラス

相手方ニ於テ證書ヲ認メサルニ舉證者ニ於テ檢眞ノ申立ヲ爲ササル以上ハ法律上其證書ハ證據ノ效力ナキモノトス

○證書ノ成立ヲ認メ單ニ其期限ノ文字ニ變更アリトシテ争フ場合ニ於テハ檢眞ノ手續ニ由ルヲ要セス

(聯) ○檢眞ニ關スル中間判決ニ對シテハ本案ト共ニ上級審ノ判斷ヲ受クルヲ得ヘシ

(同審旨)

第一審裁判所方爲シタル檢眞ニ服セサルトキハ控訴ト共ニ第二審ニ於テ判斷ヲ受クヘキモノニシテ更ニ檢眞ノ申立ヲ爲スハ適法ニ非ス

檢眞ニ關スル中間判決ハ直ニ確定スヘキモノニ非ス故ニ之ニ對シテ不服ナルトキハ終局判決ノ控訴ト共ニ控訴審ノ判斷ヲ受クルヲ得ヘキモノトス

本案ノ判決以前ニ爲シタル檢眞ノ裁判ニ服セサルトキハ本案ノ判決ニ對スル上訴ト共ニスルニ非サレハ獨立シテ之方上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第一審ノ檢眞ノ裁判ニ對シ不服アルトキハ本案ノ控訴ト共ニ不服ヲ申立テ其判斷ヲ受クヘキモノトス

二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
一	一	一	一	一	一	一	一	一
一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七

○檢眞裁判ハ普通ノ中間判決ト同一ニシテ一旦其裁判ニ對シ不服ノ申立アリタルトキハ第二審裁判所ニ對シ羈束力ヲ有スヘキモノニ非ス

○私署證書ノ檢眞裁判ハ本案ノ裁判前ニ之ヲ爲ササルヘカラサル規定ナキヲ以テ本案ノ裁判ト同時ニ之ヲ爲スモ違法ニ非ス

(同主旨)

檢眞ノ裁判ハ本案ノ判決ト同時ニ爲スコトヲ得

檢眞ノ裁判ハ本案ノ判決ト共ニ之ヲ爲シ得ヘク必スシモ本案ノ判決以前ニ於テ爲スヲ要セス

檢眞ノ裁判ハ本案ノ判決前ニ於テ之ヲ爲スト其判決ト共ニ之ヲ爲ストハ裁判所ノ自由ニ屬ス

檢眞裁判ハ中間判決ニ依リ又ハ本案裁判ト同時ニ之ヲ爲スコトヲ得

(反對)

證書檢眞ノ裁判ハ終局判決前ニ之ヲ爲ササルヘカラス故ニ終局判決中ニ檢眞裁判ヲ爲シタル判決ハ不法ナリ

○本案ノ裁判ト同時ニ檢眞ノ裁判ヲ爲ストキハ特ニ其主文ヲ掲クルヲ要セス本案ノ裁判ノ理由中ニ檢眞裁判ヲ爲シタル所以ノ理由ヲ説明スレハ足レリ

○檢眞ハ私署證書ノ眞否ニ付キ争アル場合ニ於テ記名者ノ印章若クハ手跡等ヲ對照シ以テ其眞否ヲ判斷スルニ止マリ眞否ノ争ニ關セサル契約ノ成否ヲ裁判スルモノニ非ス

三	三	二	三	三	二	三	三
八	四	五	六	三	二	六	四
三	四	二	一	四	一	四	七
三	四	二	一	四	一	四	七
三	四	二	一	四	一	四	七
三	四	二	一	四	一	四	七
三	四	二	一	四	一	四	七
三	四	二	一	四	一	四	七
三	四	二	一	四	一	四	七
三	四	二	一	四	一	四	七

○當事者ノ署名ニ係ラサル證書中ノ署名文字ト他ノ文字トヲ對照比較シテ其異同ヲ判定シ以テ其證書ノ效力ヲ判斷スルカ如キハ一ノ證據調ニシテ證書ノ檢眞ニ非ス

○檢眞ノ申立ハ私署證書ノ眞否ニ付キ争アル場合ニ於テ其私署證書ニ依リテ證明セント欲スル者ニ限り之ヲ爲シ得ヘキモノニシテ其相手方カ之ヲ申立ツルハ不合法ナリ

(同主旨)

舉證者ニ於テ檢眞ノ申立ヲ爲ササルハ對照ノ書類ヲ提出セシトテ裁判所ハ進テ檢眞スヘキモノニ非ス

私署證書ノ舉證者ノ申立ヲキニ檢眞ヲ爲スハ違法ナリ

○民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ舉證者ノ申立ニ因リ私署證書ノ檢眞ヲ爲スハ當事者ノ一方カ之ヲ其相手方ヨリ出テタル私署證書ナリトシテ提出シタル場合ニ限ルモノトス

(同主旨)

民事訴訟法第三百五十二條「裁判所ハ舉證者ノ申立ニ因リ檢眞ヲ爲スコトヲ得」トハ訴訟當事者ノ筆跡等ニ付キ争アル場合ニ於テ其私署證書ノ眞否ヲ裁判スルノ義ニ外ナラス「當事者以外ノ者ヲシテ對照ノ文字ヲ筆記セシムルコトハ民事訴訟法ノ規定ナキ事柄ナルニ依リ云云」ト説明シタルハ相當ナリ

檢眞ノ申立ハ當事者一方カ相手方ヨリ受領シタリトシテ提出スル私署證書ニ付キ相手方カ其

三	三	二	三	三	二	三	三
八	四	五	六	三	二	六	四
三	四	二	一	四	一	四	七
三	四	二	一	四	一	四	七
三	四	二	一	四	一	四	七
三	四	二	一	四	一	四	七
三	四	二	一	四	一	四	七
三	四	二	一	四	一	四	七
三	四	二	一	四	一	四	七
三	四	二	一	四	一	四	七

リ爲スモノナレハ既ニ裁判所ニ於テ證據ニ依リ事實ヲ認定スルニ足レ
リト爲ス以上ハ本人訊問ヲ爲ササルモ民事訴訟法第三百六十條ノ規定
ニ牴觸スルモノニ非ス

〔第三百六十三條〕

○民事訴訟法第三百六十三條後段ノ規定ハ裁判所カ當事者本人ヲ訊問ス
ヘキ場合ニ於テ本人カ出頭セサル爲メ之ヲ訊問スルコト能ハサルトキ
ニ適用スヘキモノニシテ本人ヲ訊問セサル場合ニハ之ヲ適用スヘキモ
ノニ非ス

第一章 區裁判所ノ訴訟手續

第一節 通常ノ訴訟手續

〔第三百七十三條〕

○區裁判所ノ訴訟手續ニ於テハ反訴ハ判決ニ接著スル口頭辯論ノ終結ニ
至ル迄何時ニテモ之ヲ提起スルコトヲ得ルモノトス

〔第三百八十一條〕

○民事訴訟法施行條例第七條ハ民事訴訟法實施前ニ受理シタル勸解ハ同
法第三百八十一條ニ從ヒ和解ノ手續ヲ以テ完結スヘキコトヲ規定シタ

ルモノニシテ勸解トシテ受理シタル訴訟ノ實體ヲ變換シ和解ト爲スノ
精神ニ非ス

○裁判所ニ申請スル和解ハ必スシモ當事者雙方ノ讓歩示談ヲ目的トスル
ヲ要件ト爲スヘキ限ニ在ラス故ニ其申請ノ催告ノ效アリヤ否ヲ認ムル
ハ事實承審官ノ職權ニ屬ス

第二節 督促手續

○會社ノ代表權ナキモノニ對シ會社ニ係ル支拂命令及ヒ執行命令ヲ發シ
其代表權ナキモノニ對シ裁判確定スルモ之ニ干與セサル會社カ之ヲ認
メサル以上ハ其效力ニ羈束セラルルコトナシ

○支拂命令ノ原因タル債權ニ代ルヘキ示談契約ノ取結ハレタル以上ハ該
命令ニ因ル權利拘束ノ效力ハ實質ニ於テ存續スヘキモノニ非ス

(同主旨)

支拂命令ノ送達後示談契約ヲ爲シタルトキハ支拂命令ノ申請ニ因テ生シタル權利拘束ノ效力
ハ消滅ニ歸スルモノトス

○裁判所カ債權者ノ申請ニ依リテ支拂命令ヲ發シ而シテ該命令カ債務者
ニ送達セラレタルトキハ其申請ノ日ニ遡リテ出訴期間ヲ中斷スルモノ
トス

三六	二六
三〇	一六
三三	一四
三四	一〇
三三	一四
三四	一六

○支拂命令ノ效力ト之ヨリ生シタル權利拘束ノ效力ト兩ナカラ消滅セル場合ト雖モ裁判所ハ債權者ノ申請ニ因リ同一ノ請求ニ付キ再ヒ支拂命令ヲ發スルコトヲ得而シテ其新命令モ亦法令ニ定メタル效力ヲ有スルモノトス

第三百八十三條

○同一ノ手形ヨリ生シタル手形債務ヲ負荷セル者二人以上アル場合ニ於テ其債權者カ各手形債務者ニ對シテ支拂命令ヲ發セラレンコトヲ申請セントスルトキハ民事訴訟法第四百九十五條第二項ニ準據シ債務者中ノ一人カ普通裁判籍ヲ有スル地ノ區裁判所ニ其申請ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

○支拂命令ヲ發シタル區裁判所ニ土地ノ管轄違アル場合ト雖モ適法ナル債務者ノ異議申立アルトキハ督促手續ハ之ニ依リ終了スルモノナレハ其後ノ通常訴訟ノ管轄ニ付テハ民事訴訟法第三百八十三條第二項ノ適用ヲ受クヘキモノニ非スシテ同法第三十條第二十九條ノ適用アルモノトス

第三百八十七條

○支拂命令送達ノ際ニ定マリタル管轄ハ其後住所ノ變更アルモ受訴裁判

所ノ管轄ヲ變換セサルモノトス

○支拂命令ハ權利拘束ノ效力ヲ生スルモノニシテ當事者カ證券ヲ呈示シテ履行ノ請求ヲ爲ス場合ニ比スレハ一層有力ナル請求ニ付キ故ニ債務者ニ對シテ該命令ヲ送達スルトキハ付遲滯ノ效力ヲ生スヘシ

第三百九十一條

○支拂命令ノ申請ハ裁判所カ其命令ヲ發シ之ヲ債務者ニ送達シタルトキハ其申請ノ日ニ遡リテ出訴期限中斷ノ效力ヲ生スルモ債務者カ異議ヲ申立ヲ爲シ債權者ヨリ提起スヘキ訴カ地方裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ場合ニ於テハ其異議ノ通知書送達ヨリ一个月内ニ起訴ナキトキハ支拂命令ノ申請ハ出訴期限中斷ノ效力ヲ喪フモノトス

(反對)

債權者カ督促手續ニ依リ明カニ自己ノ權利ヲ行使スルノ意思ヲ表示シ其目的ヲ達スルカ爲メ支拂命令ヲ申請スルハ法律ノ許セル手續即チ事實ナリ債務者カ此手續即チ事實ニ對シ相當ノ時間ニ異議ヲ申立テタルカ爲メ支拂命令ノ效力ヲ失ヒ又ハ債權者カ異議申立ノ通知書送達ヨリ一个月ヲ經過スルモ管轄裁判所ニ訴ヲ起ササルカ爲メ權利拘束ノ效力ヲ失フトキト雖モ此手續即チ事實ハ決シテ消滅スルモノニ非ス其事實消滅セサル以上ハ隨テ期限中斷ノ效力アルモノトセザルヲ得ス

第三百九十三條

民事訴訟法 第一審ノ訴訟手續 區裁判所ノ訴訟手續 督促手續 一五八五

三七 九七四

三三 三九七

四 九三四

三三 一六

三七 九七四

三三 二

三六 三

二七 二〇二

○支拂命令ニ掲ケタル異議申立期間經過後債權者カ速ニ執行命令ノ申請ヲ爲ササルトキト雖モ之カ爲メ支拂命令ハ權利拘束ノ效力ヲ失フモノニ非ス從テ時效中斷ノ事由ハ尙ホ依然トシテ存續シ未タ終了セサルモノトス

○支拂命令ニ掲ケタル異議申立期間ノ經過後ニ於テ債務者カ異議申立ヲ爲ササルトキハ債權者ノ申請ニ因リ假執行ノ宣言ヲ付スルコトヲ得ルニ止マリ又假執行ノ宣言ヲ爲ス執行命令ニ對シテハ故障ヲ申立ツルコトヲ得ルモノナレハ支拂命令ニ掲ケタル異議申立期間ノ經過ニ因リ其裁判ノ效力確定シタルモノト謂フヲ得ス

〔第三百九十四條〕

○督促手續ニ於ケル支拂命令ニ付シタル執行命令ハ民事訴訟法第三百九十四條ニ依リ故障ヲ申立ラサルトキハ確定ス

○確定シタル執行命令ニ對シテハ再審ヲ求ムルノ訴ヲ爲スノ外不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

○民事訴訟法第三百九十四條ノ末段ハ債權者カ故障ヲ許ス判決確定ノ日ヨリ一个月ノ期間内ニ管轄裁判所ニ訴ヲ起ササルトキハ權利拘束ノ效力ヲ失フコトヲ定メタル迄ニシテ故障ヲ許ス判決ノ確定後ニ非サレハ

六	一六九四
三	一六九四
三	一六九四
三	一六九四
五	一六九四

訴ヲ起スコトヲ許ササル法意ニ非ス

○債務者カ訴訟能力者ト爲リタル後係爭執行命令ニ基ク債權者ノ執行ニ際シ該執行命令ノ送達ニ付キ何等異議ヲ主張スルコトナク任意ニ若干ノ金員ヲ執達吏ニ辨濟シタル事實アル以上ハ縱令該命令カ當時債務者自身ニ送達セラレ其法定代理人タル後見人ニ送達ナカリシ爲メ債務者ニ效力ヲ生セサリシトスルモ債務者ハ右事實ニ依リ該送達ノ無効ヲ理由トシテ執行命令ニ對シ異議ヲ主張スル權利ヲ拋棄シ之ヲ喪失シタルモノナルヲ以テ執行命令ニ對スル故障ノ申立ハ之ヲ許ササルモノトス

第三編 上訴

○一分判決ニ對シ上訴シタル場合ニハ其一分判決ヲ以テ裁判シタル請求ニ關スル訴訟ノ一分ノミ上訴審ニ繫屬ス

○上訴ハ自己ニ不利益ナル效果ヲ生スヘキ裁判ヲ受ケタルモノニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

〔同主旨〕

○不法ノ判決ニ依リ不利益ヲ受ケタル者ニ非サレハ其判決ヲ攻撃スルヲ得ス

○本案ノ判決以前ニ爲シタル檢眞ノ裁判ニ服セサルトキハ本案ノ判決ニ

四四	九三二
七	三六〇
二六	一七
三〇	一七
二八	二四
五	二四

トキハ原告ノ請求カ排斥セラルヘキ部分ニ付テハ附帶控訴ヲ爲スニ非サレハ其儘原告ノ不利益ニ確定スルモノトス

○被告カ第一審裁判所ニ於テ檢索ノ抗辯ヲ提出シタリトスルモ控訴裁判所ニ於テ之ヲ提出セサル以上同裁判所ハ進テ之カ判斷ヲ爲スヘキモノニ非ス

五

二九六

○被上告人カ控訴審ニ於テ第一審ノ證人ノ供述ヲ援用シタルニ拘ハラス上告人カ其證人訊問手續ノ不法又ハ第一審裁判所カ上告人ノ異議ヲ容レサリシコトノ失當ナル旨ヲ主張シタル事跡ナキ以上ハ上告人ハ責問權ヲ拋棄シタルモノト認メ得ヘキモノトス

五

七〇九

○第一審ニ於テ自己ノ申立通りノ判決ヲ受ケタル者カ第二審ニ於テ申立ヲ訂正スルニハ相手方ノ控訴シタル場合ニ於テ申立ノ訂正ヲ爲スヘク自ラ控訴又ハ附帶控訴ヲ爲スヘキモノニ非ス

六

一六八一

(同主旨)

控訴又ハ附帶控訴ハ原告若クハ被告カ自己ニ不利益ナル第一審判決ニ對シ不服ヲ申立ツル方法ナルヲ以テ第一審ニ於テ自己ノ申立ノ如キ判決ヲ受ケタル原告カ第二審ニ於テ申立ヲ訂正センニハ相手方ノ控訴ニ依リ單ニ訂正ノ申立ヲ爲スヘクシテ自ラ控訴又ハ附帶控訴ノ方法ヲ採ルヘキモノニ非ス

七

一三四七

元

七八〇

第三百九十六條

第三百九十七條

○第一審ノ裁判ニシテ其性質上決定ニ非スシテ判決ニ屬スヘキモノハ縱令口頭辯論ナル訴訟手續ヲ經スシテ之ヲ爲シタルトキト雖モ之ニ對シテ控訴ヲ爲スコトヲ得

○控訴ハ第一審ニ於ケル終局判決ニ對シ爲スヘキモノニテ決定命令ニ對シ爲スヘキモノニ非ス

二五

六九七

○判決ハ其主文ニ包含スルモノニ限り確定力ヲ有スルモノナルヲ以テ第一審判決主文ニ何等ノ宣明ナキ請求ニ付テハ縱令理由中ニ之ヲ棄却スヘキ旨ノ説明アルモ未タ判決ナキモノト爲ササルヘカラス從テ之ニ對シテ爲シタル控訴ハ許スヘカラサルモノトス

二

六四七

(同主旨)

第一審ノ判決主文ニ於テ原告請求ノ一部ニ付キ被告ニ辨濟ヲ命シタル場合ニハ爾餘ノ部分ハ該主文ニ包含セラレサルヲ以テ縱令理由中ニ説明スル所アリト雖モ未タ何等ノ終局判決ナキモノトス從テ其部分ニ對スル控訴ハ不適法ナリ(同一判例三七年一〇一六頁)

四

九八九

第三百九十七條

○防禦方法中ノ一抗辯ニ對シ爲シタル中間判決ニ付テハ獨立シテ控訴ヲ提起スヘキモノニ非ス隨テ終局判決ニ對シ控訴アリタルトキハ該中間

第三百九十七條

民事訴訟法 上訴 控訴

判決ニ對シ特ニ附帶控訴ヲ提起スヘキモノニ非ス

〔同主旨〕

證據ニ關スル中間判決ハ獨立ノモノニ非ス本案判決ニ對シ控訴アル以上ハ中間判決モ亦控訴セラレタルモノトス

○控訴又ハ附帶控訴ハ終局判決若クハ終局判決ト看做スヘキモノニ對シ爲スコトヲ得中間判決ニ對シ不服アルトキハ本案ノ判決ニ對スル上訴ト共ニ之ヲ申立テ判斷ヲ受クヘキモノトス

○訴訟ノ受繼ヲ許ス裁判ハ中間判決ニシテ終局判決ニ非ス故ニ之ニ對シ不服アルトキハ本案ノ裁判ト共ニ上訴ヲ爲シ得ヘキモ獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

○民事訴訟法第二百二十七條ニ於ケル一箇ノ獨立ナル防禦方法ニ對スル中間判決ハ終局判決ト看做スヘキ規定ナキヲ以テ終局判決ヲ竣ツニ非サレハ上訴ヲ爲スヲ得ス

〔第三百九十八條〕

○相手方ノ訴訟代理人カ合意ノ延期申請ヲ爲ス約束ニ背キタルカ爲メ期日ニ出頭セサルニ立至リ闕席判決ヲ受ケタル場合ノ如キハ民事訴訟法第三百九十八條但書ノ懈怠ナカリシコトノ中ニ包含セス

(第三百九十八條)

○民事訴訟法第三百九十八條但書ニ所謂懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキトハ事件ノ呼上ナカリシトキ又ハ呼出狀ノ送達ナカリシトキノ如キ其當事者ニ懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキヲ指稱スルコトイハズ

○民事訴訟法第三百九十八條但書ニ所謂懈怠ナカリシトハ期日ニ出頭シタルニ拘ハラス出頭セサルモノトシ又ハ適法ノ呼出ナキニ拘ハラス期日ヲ怠リタルモノト爲シタル如キ場合ノ義ニシテ俄然病氣ニ罹リ出頭若クハ期日變更ノ手續ヲ爲ス能ハサルカ如キ場合ハ之ニ包含セス

〔同主旨〕

民事訴訟法第三百九十八條但書ニ所謂懈怠ナカリシトハ期日ニ出延シテ辯論ヲ爲シタルニ拘ハラス懈怠シタルモノト認定シ又ハ辯論期日ニ適法ノ呼出ナキニ拘ハラス懈怠シタルモノト爲シタル如キ場合ニシテ俄然病氣ニ罹リ期日變更ノ手續ヲ爲ス能ハサル如キ場合ヲ包含セス民事訴訟法第三百九十八條ニ謂フ「懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキ」トハ當事者カ口頭辯論期日ヲ懈怠セサリシ場合ナルニ拘ハラス裁判所ハ其懈怠アルモノト誤認シ闕席判決ヲ爲シタルトキヲ示スモノナリ

〔友對〕

民事訴訟法第三百九十八條後段ハ闕席者ノ闕席カ天災其他避クヘカラサル事變等ニ原因シ全ク其者ノ懈怠ニ由ラザリシ場合ニ於テモ之ニ控訴スルノ權ヲ得セシムルノ注意ナリ故ニ故障ヲ許ササル闕席判決ニ對シテハ闕席ナカリシコトヲ理由トスルトキニ限リ控訴ヲ許スモノト爲シ當事者ノ闕席ハ懈怠ナカリシモノナルヤ否ヲ審理セス直ニ控訴ヲ不適法ナリトシテ棄却

民事訴訟法 上訴 控訴

二九七

二九八

二九九

三〇〇

三〇一

三〇二

三〇三

三〇四

三〇五

三〇六

三〇七

三〇八

三〇九

三一〇

三一〇

民事訴訟法第四百一條第一號ニ所謂「判決ノ表示」ハ控訴狀中何レノ部ニ掲載スルモ妨ナク又判決書ノ寫ヲ控訴狀ニ添付スルモ可ナリ

○控訴狀中原判決表示ノ部ニ別紙判決ノ全部ヲ記載スト掲ケ末尾ニ原判決正本寫ヲ添付シ其綴目ニ控訴人自ラ契印ヲ爲シタルトキハ該正本寫ハ控訴狀ト分離セル別紙ニ非スシテ其實控訴狀ノ一部ヲ成セルモノナルニ依リ第一審判決ハ適法ニ表示セラレタルモノトス

○控訴狀ニ判決ノ表示ヲ別冊トシテ添付スルモ不適法ニ非ス

○控訴狀中判決ノ表示ヲ缺クモ其送達前ニ別冊ヲ以テ之ヲ追完スルトキハ控訴ノ提起ハ適法ナリ

○第一審判決ノ主文其判決送達ノ年月日第一審記録ノ番號當事者雙方ノ住所及ヒ訴訟物ノ價格ノ記載アルモ第一審裁判所ヲ確知シ得ヘキ文詞ノ記載ナキ控訴狀ハ不適法ナリトス

○第一審裁判所ノ表示ナキ控訴狀提出後訴訟手續ノ中斷アリ受繼申立書ヲ提出シタル場合ニ於テ其申立書ニ第一審裁判所ノ表示アルモ控訴狀ノ欠缺ヲ補正スルノ效力ナキモノトス

○民事訴訟法第四百一條第二項第一號ニ所謂控訴セラルル判決ノ表示トハ控訴セラルル判決ヲ他ノ判決ト識別シ得ヘキ程度ニ表示スルコトヲ必要トスルノ法意ニシテ一定ノ書式ヲ必要トシタルモノニ非ス

○控訴狀ニ控訴セラルル判決ノ主文及ヒ言渡年月日ノ記載ナキモ其他ノ記載ニ依リ如何ナル判決ニ對シ控訴ヲ爲スヤヲ知り得ヘキトキハ其控訴狀ハ適法ナルモノトス

○控訴人カ判決ニ對シ控訴ヲ爲ス旨ノ陳述ヲ控訴狀ニ記載スルニ付テハ一定ノ形式アルニ非サレハ唯其記載ニ依リ控訴ヲ爲ス旨趣ヲ認メ得ルヲ以テ足レリトス

(同主旨)

民事訴訟法第四百一條第二號ニ「此判決ニ對シ控訴ヲ爲ス旨ノ陳述」トアルハ控訴狀中控訴提起ノ意見ヲ表明スヘキ訓示ニ過キサレハ特ニ控訴ヲ爲ス旨ノ文詞記載ナキモ控訴ヲ無効ト爲スヲ得ス

民事訴訟法第四百一條第二號ハ一定ノ書式ヲ必要トスルモノニ非ス控訴ヲ爲ス旨ノ意思ヲ明カニ表示シアルヲ以テ足レリ
民事訴訟法第四百一條ニ所謂「此判決ニ對シ控訴ヲ爲ス旨ノ陳述」トハ控訴狀ニ控訴ヲ爲ス旨ノ旨趣ヲ認メ得ヘキ記載アルヲ以テ足レリトス

○控訴狀ニ記載アル事項ニシテ口頭辯論中之ヲ陳述セサルトキハ其申立ナキモノト看做ス

(同主旨)

三〇	二元	二元	二元	二元	三元	四
三	八	一	三	二	六	二〇九
一五	一	二	四	三	五	二〇九

四	四	四	三	三	三	二元
二〇九	一四五〇	一四五〇	一〇	一〇	一	五
二〇九	一四五〇	一四五〇	五七	五七	一	一

或事項ヲ控訴狀ニ記載アルモ口頭辯論ノ際之ヲ陳述セザリシトキハ其申立ナキモノト看做ス
○請求ノ一定ノ目的物ハ訴狀ニ明記スヘキモノニシテ控訴狀ニハ一定ノ申立トシテ之ヲ詳載スルヲ要セス

(同主旨)

控訴狀申繼令一定ノ申立ヲ掲記セサルモ形式ヲ具備セサル違法アルモノト云フヲ得ス
控訴狀ニハ請求ノ目的ヲ記載スルヲ要セス唯如何ナル程度ニ於テ原判決ノ變更ヲ爲スヘキヤ
ノ申立ヲ掲ケ之ニ基キ申立ヲ爲スヲ以テ足レリトス

控訴狀申請ノ一定ノ目的物ニ付キ特ニ之カ申立ヲ爲ササルモ控訴ノ提起ト共ニ當然第二審
裁判所ニ繼續スルモノトス

控訴狀ニハ請求ノ一定ノ申立ヲ掲記スルノ要ナシ故ニ之ヲ更正スルニ付テハ民事訴訟法第二
百二十二條ノ規定ヲ遵守スルヲ要セス

一定ノ申立ハ第一審訴狀ノ記載ニ基キ爲スヘキモノナレハ控訴狀ニ特ニ之ヲ記載スルヲ要セ
ス故ニ第二審ニ於テ第一審訴狀ノ記載ニ基キ爲シタル一定ノ申立ハ有效ナリトス

○控訴スルニ當リ如何ナル程度ニ於テ不服ニシテ其判決ニ付キ如何ナル
變更ヲ爲スヘキヤノ申立ハ特ニ之ヲ掲ケサルモ之ヲ推知シ得ルヲ以テ
足り且該申立ハ判決ヲ受クヘキ事項ニ非サレハ民事訴訟法第二百二十
二條ノ規定ヲ遵守スルヲ要セサルモノトス

(同主旨)

控訴狀ニ於ケル不服ノ程度ハ民事訴訟法第四百一條ニ規定シタル控訴狀ノ必要條件ニ非ス

○控訴狀ニハ控訴院ヲ表示スヘキ文字ノ記載アレハ足ルモノニシテ其院
長若クハ部長ナル文字ノ記載ハ控訴狀ノ效力ニ影響ヲ及ホスコトナシ

○民事訴訟法第四百一條若クハ第四百二十條等ニ變更ナル文字アルハ本
案判決ヲ取消シ場合ニ之ヲ使用スヘシト云フ旨趣ヲ示スニ非スシテ當
事者ノ申立ナキモノハ上訴ニ於テモ審理ヲ爲サストノ原則ヲ明カニシ
タルニ外ナラス

(聯)

○第一審判決ノ勝訴者カ其判決送達後未タ控訴ノ提起アラサル間ニ死亡
シタル場合ニ於テ敗訴者ヨリ控訴ヲ提起セント欲スルトキハ控訴狀ニ

被控訴人トシテ勝訴者ノ承繼人ノ氏名ヲ記載スヘキモノトス

(聯)

○控訴狀ニ當事者ノ氏名ヲ表示スルコトハ其要件事項ニ非サレハ縱令被
控訴人トシテ死亡シタル勝訴者ノ氏名ヲ記載スルモ其承繼人カ控訴審
ニ於テ何等ノ異議ヲ申立テサリシトキハ援テ以テ上告ノ理由ト爲スヲ
得ス

(第四百二條)

『第四百二條』

○決定ニ對シ控訴アルトキハ控訴裁判官ハ其果シテ決定ニ對スルノ控訴
ナルヤ否ヤヲ調査スルノ職務ヲ有スルモノトス

三三	三五	三六	三九	四二	四三	四五	四七
五	三	五	九	一三	一三	一六	一七
九	六〇	六二	九七	一三三	一三三	一六	九七

三三	三二	三〇	二九	二九	三三	二九	三三
一〇	六	二	三	一	五	九	九
一五六	一	三	四	四	五	七	七

○附帶控訴ハ通例獨立ノ控訴ト看做スヲ得サルモノナレハ其提起ニ付テハ主タル控訴ニ付テノ總テノ必要條件ヲ具備スル書面ヲ要セス故ニ附帶控訴申立書ニハ原判決ノ表示ヲ爲ササルモ不法ニ非ス

○附帶控訴ノ目的カ主タル控訴ト同一ノ訴訟物ナルトキハ民事訴訟用印紙法第四條ノ法理ニ照準スヘキモノニシテ同法第五條ニ遵由スルヲ要セス

○當事者ノ一方カ一ノ訴ヲ以テ爲セル數箇ノ請求中ノ一若クハ二以上ニ關スル裁判ニ對シテ控訴ヲ爲シ其後他ノ一方カ他ノ請求ニ關スル裁判ニ對シテ控訴ヲ爲シタルトキハ縱令其各請求ノ原因カ同時ニ發生シタルモノニ非ス又其各請求額ニ差等アリトスルモノノ終局判決ニ依リテ其各請求ニ關スル裁判アリタルニ於テハ後ニ提起セル控訴ハ附帶控訴ナリトス

○被控訴人ハ第一審カ其請求ヲ却下シタル部分ヲ控訴審ニ於テ更ニ請求セントスル場合ニハ附帶控訴ニ依ルヘキモノナレトモ訴訟物其物ヲ變更セシテ單ニ其名稱ノミヲ訂正シ以テ第一審判決ヲ維持セントスルトキハ固ヨリ附帶控訴ニ據ルヘキモノニ非ス

○附帶控訴ハ相手方ヨリ控訴ヲ提起シタル場合ニ其控訴ニ隨伴シテ提起スルコトヲ許シタル特別ノ上訴方法ナリトス故ニ附帶控訴ハ必スヤ相手方カ控訴ヲ以テ不服ヲ申立テタル判決ニ對スルモノナラサルヘカラス

○民事訴訟法第四百五條ハ一ノ訴ニ於テ一箇ノ請求ヲ爲シタルト將タ數箇ノ請求ヲ爲シタルトヲ問ハス第一審裁判所カ同一ノ判決ヲ以テ當事者雙方ニ對シ各一部勝訴ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テ當事者ノ一方ヨリ控訴ヲ提起シタルトキハ相手方ハ自己ノ控訴ヲ拋棄シ又ハ控訴期間ノ經過セルトキト雖モ附帶控訴ヲ爲シ得ヘキコトヲ規定シタルモノトス

(同主旨)
民事訴訟法第四百五條ハ一ノ訴ニ於テ數箇ノ請求ヲ爲シタルト本訴及ヒ反訴ニ於テ各請求ヲ爲シタルトニ拘ハラズ第一審裁判所カ同一ノ判決ヲ以テ各請求ニ對シ裁判ヲ爲シタル場合ニ於テ該判決ニ對シ控訴人ヨリ控訴ヲ提起シタルトキハ被控訴人ハ自己ノ控訴ヲ拋棄シ又ハ控訴期間ノ經過シタルトキト雖モ附帶控訴ヲ爲シ得ヘキコトヲ規定シタルモノトス
一ノ訴ヲ以テ起シタル數箇ノ請求又ハ本訴ト反對ノ請求ニ對シ一ノ判決ヲ以テ雙方ニ勝敗ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ於テ一方ヨリ控訴ヲ起シタルトキハ其相手方ハ縱令控訴期間ノ經過後ト雖モ控訴ノ繫屬中ハ之ニ對シ附帶控訴ヲ爲シ得ヘキモノトス

○第一審裁判所カ一箇ノ判決ヲ以テ本訴竝ニ反訴ノ裁判ヲ爲シタル場合

三六	一五二四
三七	一五八九
三六	一六〇
四〇	一七九

三六	七九二
三五	七一
三〇	二七
三〇	二七

(聯)

○民事訴訟法第九十七條ノ規定ハ控訴審ノ裁判ニモ適用スヘキモノナ
レハ訴ノ原因ニ變更ナシトスル第二審ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツ
ルコトヲ得ス

(同主旨)

訴ノ原因ニ變更ナシトスル裁判ニ對シ不服ヲ申立ツルコトヲ得ストノ民事訴訟法第九十七
條ノ規定ハ單ニ地方裁判所ノ裁判ニ對スル場合ノミナラス控訴院ノ裁判ニ對シテモ一般ニ適
用スヘキモノトス

民事訴訟法第九十七條ニ所謂訴ノ原因ニ變更ナシトスル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコ
トヲ得ストノ規定ハ同法第四百八條ニ依リ控訴ノ裁判ニ之ヲ準用シ得ルモノトス

○被上告人カ第一審判決中自己勝訴ノ部分ニ對シ爲シタル控訴ハ控訴審
ニ於テ之ヲ不適法トシテ却下スヘキモノナルニ拘ハラズ之ヲ遺脱シタ
ルハ瑕疵アルモノナリト雖モ追加判決申立ノ方法ニ依リ其補充ヲ求ム
ルハ格別此點ニ對シ上告ヲ爲シタルハ失當ナリトス

○控訴裁判所カ本案ノ終局判決ノ理由中ニ訴ノ原因ニ變更ナシトノ宣言
ヲ爲シ右終局判決ハ上告審ニ於テ本案ノ理由ニ基キ破毀セラレタルト
キハ其理由中ニ宣言セル訴ノ原因ニ變更ナキ旨ノ裁判ハ破毀セラレス
シテ存シ依然トシテ其確定ノ效力ヲ有スルモノトス

(第四百九
條)

『第四百九條』

(第四百十
一條)

『第四百十一條』

○當事者雙方ヨリ控訴ヲ爲シ其兩控訴ニ付キ各別ニ判決原本ヲ作り且之
ヲ言渡ス場合ニ於テ其一方ノ理由ヲ他ノ一方ノ理由ニ援用シ又ハ重複
ナル點ニ於テ爭點ノ摘示又ハ理由ヲ省畧スルモ爭點及ヒ理由ヲ缺キタ
ル不法ナシ

○控訴裁判所ノ辯論範圍ハ口頭辯論ニ於テ當事者カ書面ニ基キ不服ヲ申
立テタル事項ニ因リ定マルモノトス

(第四百十
二條)

『第四百十二條』

○第一審ノ闕席判決ニ於テ訴ノ却下ヲ言渡シタルハ請求ノ棄却ヲ言渡シ
タルト同一ナルヲ以テ控訴審ニ於テ其闕席判決ヲ維持セラレタシトノ
申立ハ相手方ノ請求ヲ棄却セラレタシトノ意ニ外ナラス

○第一審ニ於ケル檢眞ノ手續ハ第二審ニ於テ其效力ヲ有スルモノニ非サ
ルヲ以テ當事者カ之ヲ演述セサルニ於テハ第二審裁判所ハ之ヲ斟酌ス
ルヲ要セス

(第四百十
三條)

『第四百十三條』

○訴訟ノ原因タル謝金契約ニ瑕疵アルニ因リ無効ニ歸シタルトキハ其名
義ヲ勞力費トシテ請求スルモ同一ノ契約ニ基ク以上ハ其請求モ亦相立

民事訴訟法 上訴 控訴

三五
四
三〇

三三
九
六一

三九
二七四

七
二五九

七
一四九四

二元
四
五〇

二元
三
三

三元
七
二

三
七
七〇

タサルモノトス若シ他ノ原因ニ基キテ請求スルモノトセハ訴ヲ變更スルモノナルヲ以テ更ニ起訴ノ手續ヲ爲ササルヘカラス

○訴名ハ訴ノ提起又ハ控訴提起ノ要件ニ非サルヲ以テ控訴審ノ訴名カ第一審ノ訴名ト其文字及ヒ意義ヲ異ニスルモ訴ノ變更ニ非ス

○第二審ニ於テ一定ノ申立ノ意味ヲ補充スル爲メ其申立ノ語句ヲ附加シ又ハ變更スルハ訴ノ變更ニ非ス

(同主旨)

第一審ト第二審トノ請求ニ付キ文字上ノ相違アルモ全體ノ訴旨ニ於テ變更スル所ナケレハ之ヲ以テ訴ノ變更ト云フヲ得ス

○第一審ニ於テハ或金員ヲ一己ノ貸金ナリト主張シ第二審ニ於テハ講金ナリトシテ請求ヲ爲スハ訴ノ原因ヲ變更セル不法アルモノトス

○民事訴訟法ニ所謂訴ノ變更トハ訴ノ原因即チ原告ノ主張スル權利ノ因テ生シタル法律關係ノ變更ヲ云フ

○第一審ニ於ケル一定ノ申立ニ於テ假若干俵ヲ辨濟スヘク若シ現物存在セサルトキハ代金若干ヲ辨濟スヘシトノ主旨ニテ請求ヲ爲シ第二審ニ於ケル一定ノ申立ハ單ニ其代金ノミノ辨濟ヲ請求スルハ訴ノ原因ヲ變更シタルモノニ非ス

○第一審ニ於テ債務者數名ニ對シ單ニ債務辨濟ノ申立ヲ爲シ第二審ニ至リ更ニ連帶辨濟ノ申立ヲ爲スハ法律上ノ申述ヲ補充シタルモノニシテ訴ノ原因ヲ變更シタルモノニ非ス

(同主旨)

第一審ニ於テ單ニ辨濟ノ請求ヲ爲シ第二審ニ於テ連帶辨濟ヲ求ムルハ法律上ノ申述ヲ補充スルニ止マリ訴ノ原因ヲ變更シタルモノニ非ス

○控訴審ニ至リ利息ノ辨濟ヲ添加シ請求スルハ民事訴訟法第九十六條

第二號ニ該當スルモノニシテ訴ノ變更ニ非ス

○第二審ニ於テ損害賠償ノ請求ヲ現物引渡ノ請求ニ改ムルハ新ナル請求ニシテ許スヘキモノニ非ス

○被控訴人カ第二審廷ニ於テ訴ノ原因ヲ變更シタルトキハ第二審裁判所ハ中間判決ヲ以テ「被控訴人カ前ニ爲シタル控訴棄却ノ申立ヲ取消ササル限り第一審ト同一ノ訴ノ原因ニ基キ辯論ヲ爲スヘキ」旨ヲ言渡スヘキモノニシテ之カ爲メ直ニ第一審判決ヲ變更シ其請求ヲ棄却スヘキモノニ非ス

○賃貸借ト地上權トハ全ク其法律關係ノ性質ヲ異ニスルカ故ニ控訴審ニ於テ賃貸借ヲ變シテ地上權ト爲スハ訴ノ變更ニ屬シ許スヘカラサルモ

三四	二八	二九	二七	二九	二九	三〇
三五	二五	二二	二二	二二	二二	二二
八九	五七	二六	四七五	二六	二六	二六

ノタリ

(聯)

○訴ハ原因ト目的ト相疎テ成立スルモノナルカ故ニ民事訴訟法第九十五條第三號ノ規定中ニハ自ラ訴ノ變更ヲ包含シ第四百十三條ノ規定中ニハ自ラ訴ノ原因ヲ包含スルモノト解釋スルヲ相當トス

○第一審廷ニ共有山林分割ノ履行訴訟ヲ提起シ控訴審ニ至リ一定ノ申立ヲ變更シ「總テノ山林ヲ分割シ其二分ノ一ヲ控訴人ニ取得セシムヘシ」トノ申立ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ先ツ其不明瞭ナル申立ヲ釋明セシメ若シ其申立ニシテ確認訴訟ニ改ムルノ旨趣ナリトセハ確認訴訟トシテ之ヲ許シ得ヘキ事件ナルヤ否ヤヲ調査シ以テ相當ノ判決ヲ與フヘキモノトス

○起訴者カ第一審ニ於テ係争地ノ讓與ハ虛偽ノ意思表示ニシテ法律上無効ナリト主張シ第二審ニ至リ親權者カ幼者ノ財産ヲ舉ケテ他人ニ無償讓與ヲ爲スカ如キハ無効ナリト主張スルハ最初ノ請求原因ト相容レサル新原因ヲ附加セルモノニシテ訴訟法上許スヘカラサル所ナリ

○一定ノ申立ノ變更ハ民事訴訟法第九十六條ノ規定ニ於ケル事項ヲ除ク外一定ノ原因ノ變更ト均シク同法第四百十三條所定ノ訴ノ變更ニ該當セルモノトス

○一定ノ請求原因ニ對シ第一審ノ判決アリタルトキハ第二審ニ於テハ縱令當事者ノ合意アルモ其原因ノ變更ヲ許サス裁判所モ亦之ヲ變更シ得サルモノトス

○土地所有者カ借地契約ノ滿期後借地人ニ於テ故ナク其地所ヲ使用シ居ルトノ事實ニ基キ之カ明渡ヲ請求シ控訴審ニ至リ明治三十三年法律第七十二號ニ依リテ地上權者ト推定スルモ滿二個年ノ地料ヲ支拂ハサル爲メ該地上權ハ全ク消滅ニ歸シタリトノ新事實ヲ提出シ同裁判所カ之ヲ認容シ地料不拂ノ新事實ニ因リ其請求ヲ至當ト爲シ地所ノ明渡ヲ命シタル裁判ハ違法ナリ

○起訴者カ第二審ニ至リ第一審ニ於テ定マレル申立ヲ變更シタルトキハ其變更セル申立ノ部分ハ中間判決ヲ以テ之ヲ却下シ第一審ニ於テ既ニ定マリタル申立ニ基キ辯論ヲ爲サシメ之カ裁判ヲ爲スヘキモノトス
○第一審ニ於テハ手形金ノ請求ニ付キ法定ノ手續ヲ盡ササリシ爲メ償還請求權ヲ失却シタルコトヲ主張シ相手方カ裏書讓渡ノ對價トシテ受取リタル金員ノ返還ヲ求メ第二審ニ至リ手形ノ無効ナル事實ヲ主張シ無効手形ノ對價トシテ受取リタル金員ノ返還ヲ要ムルハ訴ノ變更ナリトス

三四 一〇 八六

三五 九 三三

三六 六 一〇

三七 六八 六八

三八 一三三

三九 一〇

四〇 三三

四一 三三

四二 三三

三七 一六〇

三六 一七二

三五 一七二

三四 一七二

三三 一七二

三二 一七二

三一 一七二

三〇 一七二

二九 一七二

二八 一七二

二七 一七二

二六 一七二

二五 一七二

二四 一七二

二三 一七二

二二 一七二

○金錢ノ消費貸借關係ヲ訴ノ原因トスル者カ第一審裁判所ニ於テハ單ニ貸借關係存在ノ事實ノミヲ陳述シ其目的タル金錢ハ現實ニ之ヲ授受シタルモノナルヤ又ハ現存ノ債務ヲ消費貸借ノ目的ト爲シタルモノナルヤニ付テ詳細ノ申立ヲ爲サス第二審裁判所ニ至リ始メテ之ニ關スル詳細ノ事實ヲ供述スルハ事實ノ補充ニシテ訴ノ變更ニ非ス

○原告カ第二審ニ至リ最初訴ノ一定ノ原因中ニ記載シタル法律關係成立ノ日時ヲ更正スルモ之ヲ以テ訴ノ變更ト云フヲ得ス

○第一審ニ於テハ親族會決議ノ手續不法ナル事實ヲ以テ請求ノ原因ト爲シ第二審ニ至リ新ニ該決議ニ因リテ選定セラレタル後見監督人ノ不適當ナリトノ事實ヲ附加スルハ訴ノ變更ニ外ナラス

○起訴者カ第一審ニ於テハ舊商法第八百七條ニ所謂爲替ノ原則ニ從ヒ單ニ爲替手形ノ支拂ヲ爲シタルコトヲ原因トシテ爲替資金ノ請求ヲ爲シ第二審ニ至リ當事者間ニハ爲替資金ヲ供スヘキ契約アルニ相手方カ之ヲ履行セサルコトヲ原因トシテ該資金ノ交付ヲ要ムルハ訴ノ變更ナリトス

○連帶債務者ノ一人カ債務ヲ辨濟シタル後他ノ債務者ニ對シテ求償權ヲ行フニ當リ第一審ニ於テハ連帶辨濟ヲ請求シ第二審ニ至リ其一名ノミ

ニ對シ負擔部分ヲ請求スルモ之ヲ以テ訴ノ原因ヲ變更シタルモノト云フヲ得ス

○起訴者カ相手方ト締結セル盟約ヲ原因トシテ所有權移轉登記ヲ請求シタル場合ニ第一審ニ於テハ該盟約中或事項ノミヲ主張シ第二審ニ至リ他ノ事項ヲ擴張シテ主張スルモ之ヲ以テ一定ノ原因ニ反シ若クハ其原因ヲ變更シタルモノト云フヲ得ス

○第一審ニ於テハ被告カ原告ノ所有ニ屬スル建物ニ對シテ擅ニ自己所有ノ保存登記ヲ爲シタルモノトシ登記ノ抹消ヲ求メ第二審ニ至リ當事者間ノ虛偽ノ意思表示ニ基キ該建物ノ保存登記ヲ爲シタルモノトシ之ヲ原因トシテ其抹消ヲ要ムルハ訴ノ變更ナリトス

○消費貸借ノ法律行爲ヲ請求ノ原因トスル者カ第一審ニ於テハ其貸借ノ目的タル舊債務ハ賣買代金ナリシ事實ヲ主張シ第二審ニ於テハ其舊債務ハ債權者ノ交替ニ因ル更改ニ因リテ自己ノ債權ニ歸シタル旨ヲ主張スルモ是レ請求原因ノ成立以前ニ於ケル沿革ノ事實ヲ變更シタルニ過キサレハ之ヲ目シテ請求ノ原因ヲ變更シタルモノト謂フヲ得ス

○金圓支拂ノ契約ヲ請求ノ原因トスル者カ其約定金ノ支拂ヲ受クヘキ場合トシテ第一審ニ於テハ二箇ノ事實ヲ主張シ第二審ニ至リ更ニ一箇ノ

三元 三元 三元 三元

一四二 四七 一七四 一〇六

三元

一五四五

三元

一六九〇

四

八三

四

七三

新事實ヲ加フルモ同一ノ契約ニ包含スル事項トシテ其新事實ヲ主張スルトキハ之ヲ目シテ新ナル訴ヲ提起シタルモノト謂フヲ得ス

四三

四三五

○消費貸借ノ成立シタル事實關係ヲ以テ訴ノ原因ト爲シタル場合ニ於テ其關係ハ代理人ニ依リテ成立シタル旨主張シタルヲ後ニ至リ縱令其代理權限ナシトスルモ本人ノ追認ニ因リテ效力ヲ生シタル旨附加シタルハトテ原因ノ一定ヲ缺キ若クハ新原因ヲ附加シタルモノト爲スヲ得ス
○經界確定ノ訴ニ於ケル申立ハ兩隣地間ノ經界線ヲ定ムル判決ヲ求ムルニ在レハ原告ノ指示セル經界線ハ單ニ判決ノ資料タル事實上ノ陳述ニ過キサルヲ以テ之カ變更ハ訴ノ變更ヲ來ササルハ勿論所有權ノ範圍ニ爭アル場合ニ於テ其範圍ヲ脱セサル以上裁判所カ當事者ノ指示セサル經界線ヲ確定スルモ申立テサル事物ヲ當事者ニ歸シタルモノト謂フヲ得ス

四

七〇五

○訴ノ原因トハ請求權ノ發生スル法律關係ノ成立事實ヲ指スモノナレハ原告カ法律關係ノ成立事實ニ屬セサル主張事實ヲ變更スルモ之ヲ以テ訴ノ原因ヲ變更シタルモノト云フヲ得ス

五

四三四

○起訴者ニ於テ第一審以來係争不動産質權カ民法實施前存續期間ノ經過ニ因リ消滅シタルコトヲ請求原因ト爲シタル以上ハ第二審裁判所カ該期限ヲ以テ質地ノ受展期間ヲ定メタルモノトシ其到來後民法ノ實施ニ因リ同法及ヒ施行法ヲ適用スル結果尙ホ十年ヲ經過セル日ニ質權ノ消滅シタルコトヲ判示スルモ之ヲ以テ起訴者カ原因事實ヲ變更シ又ハ裁判所カ其變更事實ニ基キテ裁判ヲ爲シタルモノト謂フヲ得ス

五

一三六八

○當事者カ控訴審ニ於テ訴ノ變更ヲ爲シタル場合ハ常ニ必スシモ中間判決ヲ以テ新訴ヲ却下スル旨ノ言渡ヲ爲スコトヲ要セス終局判決ノ理由中ニ訴ノ變更アルコトヲ判斷スルモ不法ニ非ス

五

一五八

○民事訴訟法第五百四十九條ニ依ル假差押ニ對スル執行異議ノ訴ハ第三者カ原告トシテ執行ノ目的物ニ付キ所有權其他目的物ノ讓渡若クハ引渡ヲ妨クル權利ヲ主張シ以テ相手方ノ權利ノ實行ヲ否認スルニ外ナラサレハ訴訟中假差押カ強制執行トシテ存續スルニ至リタルトキハ原告ハ假差押ヲ許ササル旨ノ判決ヲ求ムル申立ヲ強制執行ヲ許ササル旨ノ判決ヲ求ムル申立ニ訂正スルコトヲ得ルモノトス而シテ斯ル訂正ハ民事訴訟法第九十六條第一項第一號ニ所謂申述ノ更正ニ該當シ申立ノ變更若クハ其擴張ニ屬セス
○原告カ係争贈與契約ハ第一審ニ於テハ當然無効ナリト言ヒ第二審ニ於テハ之ヲ取消ニ因リ無効ナリト主張スルモ均シク同一ナル贈與契約ノ

五

一七六

無効ナルコトヲ主張スルモノナレハ之ヲ以テ訴ノ原因ヲ變更シタルモ

六

七六九

○一定ノ期限ヲ定メタル貸借契約ニ付キ賃借人カ賃料ノ支拂ヲ爲ササ

六

七六九

ルニ因リ賃借人ヨリ賃借人ニ對シ賃料並ニ損害金ノ支拂ヲ請求スル場

六

七六九

合ニハ貸借ノ期間内ハ賃料又其期間後ハ賃料ニ相當スル損害金ノ支

六

七六九

拂ヲ求ムルノ旨趣ト解スルヲ相當トス從テ原告カ第一審ニ於テハ賃料

六

七六九

ノ名稱ヲ用ヒ又第二審ニ於テハ期限ノ前後ヲ區別シテ賃料及ヒ損害金

六

七六九

ノ名稱ヲ用ヒタリトテ之ヲ以テ直ニ訴ノ原因ヲ變更シタルモノト云フ

六

七六九

ヲ得ス

六

七六九

○控訴審ニ於テ當事者カ訴ノ原因ヲ變更シタルトキハ其變更シタル訴ヲ

六

七六九

新訴ト看做シ之ヲ却下スヘク既ニ適法ニ提起セラレタル控訴ハ之ヲ存

六

七六九

續セシメ從來ノ主張ニ係ル原因ニ付キ辯論ヲ經テ裁判ヲ爲ササルヘカ

六

七六九

ラス

六

七六九

○同主旨

六

七六九

起訴者カ控訴審ニ於テ訴ノ變更ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ中間判決ヲ以テ其變更シタル點ノ

六

七六九

ミヲ排斥スヘク之カ爲メ訴其モノヲ却下スヘキモノニ非ス

六

七六九

起訴者カ控訴審ニ至リ一定ノ申立ヲ變更セル場合ニ於テハ其變更シタル訴ヲ以テ新訴ト看做

六

七六九

シ中間判決ヲ以テ其新訴タル部分ノミヲ却下シ既ニ適法ニ提起セラレタル控訴ハ尙ホ之ヲ存

六

七六九

續シテ辯論ヲ爲サシムヘキモノトス

六

七六九

『第四百十四條』

六

七六九

○訴訟能力ノ欠缺又ハ法律上代理ノ欠缺ノ抗辯ハ職權調査ニ屬スル事項

六

七六九

ナルヲ以テ當事者ハ其過失ニ非スシテ第一審ニ提出シ能ハサリシコト

六

七六九

ヲ疏明スルノ要ナク第二審ニ於テ之ヲ提出シ得ヘキノミナラス決シテ

六

七六九

之ヲ拋棄スルコトヲ得サルモノトス

六

七六九

『第四百十五條』

六

七六九

○第一審ニ於テ單ニ請求權ノ辨濟ヲ主張シ出訴期限規則ヲ援用セサルモ

六

七六九

第二審ニ至リ之ヲ申立ツルトキハ其援用ノ權利ヲ拋棄セリト云フヲ得

六

七六九

ス

六

七六九

○強制執行異議ノ訴ニ於テ起訴者カ控訴審ニ至リ辨濟スヘキ金額ヲ供託

六

七六九

シ其事實ヲ新ニ提出シタルカ如キハ訴ノ變更ニ非スシテ民事訴訟法第

六

七六九

四百十五條ニ所謂新ナル事實トアルニ該當スルニ付キ控訴審ニ於テモ

六

七六九

其提出ヲ許ササルヲ得ス

六

七六九

○民事第四百十五條ニ所謂時効ノ援用ハ民事訴訟法第四百十五條ニ所謂

六

七六九

防禦方法ニ外ナラサレハ第一審ニ於テ時効ヲ援用セサリシ當事者ハ自

六

七六九

(第四百十四條)

(第四百十五條)

(第四百十五條)

シ中間判決ヲ以テ其新訴タル部分ノミヲ却下シ既ニ適法ニ提起セラレタル控訴ハ尙ホ之ヲ存

三七

一〇三三

『第四百十四條』

○訴訟能力ノ欠缺又ハ法律上代理ノ欠缺ノ抗辯ハ職權調査ニ屬スル事項

三四

五

七三

ナルヲ以テ當事者ハ其過失ニ非スシテ第一審ニ提出シ能ハサリシコト

三四

五

七三

ヲ疏明スルノ要ナク第二審ニ於テ之ヲ提出シ得ヘキノミナラス決シテ

三四

五

七三

之ヲ拋棄スルコトヲ得サルモノトス

三四

五

七三

『第四百十五條』

三四

五

七三

○第一審ニ於テ單ニ請求權ノ辨濟ヲ主張シ出訴期限規則ヲ援用セサルモ

三四

五

七三

第二審ニ至リ之ヲ申立ツルトキハ其援用ノ權利ヲ拋棄セリト云フヲ得

三四

五

七三

ス

三四

五

七三

○強制執行異議ノ訴ニ於テ起訴者カ控訴審ニ至リ辨濟スヘキ金額ヲ供託

三四

五

七三

シ其事實ヲ新ニ提出シタルカ如キハ訴ノ變更ニ非スシテ民事訴訟法第

三四

五

七三

四百十五條ニ所謂新ナル事實トアルニ該當スルニ付キ控訴審ニ於テモ

三四

五

七三

其提出ヲ許ササルヲ得ス

三四

五

七三

○民事第四百十五條ニ所謂時効ノ援用ハ民事訴訟法第四百十五條ニ所謂

三四

五

七三

防禦方法ニ外ナラサレハ第一審ニ於テ時効ヲ援用セサリシ當事者ハ自

三四

五

七三

由ニ第二審ニ於テ之ヲ援用スルコトヲ得ヘク訴訟カ第一審ニ繫屬スル當時時効完成ノ事實ヲ知ラザリシコトヲ立證スルノ責任ナキモノトス

第四百十六條

○新ナル請求アルトキハ民事訴訟法第四百十六條同法第九十六條第二號ニ據テ採用セサルヘカラス而シテ其申立印紙貼用等ノ法式ヲ缺キタルモノヲ採用シ前審ノ判決ヲ對手人ノ不利益ニ變更シタルハ不法ノ裁判ナリ

○原告カ第一審ニ於テ被告ノ或行爲ヲ以テ契約違反ノ行爲ト主張シテ違約金請求ノ申立ヲ爲シ第二審ニ至リテハ更ニ他ノ行爲ヲ以テ均シク同契約違反ノ行爲ト爲シ併セテ之ヲ主張シタルトキハ民事訴訟法第九十六條ニ所謂訴ノ原因ヲ變更セスシテ事實上ノ申述ヲ補充シタルニ外ナラサルモノトス
○第一審ニ於テ申立テタル請求ト第二審ニ於テ申立テタル請求ト請求自體ノ異ナル場合ニ於テハ控訴裁判所ハ其請求カ債權ニ基クト物權ニ基クトヲ問ハス新請求ヲ排斥シ舊請求ニ對シ其當否ヲ判斷スレハ足ルモノトス

○民事訴訟法第四百十六條ニ當事者カ其過失ニ非スシテ第一審ニ提出シ能ハザリシコトヲ疏明スルヲ要スル旨ヲ規定セルハ相殺スルコトヲ得ヘキ新ナル請求ニ關スルモノニシテ同法第九十六條第二號及ヒ第三號ノ場合ニ關スルモノニ非ス

(同主旨)

第二審ニ於テ請求ノ擴張ヲ爲スニハ請求者ハ其過失ニ非スシテ第二審ニ提出シ能ハザリシコトヲ疏明スルヲ要セス
民事訴訟法第九十六條第二號ニ該當スル新ナル請求ハ第二審ニ至テ之ヲ提出スルモ請求者ハ其過失ニ非スシテ第一審ニ於テ提出シ能ハザリシコトヲ疏明スルヲ要セス

○第一審ニ於テ地所賃貸借ノ無効ヲ原因ト爲シ登記ノ抹消及ヒ收益賠償ヲ請求シタル後第二審ニ至リ同一ノ原因ニ基キ更ニ無効確認ノ請求ヲ附加スルカ如キハ即チ訴ノ申立ヲ擴張シタルモノニ外ナラス
○第一審ニ於テ數名ノ被告ニ對シ債務分割履行ノ請求ヲ爲シ分割請求ヲ爲ス所以ノ事實關係ノミヲ陳述シ第二審ニ至リ更メテ各被告ニ對シ連帶債務履行ノ申立ヲ爲シ連帶債務ノ事實ヲ陳述セル場合ト雖モ若シ其係争債務カ元來連帶債務ナルトキハ第二審ニ於ケル連帶事實ノ供述ハ事實上ノ補充ニシテ其請求額ノ増加ハ申立ノ擴張ニ外ナラス

七	一四七
二五	一四
三	四
三五	二
三	二〇
三六	四一
三六	一〇三〇

○原告カ勝訴ノ判決ヲ受ケタルトキハ縱令請求ノ擴張ヲ爲サント欲スル意思アレハトテ控訴若クハ附帶控訴ハ之ヲ申立ツルヲ得スト雖モ被告ヨリ控訴ヲ提起シタル場合ニ於テ單ニ請求ノ擴張ヲ申立ツルコトヲ妨ケス

○相殺抗辯ハ民事訴訟法第四百十六條ノ所謂請求ニ該當スルモノトス
○民事訴訟法第四百十六條ハ第一審ニ提出セザリシ新ナル請求ヲ爲スヲ許サストノ原則ニ對スル例外ノ場合ヲ規定シタルモノニシテ其提起ニ付キ相手方ニ異議アルト否トヲ問ハサルノ法意ナリトス

(同主旨)

控訴審ニ於テハ民事訴訟法第四百十六條ニ規定セル場合ノ外新ナル請求ヲ爲スコトヲ得ス

○一箇ノ原因ニ基キ二箇ノ事項ヲ請求ノ目的ト爲シタル訴訟ニ於テ敗訴者ヨリ其ノ一事項ニ付キ控訴ヲ提起シタルトキハ他ノ一事項ニ付テモ相手方ヨリ附帶控訴ヲ爲シタルト否トヲ問ハス訴訟ハ控訴審ニ移轉セララルル効力ヲ生スルヲ以テ申立ノ擴張ニ依リ之カ裁判ヲ受クルコトヲ得ルモノトス

○贈與契約ニ基キテ不動産ノ移轉登記及ヒ其引渡ヲ請求スル訴訟ニ付キ前後等シク訴ノ原因トシテ單純ナル贈與契約ヲ主張セル場合ニ於テ其

契約カ直接ニ當事者間ニ成立シタルト主張スルモ將タ原告ノ先代ト被告トノ間ニ契約成立シ原告ハ相續ニ因リテ先代ノ權利ヲ承繼シタルト主張スルモ贈與契約ノ成立事實ニ何等ノ變更ナケレハ斯ル主張事實ノ變更ハ民事訴訟法第九十六條第一號ニ所謂事實上ノ申述ヲ補充更正シタルモノニ外ナラス

○債務者カ強制執行ノ完結前請求ニ關スル異議ノ訴ヲ提起シタル以上其訴ノ進行中ニ執行完結シテ異議ノ目的ヲ達スルコト能ハサルニ至リタルトキハ民事訴訟法第九十六條第三號ノ規定ニ依リ損害賠償ヲ求めルコトヲ得ルモノトス

○第二審ニ於テ新ニ相殺ノ意思表示ヲ爲シタルトスルモ其相殺ヲ以テ對抗スル債權カ曩ニ爲シタル相殺ノ抗辯ニ依リ既ニ第一審ニ提出セラレタルモノナル以上ハ之ヲ以テ民事訴訟法第四百十六條ニ所謂新ナル請求ニ該當スルモノト謂フヲ得ス

○民事訴訟法第四百十六條ニ依リ相殺シ得ヘキ請求ヲ起スハ相殺抗辯ヲ提出スルコトニ依リテモ之ヲ爲シ得ヘク其抗辯ヲ提出スルコトヲ得ル者ハ原告ノミナラス被告ニモ其權利アルモノトス

○同條ニ依ル相殺ノ抗辯ハ第一審ニ於テ提出シ得ヘカリシ場合ニ限ラス

六

五

五

五

九三

二八二

二〇九

四四

二

三五

二

四三

四二

八三

一一

二四〇

九三

六四

○裁判上ノ自白トハ相手方主張ノ事實カ眞實ナリトノ裁判所ニ對スル表示ヲ指スモノナルヲ以テ當事者カ裁判所ニ於テ證書ノ成立ヲ承認スルハ裁判上ノ自白ニ外ナラス

○第二審裁判所ハ職權調査ニ屬スルモノヲ除ク外辯論ニ顯ハレサル事實ヲ以テ裁判ノ資料ト爲ス職權ナシ從テ第一審ニ於テ爲シタル裁判上ノ自白ノ效力ハ當事者ニ於テ之ヲ引用セサル限ハ第二審裁判所ハ之ヲ事實判斷ノ資料ト爲スヘカラサルモノトス

〔同主旨〕

當事者方第一審ニ於テ爲シタル自白ヲ第二審ニ於テ有效ニ審理ノ資料トスルニハ必スヤ當事者ノ採用ヲ啖タサルヘカラス

〔第四百十九條〕

○第一審裁判所ニ於テ適法ノ呼出狀正本ヲ送達シタル證アラサルニ第二審ニ於テ之ヲ合式ノ呼出ヲ受ケタルモノト同視シ其故障申立人ニ懈怠ノ責アルモノト爲シ民事訴訟法第四百十九條ヲ適用シテ控訴ヲ棄却シタルハ不法ナリ

○第一審裁判所ニ於テ既ニ闕席判決ヲ言渡シタル以上ハ其判決ノ手續上ニ錯誤アルト否トヲ問ハス民事訴訟法第二百五十五條第一項及ヒ同法

元	元	元	元	元
一〇三五	一〇三五	一〇三五	一〇三五	一〇三五
二〇六	二〇六	二〇六	二〇六	二〇六

第三百九十八條ノ規定ヲ闕席判決ヲ受ケタル者ニ適用スヘキモノナリ之ニ準據セサル控訴ヲ棄却シタルハ不法ニ非ス

○控訴期間ハ判決ノ有效ナル送達ヲ以テ始マルカ故ニ其送達ハ果シテ適法ノ場所ニ於テ適法ノ人ニ爲サレタルヤ否ヤハ控訴審カ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ屬ス

○訴訟手續中斷中ニ提起セラレタル控訴ハ不適法トシテ之ヲ棄却スヘキモノトス

○控訴ノ適否ハ控訴裁判所ノ職權ヲ以テ調査セサルヘカラサル事項ナリト雖モ相手方ノ争ナキトキハ其適法ナルコトヲ判決ニ明示スル要ナキモノトス

○控訴カ適法ナル期間内ニ提起セラレタルヤ否ヤハ裁判所ノ職權上調査スヘキ事項ニ屬スルモノニシテ此職權調査ハ口頭辯論期日ニ控訴人闕席シ相手方ヨリ闕席判決ノ申立ヲ爲シタルコトニ依リ何等ノ影響ヲ受クルモノニ非ス

〔同主旨〕

控訴カ法律上ノ期間内ニ提起セラレタルヤ否ヤハ裁判所ノ職權上調査スヘキ事項ニ屬ス而シテ此職權調査ハ控訴人カ口頭辯論期日ニ闕席シ相手方タル被控訴人ヨリ闕席判決ノ申立ヲ爲

二七	三五	四	四	四
三五	九	一八九	五九〇	一八九
三二五	八一	一八九	五九〇	一八九

第四百二十條

○控訴ノ判決主文ニ於テ第一審判決ヲ廢棄ストアル以上ハ附帶控訴アルモ共ニ判決シタルモノトス

○第一審判決ヲ廢棄シテ更ニ本案ノ判決ヲ爲スハ民事訴訟法第四百二十條ニ所謂判決ノ變更ナリトス

○第一審裁判所カ當事者間ノ權利義務ヲ判定シ請求ヲ斥ケタルトキ第二審裁判所ハ原告ニ訴權ナシトシテ其要求ヲ排斥スルニハ第一審判決ヲ廢棄シ訴ノ却下ヲ言渡スヘキモノトス

○原因及ヒ數額ニ付キ爭アル訴訟ニ於テ先ツ原因ニ對シ爲シタル裁判ハ中間判決ナリ而シテ第二審ハ中間判決ヲ以テ終局判決ヲ變更スルヲ得サルニ由リ終局判決タル數額ノ判決ヲ爲スニ當リ第一審判決ト衝突スル場合ニ於テ第一審判決ヲ廢棄スヘキモノトス

○控訴審ニ於テ控訴ヲ棄却スル場合ノ外請求ニ關シ言渡ス判決ハ訴ノ一定ノ申立ニ基キ之ヲ爲スヘキモノトス

○訴訟能力欠缺ノ妨訴抗辯ニ基キ訴ヲ却下シタル判決ニ對スル控訴ニ付テ第二審裁判所ハ唯其抗辯ノ當否ヲ裁判スヘキモノニシテ本案ノ裁判ヲ爲スハ不法ナリ

○第一審ニ於テ請求ノ原因ニ辯論ヲ制限シタル判決ニ對シ控訴アリタル場合ニ控訴審ニ於テ請求ノ金額ノ點ニ付キ判決ヲ下シタルハ違法ナリ

○民事訴訟法中第二審裁判所カ第一審判決ヲ取消シ更ニ其裁判ヲ爲スヘキ場合ニ於テ取消ノ意義ヲ示ス用語ヲ限定シタル規定ナキヲ以テ第一審ノ判決ヲ取消スニ方リ廢棄ナル文字ヲ用ユルモ同法ニ違フコトナシ

○民事訴訟法第四百一條若シハ第四百二十條等ニ變更ナル文字アルハ本案判決ヲ取消ス場合ニ之ヲ使用スヘシト云フ旨趣ヲ示スニ非スシテ當事者ノ申立ナキモノハ上訴ニ於テモ審理ヲ爲サストハ原則ヲ明カニシタルニ外ナラス

第四百二十一條

○第一審裁判所カ辯論ヲ係爭法律關係ノ當事者ナルヤ否ノ點ニ制限シテ原告ニ敗訴ヲ言渡シタル場合ニ於テハ第二審裁判所ハ事件ノ全部ニ付キ裁判スヘキモノニシテ唯請求ノ原因ノミニ付キ裁判ヲ爲シ其數額ニ付テ裁判ヲ爲サシムル爲メ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スコトヲ得ス

第四百二十二條

○控訴院カ第一審裁判所ニ於テ訴狀ヲ却下シタルモノヲ不法トスルトキ

三七 八五

二六 二七

二九 二八

三〇 三三

三三 三五

三三 三九

三三 三三

三三 三三

三三 三三

三三 三三

三三 三三

三五 三〇

三五 三〇

ハ其事件ヲ其裁判所ニ差戻シ本案ノ辯論及ヒ判決ヲ爲サシムヘキモノトス

○第一審裁判所カ訴訟ノ要件ノミニ付キ判決ヲ爲スニ熟シタルモノト認メ訴ヲ却下シタル場合ニ於テハ請求ノ當否ニ付テノ第一審裁判ナキヲ以テ其控訴ヲ受ケタル第二審裁判所カ尙ホ事件ニ付キ裁判ヲ爲サシムル必要アリト認メタルトキハ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻シ更ニ本案ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシメサルヘカラス

○控訴審ニ於テ差戻ノ判決ヲ爲シタルトキハ事件ハ其審級ノ繫屬ヲ離脱スルモ更ニ本案ニ付キ第一審ノ判決ヲ受ケ其判決ニ不服アル場合ニハ再ヒ控訴スルコトヲ得ヘキカ故ニ其事件ヨリ之ヲ見レハ未タ終局セサルモノニシテ中間判決タルヲ失ハス

(同主旨)

民事訴訟法第四百二十二條ノ規定ニ基ク差戻ノ裁判ハ未タ以テ事件ノ終局ヲ告ケルモノナラズ即チ中間判決ニシテ同條第二號ニ該當スルモノハ上訴ニ關シ終局判決ト看做スノ法文ナク之ヲ終局判決ト看做ササル限ハ獨立ノ上訴ヲ許スヘキモノニ非ス
第二審裁判所カ第一審判決ヲ廢棄シ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムル爲メ原裁判所ヘ差戻ス旨ノ判決ハ中間判決ナルヲ以テ獨立ノ上訴トシテ之ヲ提起スルコトヲ得ス
民事訴訟法第四百二十三條ニ依リ第一審判決ヲ廢棄シ更ニ原裁判所ニ差戻ス旨ノ判決ハ中間

二五	三五	三六	二八
三	四	三	三
二五	一三〇	三三	二七
二五	一〇	五〇八	七

判決ニシテ直ニ上告ヲ爲スヲ得ス

第二審ニ於テ爲シタル差戻ノ判決ハ中間判決ナルヲ以テ獨立シテ上告ヲ爲スコトヲ得ス
第二審ニ於テ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻ス判決ハ中間判決ナルヲ以テ獨立シテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

民事訴訟法第四百二十三條ニ依リ第一審裁判所ニ事件ヲ差戻ス旨ヲ言渡シタル判決ハ終局判決ニ非ス而シテ上告ハ第二審ニ於テ爲シタル終局判決ニ對シテノミ爲スヲ得ヘキモノナルカ故ニ該差戻ノ判決ニ對シテハ直ニ上告ヲ爲スヲ得ス

控訴審ニ於テ事件ヲ第一審ニ差戻ストノ判決ハ中間判決ニ外ナラサルヲ以テ獨立シテ上告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

○民事訴訟法第四百二十二條第一號乃至第五號ニ該當セサル事件ハ第一審裁判所ニ差戻スヘキモノニ非ス

○第二審ニ於テ請求ノ原因トシテ主張シタル事實ニ付キ未タ第一審ノ判決ヲ經サル場合ト雖モ苟モ其事實ニシテ第一審ニ於テ主張セラレタルモノナルニ於テハ第二審裁判所ハ必スシモ之ヲ第一審裁判所ニ差戻スノ要ナキモノトス

○第二審判決ニ於テ第一審判決カ訴ノ原因ニ變更アリトシテ却下シタルヲ不當トシ該却下ノ判決ヲ廢棄スルモノナルトキハ民事訴訟法第四百二十二條ノ差戻ヲ爲スヘキ場合ニ該當セサルモノトス

二八	二九	三〇	三三	三四	三四	六
五	九	二	九	二	五	
一七	一〇	三	二	六	五	二六二
						三三

○民事訴訟法第四百二十二條第三號ハ第一審裁判所ニ於テ妨訴ノ抗辯ヲ理由ナシトシテ棄却シ控訴裁判所モ亦同一ノ見解ヲ採リタルトキ若クハ第一審裁判所カ理由アリトシタル妨訴ノ抗辯ヲ控訴裁判所ニ於テ理由ナシトスルトキ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スヘキコトヲ規定シタルモノトス

○民事訴訟法第四百二十二條第四號ニ該當スル場合ニ於テ尙ホ辯論ヲ必要トスルトキハ控訴裁判所ハ其事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スヘキモノトス

○民事訴訟法第四百二十二條第四號ニ所謂先ツ原因ニ付キ裁判ヲ爲シ云云ノ文詞ハ辯論ヲ分離シ請求ノ原因ニ付キ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ其原因ヲ是認シタルト之ヲ否認シタルトヲ問ハサル法意ナリト解釋スルヲ相當トス

○民事訴訟法第四百二十二條第四號ハ第一審裁判所カ請求ノ原因及ヒ數額ニ付キ爭アルトキ原因ナシト判決シタルニ依リ原告之ニ對シテ控訴ヲ爲シタル場合ノミナラス同裁判所カ原因アリト判決シ被告之ニ對シテ控訴ヲ爲シタル場合ニモ亦適用スヘキモノニシテ第一ノ場合ニ於テハ控訴ヲ棄却シタル上事件ヲ差戻スヘク又第二ノ場合ニ於テハ第一審

判決ヲ廢棄シテ事件ヲ差戻スヘキ旨ヲ規定シタルモノトス

第四百二十三條

『第四百二十三條』

○第一審裁判所ニ於ケル判事ノ定數調書ノ署名捺印等ノ手續ニ違背シタルコトアラハ之カ不法ヲ主張スルモノニ於テ其申立ヲ爲ササルヘカラス第二審裁判所カ職權ヲ以テ此等ノ審査ヲ爲スヘキモノニ非ス

○言渡ヲ爲ササル判決ト雖モ其送達ヲ受ケ控訴ヲ提起シタル以上ハ民事訴訟法第四百二十三條ニ依リ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻ササルヘカラス故ニ言渡ナキ判決ニ對スル控訴ナリトノ理由ヲ以テ其控訴ヲ無効トシテ棄却スルハ違法ナリ

○第一審ニ於ケル證據調ニ關スル手續ノ違背ハ必スシモ其裁判ヲ廢棄スヘキ結果ヲ生スルモノニ非ス

○民事訴訟法第四百二十三條ニ因ル控訴裁判所ノ權能ニ付テハ別ニ制限スル所ナキヲ以テ第一審裁判所カ單ニ形式上訴ヲ不適法トシテ却下シタルニ止マリ本案ニ付キ裁判ヲ爲ササル場合ニ於テモ控訴裁判所ハ必スシモ事件ヲ差戻スヲ要セサルモノトス

○民事訴訟法第四百二十三條ハ控訴裁判所ニ付與スルニ差戻ノ權利ヲ以テシタルモノナレハ第一審裁判所カ訴訟手續ノ規定ニ違背シタルコト

三七 八二

二六 二七五

三三 二二

三九 五五

三六 九〇

四四 九三

○控訴棄却ノ判決ハ第一審判決ヲ是認セルモノニ外ナラサレハ之ト共ニ爲シタル假執行ノ宣言ハ第一審判決ヲ執行スルコトヲ得セシムル旨趣ナリトス

○第二審裁判所カ審理ノ末第一審判決理由中ニ失當ノ廉アルモ其判決正文同一ニ歸著スルトキハ控訴棄却ノ言渡ヲ爲スヘク第一審判決ヲ廢棄スヘキモノニ非ス

(參照)

控訴裁判所カ一件審理ノ後印紙ノ犯則ヲ發見シタルトキハ民事訴訟法第四百二十四條ヲ適用シテ控訴ヲ棄却スヘキモノトス同法第四百二十九條ハ法律上ノ方式ニ適セザルカ期間經過後ニ起シタルコトナキヤ否ヲ調査シ之カ處分ヲ爲スコトノ規定ニ過キサレハ此場合ニ適用スヘキモノニ非ス

(第四百二十五條)

『第四百二十五條』

○民事訴訟法第四百二十五條ニ所謂判決ハ終局判決又ハ終局判決ト看做スヘキモノニ限り獨立シテ上訴スルヲ得サル中間判決ヲ包含セザルモノトス

○第二審裁判所ハ相手方カ控訴又ハ附帶控訴ノ方法ヲ以テ不服ヲ申立タル部分ニ非サレハ縱令第一審判決ニ瑕瑾アルトキト雖モ之ヲ控訴人ノ不利益ニ變更スルコトヲ得ス

○民事訴訟法第四百二十五條ノ所謂判決ヲ控訴人ノ不利益ニ變更スルト

ハ判決正文其モノヲ不利益ニ變更スルノ意ニシテ判決理由ノ變更ハ之

ニ包含セス

(同義)

民事訴訟法第四百二十五條ニ不利益ノ變更トアル文詞ハ判決正文ノ變更ヲ云フモノニシテ判決理由ヲ指シテ云フニ非ス

○控訴審カ其判決正文ニ於テ控訴ヲ棄却スト言渡シタル場合ハ第一審ト同一ノ判決ヲ爲シタルモノニシテ判決ヲ變更セルモノニ非ス從テ控訴審カ第一審ト同一ノ理由ニ基キ控訴ヲ棄却スルト否ト將タ控訴人ニ利益ナル理由ニ基クト否トハ之ヲ問フノ要ナシ

(第四百二十九條)

『第四百二十九條』

○民事訴訟法第四百二十九條末段ハ控訴人ニ於テ一應相當ノ證據カアリトスヘキ新證ヲ提出シ以テ第一審裁判所ニテ確定セル事實ヲ攻撃スルニ際シ被控訴人ニ於テ出頭シテ辯論セザルトキハ控訴人ノ立證ハ其證據ニ相當セル結果ヲ得タルモノトシテ闕席判決ヲ爲スヘシトノ律意ナリ

○控訴人ヨリ闕席判決ノ申立ヲ爲シタルトキハ民事訴訟法第四百二十九

三五	三九	六六	六六	三九
一	一五〇四	二四	二四	一五〇四
一三三				

三五	三九	六六	六六	三九
一	一五〇四	二四	二四	一五〇四
一三三				

條ノ規定ニ從テ判決スヘキモノナルニ同法第二百四十八條ノ規定ニ從テ判決シタルハ法律ヲ不當ニ適用シタルモノトス

○被控訴人カ闕席ノ場合ニ於テ控訴人カ新事實ヲ主張シ新證據ヲ提出シタルトキハ原院ハ宜ク民事訴訟法第四百二十九條ノ規定ニ依リ其主張シタル事實及ヒ提出シタル證據方法ハ第一審裁判ノ憑據ト爲リタルモノニ牴觸スルヤ否ヤヲ調査シ果シテ之ニ牴觸スルモノト認ムルトキハ其牴觸スル理由ヲ付シテ之ヲ排斥スヘク若シ牴觸セサルモノト認ムルトキハ控訴人ノ事實上ノ供述ハ被控訴人之ヲ自白シタルモノト看做シ且事實上ノ確定ヲ辯駁スル爲メ控訴人ノ申立テタル適法ノ證據調ハ既ニ之ヲ爲シ其結果ヲ得タルモノト看做シ闕席判決ヲ爲スヘキモノトス然ルニ原院ノ判決茲ニ出テサルハ不法ノ裁判ナリ

(同主旨)

被控訴人口頭辯論期日ニ出頭セサル場合ニ於テ出頭シタル控訴人ヨリ闕席判決ノ申立ヲ爲ストキハ先少控訴人タル者ノ事實上ノ供述方第一審裁判ノ憑據ト爲リタルモノ即チ第一審判決ニ記載セラレタル事實上ノ供述ト牴觸スルヤ否ヲ審査シ然後相當ノ判決ヲ下ササルヘカラス
○被控訴人カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス闕席判決ヲ言渡ス場合ニ於テ控訴人カ援用セル證人ノ證言ヲ排斥シタルハ民事訴訟法第四百二十九條ノ規定ニ背反セル不法アルモノナリ

第四百三十條

第四百三十條

○判決ノ事實ノ摘示ハ前審ノ判決ヲ引用スルコトヲ得

○第二審ニ於テ呈供シタル某證ハ他ノ證ノ事實ヲ確メンカ爲メノモノニシテ更ニ新事實ヲ提出シテ之ヲ證明シタルモノニ非サレハ第一二審ノ間ニ事實上ノ差異ヲ生セス故ニ第二審カ「控訴人被控訴人ノ陳述ハ原判文ニ摘載スル所ト同一ナリ」ト判シタルハ不法ニ非ス

第四百三十一條

第四百三十一條

○民事訴訟法第四百三十一條ニ從ヒ認證シタル判決謄本ハ原本ニ代用セラレテ其效ヲ有ス故ニ其認證謄本ニ依リ作成シタル正本ヲ受ケタル者ハ之ニ依リテ不變期間ヲ計算スヘキモノトス

第一章 上告

○大審院ハ事實認定ノ當否ヲ審判スル所ニ非ス又其判決例ハ事實承審官ノ事實認定權ヲ羈束スヘキモノニ非ス
○裁判言渡書ノ理由中ニ掲載シアル文字カ如何ナル意味ヲ含有シ如何ナル事柄ヲ指示シタルカヲ判定スルハ事實上ノ問題ニ屬スルモノトス既ニ事實上ノ問題ニ屬スル以上ハ事實裁判所ノ主權ヲ以テ解釋スヘキモ

二五	二	二三
二六	一	二二
二七	一	二一
二八	一	二〇
二九	一	一九
三〇	一	一八
三一	一	一七
三二	一	一六
三三	一	一五
三四	一	一四
三五	一	一三
三六	一	一二
三七	一	一一
三八	一	一〇
三九	一	九
四〇	一	八
四一	一	七
四二	一	六
四三	一	五
四四	一	四
四五	一	三
四六	一	二
四七	一	一

二五	一	二三
二六	一	二二
二七	一	二一
二八	一	二〇
二九	一	一九
三〇	一	一八
三一	一	一七
三二	一	一六
三三	一	一五
三四	一	一四
三五	一	一三
三六	一	一二
三七	一	一一
三八	一	一〇
三九	一	九
四〇	一	八
四一	一	七
四二	一	六
四三	一	五
四四	一	四
四五	一	三
四六	一	二
四七	一	一

ノナルヲ以テ縱令其解釋カ司法裁判上古來ノ成績ニ於テ見サル所ノ事實ヲ認定セラレシニモセヨ大審院カ之ニ立入り解釋ノ當否ヲ鑒査スヘ

二六

二

三五九

○當事者間ノ前訴訟ニ於テ一方カ他方ノ株券ヲ委任狀附ノ儘委任權ヲ超越セル訴外人ヨリ抵當ニ取リタルハ其不注意ニ出テタルモノナリトノ

二四

一

一八

斷定ヲ受ケ其事實確定セシトキハ爾後他ノ訴訟ニ於テ該抵當ニ取リタル行爲ハ自己ノ過失ニ非スシテ其責他方ニ在リト主張スルヲ得ス隨テ其商習慣有無ノ點ニ對スル原判決ノ理由不穩當ハ以テ其判決理由ノ基本ニ影響ヲ及ボサス

二六

一

四〇

○當事者ノ法定代理人タル資格ヲ以テ受ケタル判決ニ對スル上告ハ其法定代理人之ヲ提起セサルヘカラス若シ其者ノ法定代理權消滅スルトキハ民事訴訟法第八十條ノ規定ニ依ルヘキモノトス

二四

五

三六

○第二審ノ判決言渡後ニ於テ合意上權利拘束ノ效力ヲ消滅セシメタルトキハ其理由ノ如何ニ拘ハラス上告ヲ爲スヲ得ス

三五

六

二五

○上告ハ法律ニ違背シテ權利上不利益ナル裁判ヲ受ケタル者ニ限り其救濟方法トシテ之ヲ提起シ得ヘキモノトス

三七

一

五一六

○控訴裁判所カ假執行ヲ宣言スヘキ申立ヲ看過シタルトキハ補充判決ノ

十三
第四百三

申立ヲ爲シ得ルニ並マリ援テ以テ上告ノ理由トスルヲ得ス

四三

一

三七六

○舊曆ノ辰刻法ハ天保壬寅元曆以前ニ在リテハ日出日没ハ常ニ明六ツ時暮六ツ時ト一致スルコトナク明六ツ時ハ日出前ニシテ暮六ツ時ハ日没後ニ係リ又春夏秋冬晝夜ノ伸縮アルニ隨ヒ時刻ニ長短ノ差ヲ生シタル

四三

一

四二一

○第一審判決ニ對シ當事者雙方ヨリ控訴ノ申立アリタルモ控訴裁判所ハ之ヲ併合審理シ一箇ノ判決ヲ以テ裁判ヲ爲シタル場合ニ於テ上告人カ最初其判決ニ對シ一部破毀ノ申立ヲ爲シ其後申立ヲ擴張シテ全部破毀

六

二

五六

ノ申立ヲ爲スハ違法ニ非ス

六

二

手

○訴訟手續中斷中ノ上告ト雖モ上告人カ口頭辯論前受繼ノ爲メ承繼人呼出ヲ申立テ補正ヲ爲シタルトキハ上告ハ此時ヲ以テ有效ニ成立シタル

六

二

七九

○共同訴訟ニ於テ係爭權利關係カ總テノ共同訴訟人ニ對シ合一ニノミ確定スヘキモノナリヤ否ハ法律上ノ問題ナレハ上告裁判所ニ於テ判斷スヘキモノトス

六

二

一三七

(參照) 第四百三十一條
第二審ノ裁判所ニ提出シタル證書ノ寫ニ印紙貼用ノ形アリ且該裁判所ニ於テ印紙ノ有無ニ付

- 原判決理由ノ幾分カ事理ニ適セサル所アルモ其大體ニ於テ相當ナルトキハ此等ノ瑕疵ヲ以テ上告ノ理由ト爲スニ足ラス
- 判決主文ニ「本訴ハ之ヲ棄却ス」トアルモ訴訟ノ實體ニ付キ其請求ヲ排斥シタル旨趣明瞭ナル上ハ上告ノ理由ト爲ラス
- 自己ニ利益ナキ論告ハ上告ノ理由ト爲ラス
- 證人訊問手續ニ關スル攻撃ハ其證人ノ證言ヲ援引セサル原判決ニ影響ヲ與ヘス
- 請求ノ棄却ヲ言渡スヘキ場合ニ訴ノ却下ヲ言渡スハ形式上敗訴者ノ便利ナルニ依リト告ノ理由ト爲ラス
- 證據調限定ノ當否ハ上告ノ理由ト爲ラス
- 訴訟上代表ノ資格ナキ者カ代表者ト稱シテ眞ノ代表者ニ附從シタル如キハ本案ノ曲直ニ關係ナク唯訴訟費用等私益ノ關係ニ止マルヲ以テ代理欠缺ノ場合ノ如ク裁判官ニ職權調査ノ義務ヲ負ハシムヘキモノニ非ス隨テ此事ニ對シ異議ヲ申立テサル以上ハ之ヲ以テ原判決ヲ攻撃スルコトヲ得ス
- 口頭辯論期日ノ呼出狀ヲ送達セサル違法アルモ當事者雙方カ期日ニ出頭シ辯論ヲ爲シタルトキハ其手續違背ハ裁判ニ影響ヲ及ボササルヲ以

二元	二元	二元	二元	二元	二元
一〇	三	三	三	二	一
八〇	一一	三	二	二	五

テ上告ノ理由ト爲ラス

○訴訟手續ニ不當ノ廉アルモ利害ノ關係ナキ當事者ノ一方ハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

○第三回第四回ノ辯論調書ヲ一貫シテ作成シ其調書末尾ニ裁判長及ヒ書記ノ署名捺印セルハ調書作成ノ手續ニ違背セルモ爲メニ判決ニ影響ヲ及ボササルニ依リ上告ノ理由ト爲ラス

(同前)

判決理由中其前段判定ノ主旨ヲ鞏固ナラシムル爲メ附加シタル補充ノ理由ニ違法ノ廉アルモ其裁判ヲ破毀スル理由ト爲スニ足ラス

○第一審裁判所ニ於ケル訴訟手續ノ批難ニ付キ第二審裁判所ニ於テ何等異議ノ申立ヲ爲サザリシトキハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

(同前)

第一審ニ於テ當事者ニ對スル呼出ノ手續適法ナラザリシ期日ニ訊問シタル證人ノ證言ヲ第二審ノ判決ニ採用スルモ第二審ニ於テ異議ヲ主張セザリシトキハ以テ上告ノ理由ト爲ス

民事訴訟法 上訴 上告

二元	二元	二元	二元	二元	二元
二	二	二	二	二	二
二	二	二	二	二	二
七	二	二	二	二	二

ヲ得ス

○新辯論ニ基キ爲スヘキ判決カ闕席判決ト符合スルニ拘ハラズ闕席判決ヲ維持スル旨言渡サスシテ更ニ之ト同旨趣ノ判決ヲ爲スモ其結果同一ニ歸スルヲ以テ破毀ノ理由ト爲スニ足ラス

○民事訴訟法第五十條第五項ニ於テ懈怠シタル共同訴訟人ニモ總テノ送達及ヒ呼出ヲ爲スハ其訴訟人ヲシテ何時タリトモ訴訟手續ニ再ヒ加ハルノ便宜ヲ得セシムル爲メニ外ナラス故ニ懈怠シタル訴訟人カ呼出ナキニ拘ハラズ何等ノ異議ヲモ挾マスシテ口頭辯論ニ加ハリタル以上ハ送達及ヒ呼出ナキコトヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

○證人訊問ノ囑託ヲ受ケタル裁判所カ忌避ノ申請ヲ正當ナリトシ其訊問ヲ爲ササル旨ノ決定ヲ爲シタル場合ト雖モ申請人ニ於テ異議ヲ留メス辯論ヲ終了シ判決ヲ受ケタルトキハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス
○訴狀中請求ノ目的物ニ誤記アリテ第一審判決モ亦其記載ヲ誤リタルカ爲メ勝訴者ヨリ附帶控訴ヲ以テ判決ノ變更ヲ請求シ第二審裁判所ニ於テ之ヲ許容シタル場合ト雖モ控訴人カ其誤記ノ訂正ニ異議ナカリシ以上ハ該判決ヲ目シテ違法ナリト云フヲ得ス
○或事項ヲ以テ上告ノ理由ト爲スニハ裁判所ノ職權調査ニ屬スルモノヲ

三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
一五九	一五九	一五九	一五九	一五九	一五九	一五九	一五九	一五九	一五九
一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇	一七〇
一五四	一五四	一五四	一五四	一五四	一五四	一五四	一五四	一五四	一五四
二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五

除ク外原裁判所ニ提出シタルモノナラサルヘカラス

(同主旨)

○原院ニ於テ争點ト爲リタル證據ナキ事ハ探テ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス
○商業帳簿ノ性質及ヒ其日附ノ前後ノ事ニ付キ原裁判カ其證據力ヲ抹殺シタリト論スルモ管轄原裁判所ニ於テ之ヲ申立テタル痕迹ナケレハ漫ニ原裁判ヲ批難攻撃スルニ過キスト云フニ外ナキノミ

○原院ニ提出セサル事實上ノ論旨ヲ以テ上告理由ト爲スヲ得ス
○原院審理中ニ申立テサル事項ヲ以テ上告理由ト爲スヲ得ス
○訴訟委任狀ニ對手者人員中ノ一人ヲ缺キタル場合ハ職權ヲ以テ調査スヘキ委任欠缺ト同視スヘキモノニ非ス從テ異議ナク原審ヲ經過シタル上ハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス
○職權調査ニ屬セサルモノニシテ原院ニ提出セサルモノハ上告論旨ノ基礎ト爲スヲ得ス

○判決言渡ノ期日ヲ宣言シタル後何等ノ決定ヲ爲サスシテ之ヲ變更スルハ違法ナリト雖モ之カ爲メ上告人ノ權利上ニ利害ノ影響ヲ及ホササルヲ以テ上告ノ理由ト爲ルヘキ限ニ在ラス
○裁判所カ答辯書其他ノ準備書面ノ送達ヲ爲ササルモ相手方ニ於テ之ニ對シ何等ノ異議ヲ申立ツルコトナク口頭辯論ヲ終了シ判決ヲ受ケタル以上ハ後日ニ至リ其送達ナキコトヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス
○法定代理人ニ非サル者カ當事者本人ニ宛テ發セラレタル呼出狀ヲ受取

三六	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
一三七	一三七	一三七	一三七	一三七	一三七	一三七	一三七	一三七	一三七
二〇八	二〇八	二〇八	二〇八	二〇八	二〇八	二〇八	二〇八	二〇八	二〇八
四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六

リタル場合ト雖モ爾後該當事者ノ代理人期日ニ出頭シテ辯論ヲ爲シ判決ヲ受ケタル以上ハ之ヲ以テ上告ノ理由トスルヲ得ス

○第二審裁判所カ控訴ノ申立ナキ點ニ對シ控訴棄却ノ判決ヲ爲シタル場合ト雖モ被控訴人ハ之ヲ以テ上告ノ理由トスルヲ得ス

○口頭辯論期日ノ呼出ニ不法アルモ訴訟代理人カ異議ヲ留メスシテ其期日ニ辯論ヲ爲シタル以上ハ上告ノ理由ト爲ラス

(同主旨)

控訴狀又ハ辯論期日呼出狀ノ送達ニ不適法ノ點アルモ何等ノ異議ヲ挾マスシテ口頭辯論ヲ爲シ判決ヲ受ケタル以上ハ其責問權ヲ拋棄シタルモノナレハ之ヲ理由トシテ上告ヲ爲スコトヲ得ス

○破産管財人ノ爲ス訴訟ヲ審理スルニ當リ破産者ヲ證人トシテ訊問シタルハ不當ナリト假定スルモ管財人ニ於テ何等ノ異議ヲ述ヘサルトキハ其責問權ヲ拋棄シタルモノニ外ナラサレハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

○裁判所カ判決言渡ノ期日ヲ指定セサルハ違法ナレトモ之カ爲メ當事者ニ不利益ヲ蒙ムラシメタル場合ニ在ラサレハ上告ノ理由ト爲ラス

○控訴裁判所カ第一審判決中控訴人ヨリ不服ノ申立ヲ爲ササリシ部分ニ付キ判決ヲ爲シタル場合ト雖モ之カ爲メ控訴人ニ對シ何等ノ不利益ヲ

及ホササルトキハ上告ノ理由ト爲ラス

○第一審裁判所カ原告ヨリ提出シタル一定ノ申立訂正書ヲ被告ニ送達セシテ該訂正書ニ基キ闕席判決ヲ爲シタル場合ト雖モ爾後其故障申立ニ依リ更ニ闕席判決ヲ維持スル旨ノ言渡ヲ爲シタル以上ハ被告タル上告人ノ利害ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナケレハ之ヲ以テ上告ノ理由トスルヲ得ス

○控訴裁判所カ裁判所構成法第四十八條ニ依リ大審院ノ表示セル法律上ノ意見ニ遵據シテ判決ヲ爲シタル以上ハ其旨趣同院ノ最近判例ニ背反スルモ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

○受託裁判所カ鑑定人ニ對シ當事者トノ關係ヲ訊問スルニ方リ其配偶者ト親族ナルヤ否ヤノ訊問ヲ遺脱シタル場合ト雖モ相手方ニ於テ之ニ對シ何等ノ異議ヲ述フルコトナク判決ヲ受ケタル以上ハ後日ニ至リ其違法ヲ主張シテ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

○裁判所カ判決言渡ノ期日ヲ變更スル決正ヲ爲シタル場合ニ於テ該決定ヲ當事者ニ送達セサルハ違法ナレトモ之カ爲メ其權利上ニ利害ノ影響ヲ及ホササルヲ以テ上告ノ理由ト爲ラス

○新辯論ニ基キテ爲スヘキ判決カ闕席判決ト符合セサルニ拘ハラヌ新判

三元

七九七

三元

一五七四

四〇

一〇三三

四〇

一二六

四〇

一一八三

三元

六七二

三元

一三六九

三元

一六三五

三元

二二九

三元

三〇七

三元

五九

○決ニ於テ闕席ヲ決ヲ廢棄セサルハ失當ナレトモ之カ爲メ當事者ノ利害ニ何等ノ影響ヲ及ボササルヲ以テ上告ノ理由ト爲ラス

四 二五二

○新判決ニ於テ之ニ符合セサル控訴棄却ノ闕席判決ヲ廢棄セズ第一審判決ヲ廢棄シ更ニ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ闕席判決カ形式上存在スルニ拘ハラズ毫モ新判決ニ影響ヲ及ボササルカ故ニ闕席判決ヲ廢棄セサル瑕疵ノ爲メ新判決ヲ破毀スルノ要ナキモノトス

三 一〇三

○民事訴訟法第二百九十七條ニ依リ證言ヲ拒ム權利アル者ニ對シ裁判所カ其旨ヲ告クルコトナク直ニ參考人トシテ訊問スルモ當事者ニ於テ何等ノ異議ヲ述ヘサルトキハ後日ニ至リ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

三 二二

○受訴裁判所カ證人ノ證言拒絕ノ當否ニ付キ當事者ヲ審訊セスシテ裁判ヲ爲シタル場合ト雖モ當事者異議ヲ述ヘサリシトキハ後日ニ至リ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

四 二七〇

○控訴裁判所ノ差戻判決ニ對スル不服ノ理由ニシテ本案終局判決ニ何等ノ影響ヲ及ボササルモノハ其當否ヲ論セス原判決ヲ破毀スル理由ト爲

四 九一

スニ足ラス

四 一〇一五

○控訴代理人カ控訴狀ニ捺印セサル場合ト雖モ控訴人カ該書面ニ基キ申立ヲ爲シ且相手方ニ於テ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

四 二五三

○差戻後ニ於ケル控訴判決ノ基本タル口頭辯論期日ニ當事者ヨリ委任ヲ受ケタル訴訟代理人出頭シテ辯論ヲ爲シタルトキハ縱令差戻前ノ控訴及ヒ上告判決ニ代理ノ欠缺アリタレハトテ原判決ヲ破毀スル理由ト爲スニ足ラス

四 五八四

○頼母子講ノ世話人カ講ノ規約上講員ノ同意ヲ要セスシテ落札講員ニ對シ訴訟ヲ提起スルノ權アル場合ニ其名ニ於テ訴訟ヲ提起シタルハ講員ノ訴訟代理人トシテ訴訟ヲ起シタルモノニ非サルヲ以テ其訴訟委任ノ有無及ヒ方式ニ關スル攻撃ハ上告ノ理由ト爲ラス

四 四三五

○判決ニ事實ノ摘示ヲ爲ササルトキハ判決ヲ爲スニ足ルヘキ事實上ノ基本ヲ缺キ又上告裁判所ハ之カ判斷ヲ爲ス能ハサルニ至ルヲ以テ右摘示ヲ缺ク判決ハ法律ニ違背スルモノトス

四 三四七

○裁判所カ證人申請ヲ許容シタルニ拘ハラズ之ヲ訊問セスシテ結審ヲ告ケタルニ對シテ異議ヲ留メザルハ是レ責問權ヲ拋棄シタルモノナレハ

後ニ至リ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

○人證申請ノ如キハ判決ニ之ヲ掲ケサルモ上告ノ理由ト爲ラス

○控訴審ノ訴訟手續ニシテ適法ニ行ハレタル以上ハ縱令第一審ニ於ケル訴訟手續ニシテ違法アリトスルモ之ヲ以テ上告ノ理由トスルニ足ラス

(同主旨)

控訴審ノ訴訟手續ニシテ適法ニ爲サレタル以上ハ縱令第一審ニ於ケル訴訟手續ニ違法ノ點アリトスルモ之ヲ以テ控訴判決ヲ破毀スヘキ瑕瑾ト爲スヲ得ス

○判決言渡期日ヲ變更スル決定ヲ爲シ之ヲ當事者ニ送達シ乍ラ尙ホ判決言渡ヲ爲シタルハ不法ナルモ右ノ不法ハ判決ニ何等ノ影響ヲ及ホササルヲ以テ上告ノ理由ト爲ラス

○鑑定人トシテ訊問スヘキ者ニ對シ證人ニ付テノ規定ヲ適用シテ訊問シタル場合ト雖モ之ニ對シ當事者カ何等ノ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

○控訴裁判所カ辯論終結ノ日ヨリ七日以後ニ判決ノ言渡ヲ爲シタレハトテ當事者ノ利害ニ影響ヲ及ホササルヲ以テ破毀ノ理由ト爲ラス

○控訴裁判所カ判決ノ事實摘示中ニ當事者ノ提出セサル證據ヲ提出シタルモノノ如ク記載シタルハ不當ナレトモ該證據ヲ採テ判斷ノ資料ト爲

ササリシ以上ハ判決ニ影響ナケレハ破毀ノ理由ト爲スニ足ラス

○受訴裁判所カ證據調ニ付キ受命判事ヲ指定シタル手續ニ違法ノ點アルモ當事者カ異議ヲ留メスシテ判決ヲ受ケタルトキハ後日ニ至リ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

○裁判所カ訴訟ノ成績ニ直接ノ利害關係ヲ有スル者ニ宣誓ノ上證言セシメタル場合ト雖モ當事者カ其訊問ノ際若クハ遅クトモ之ニ接續スル口頭辯論ニ於テ異議ヲ述ヘサル限り後日之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得サルモノトス

(同主旨)

裁判所カ公權停止者ヲ證人トシテ訊問スルニ當リ宣誓ヲ爲サシメタル場合ニ於テ當事者カ何等ノ異議ヲ申立テサリシトキハ自ら責問權ヲ拋棄シタルモノナルヲ以テ後日ニ至リ斯ル事由ヲ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

○判決カ法律ニ違背シタルヤ否ヤハ事實ノ認定カ法律ニ違背シタル場合ノ外ハ判決ニ確定シタル事實關係ヲ基礎トシテ之ヲ定ムヘキモノトス
○判決ニ確定シタル事實關係カ後ニ變更ヲ來シタル結果ヨリ見タル判決ノ違法ハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス
○第二審裁判所ニ於テ相手方ノ從參加人ヲ呼出サスシテ辯論及ヒ裁判ヲ

四五	二	二	五〇三
四五	二	三二二	八五七
四五	二	五八	一七三
四五	二	四七一	九〇七

三	三	三	九六七
三	三	三	二〇八
三	三	三	五二〇
四	四	四	四三二
四	四	四	六四三
四	四	四	六四三

爲シタルコトハ上告理由ト爲ラサルモノトス

四

七五

○第一審裁判所カ證人ヲ訊問スルニ當リ職權調査ノ結果當事者又ハ其配

四

七五

偶者ト親族關係ナキコトヲ認メ宣誓ヲ命シテ訊問ヲ爲シタル以上ハ縱

四

七五

令第二審判決言渡ノ後該證人ト相手方ノ妻トノ間ニ親族關係アルコト

四

七五

ヲ發見スルモ其新事實ヲ提出シテ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

四

七五

○口頭辯論調書ニ列席裁判所書記ノ氏名ノ掲記ナキモ該口頭辯論カ證據

四

七五

調ノ爲メニ開カレ訊問スヘキ證人出廷セザリシ爲メ期日ヲ他日ニ指定

四

七五

シタルニ止マルトキハ其後ノ手續殊ニ判決ノ基本タル口頭辯論ニシテ

四

七五

適式ニ履踐セラレタル以上ハ原判決ヲ破毀スルニ足ラサルモノトス

四

七五

○會社ノ定款ノ解釋ハ契約書ノ解釋ト同シク事實裁判所ノ專權ニ屬スル

四

七五

モノナレハ之ニ批難ヲ加ヘ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

四

七五

(同主旨)

書證ノ解釋ハ事實問題ニ屬ス從テ其解釋ニ批難ヲ加ヘ以テ上告論旨ト爲スヲ得ス

四

七五

契約書ノ解釋ハ事實裁判所ノ職權ニ屬ス從テ其解釋ニ不服ヲ唱ヘ之カ當否ヲ論争シ以テ上告

四

七五

ノ理由ト爲スヲ得ス

四

七五

○民事訴訟法第二百三十六條第二號ニ定メタル事實及ヒ爭點ノ摘示ニ缺

四

七五

漏スル所アリトスルモ其欠缺カ判決主文ニ影響スル場合ニ非サレハ上

四

七五

告理由ト爲ルモノニ非ス

(同主旨)

判決ノ事實摘示ニ當事者ノ提出シタル申立ヲ掲ケサル場合ト雖モ其欠缺ノ爲メ當事者ニ不利

三九

二九七

益ナル結果ヲ生シ殊ニ主文ニ影響スヘキコトヲ理由トスルニ非サレハ上告ヲ爲スコトヲ得ス

三九

二九七

○第一審證人ノ訊問申請ニ對スル證據決定ノ有無ニ付キ上告人ハ異議ヲ

三六

二四

述ヘタル形跡ナキトキハ其責問權ヲ拋棄シタルモノト謂フヘキヲ以テ

三六

二四

後日ニ至リ其不法ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス

三六

二四

○上告人ハ第一審ニ於テ受命判事ヲ指定スル裁判長ノ命令ヲ送達ナキ點

三七

二七

ニ付キ異議ヲ述ヘタル形跡ナキ以上ハ其責問權ヲ拋棄シタルモノト解

三七

二七

スヘク之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得サルモノトス

三七

二七

○受託區裁判所カ證據調期日ヲ當事者ニ通知セサル不法ハ其證據調ニ接

三七

二七

續スル口頭辯論ニ於テ之ヲ詰責スルニ非サレハ責問權ヲ喪失スルモノ

三七

二七

ニシテ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得サルモノトス

三七

二七

○人事訴訟手續ニ於テ檢事ニ事件及ヒ期日ヲ通知スヘキ法則ニ違背シテ

三七

二七

爲シタル裁判ニ對シテハ法則違背ト該裁判トノ間ニ因果關係殊ニ原審

三七

二七

ニ於テ期日ヲ檢事ニ通知セザリシカ爲メ檢事ノ主張スルコトヲ得ヘカ

三七

二七

リシ事實又ハ提出スルコトヲ得ヘカリ證據方法ヲ斟酌セスシテ裁判

三七

二七

ヲ爲シタル如キ關係存スル場合ニ上告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

三七

二七

(同主旨)

人事訴訟手續ニ於テ檢事ニ事件及ヒ期日ヲ通知スヘキ旨ノ規定存スル場合ニ之カ通知ヲ爲サ
スシテ裁判ヲ爲シタリトテ之ヲ以テ直ニ上告適法ノ理由ト爲スヲ得ス必スヤ斯ル法律違背ト
判決トノ間ニ因果關係ノ存スル場合タルコトヲ要スルモノトス
裁判所カ婚姻事件ニ付キ檢事ニ口頭辯論期日ノ通知ヲ爲ササルハ違法ナレトモ檢事カ辯論ニ
立會ヒタランニハ判決ノ結果ニ差異ヲ來スヘキ理由ノ存スル場合ニ在ラサレハ上告ノ理由ト
爲スニ足ラス

○上告ハ第二審判決カ法律ニ違背シタルコトヲ理由トスルトキニ限り之
ヲ爲スコトヲ得ルモノニシテ第一審判決ノ不當ヲ理由トシテ上告ヲ申
立ツルコトヲ得サルモノトス

(第四百三十五條)

『第四百三十五條』

○攻撃論争ノ點顯然タルニ毫モ異議ナキ證據ノ如ク卒然之ヲ採用シテ認
定シタルハ違法ノ判決ナリ

○甲者カ賣買代金ヲ乙者ニ託シテ丙者ニ渡シシトキ乙者該金圓中若干圓
ヲ渡ササリシカ爲メ紛議ヲ生シ訴フル場合ニ於テハ先ツ乙者ハ丙者ノ
代人ニ屬スル歟將タ甲者ノ代人ニ屬スル歟ヲ定メ然ル後其金圓ヲ丙者
ニ渡サシムルカ又ハ甲者ニ返戻スルカヲ判定セサルヘカラス然ルニ其
事實ヲモ定メス甲者ニ返戻スヘキモノト判定シタルハ事實ヲ確定セス

シテ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリ

○上告人ハ民事訴訟法實施前ニ於テ適法ニ本件訴訟ヲ提起シタリト雖モ
同法實施後ニ於テ其規定ニ從ヒ訴訟手續ヲ完結シタルモノニ非サレハ
之ニ對シ與ヘタル第一審第二審ハ皆不法ニシテ破毀ヲ免レサルモノト
ス

○當事者ノ提出セサル證據ニ依リ出訴期限中斷ノ事實ヲ認定シタルハ違
法ナリ

(同主旨)

原院カ法廷ニ提出セサル證據ヲ裁判ノ資料ニ供シタルハ不法ナリ縱令該證ヲ法廷ニ提出シタ
リトスルモ當事者カ該證ニ不服ナルニ其文詞ヲ採用シテ之カ裁判ヲ爲サンニハ相當ノ理由ヲ
示ササルヘカラス
當事者ノ引用セサル證人ノ證言ヲ採リテ判斷ノ材料ト爲シタル裁判ハ不法ナリ

○印紙税法施行後ニ於テ相當ノ證券印紙貼用ナキ證書ハ裁判上證據トシ
テ採用スヘカラサルモノトシ之ヲ排斥シタルハ印紙税法ヲ不當ニ適用
セサルモノナリ

○地上權ヲ以テ永小作權ナリト判定スルモ當事者間ニ於ケル法律關係ノ
認定上ニ影響及ホササルトキハ破毀ノ原因ト爲スニ足ラス

三三	三	二九	二七	三二	二六
二	二	九		七	一
五一	八五	一九二	一	四	四七

二五	七	五	四
二			六〇五
二八四	二七四	四四	

求事件ニ付キ單ニ其不足額辨濟ノ請求カ讓渡後二年内ニ爲サレサリシ
コトヲ理由トシテ原告ニ敗訴ヲ言渡シタル判決ハ違法ナリ

○肺結核ハ縱令被保險者ノ配偶者ニ於テ罹レルトキト雖モ被保險者ノ生
命ニ關シ危險測定ニ重大ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ單ニ保險契
約者及ヒ被保險者カ其夫ノ死因ニ關シ主タル疾患タル痔瘻ヲ告知シタ
ル以上ハ他ノ併發症タル肺結核ヲ告知スルニ及ハサルモノノ如ク判示
セル判決ハ失當タルヲ免レヌ

○當事者ノ提出シタル證據ハ總テ判斷ノ資料ニ供スヘキモノナレハ之ヲ
遺脱シテ判斷シタル判決ハ不法ニシテ破毀ヲ免レサルモノトス

○控訴人ノ住所ト控訴裁判所トノ距離カ何里ナルヤハ事實問題ニ屬スト
雖モ控訴裁判所カ控訴ノ適否ヲ決スルニハ職權ヲ以テ其里程ヲ確定シ
控訴期間ヲ遵守セルヤ否ヤヲ調査スヘキモノナレハ控訴裁判所カ不當
ニ里程ヲ確定ニ不當ニ控訴ノ適法ヲ認メタル場合ニハ之ヲ上告理由ト
爲スコトヲ得ルモノトス

(參照)

地所ノ買戻權ヲ抵當トシテ金員ヲ借用シ之カ返済期限ヲ定メタルモ若シ期限ニ至リ返済セザ
ルトキハ之ヲ買戻金ノ内ニ組入レ置キ買戻ノ際精算スヘシトノ契約アル證書ハ無期限ノ證書

五	一四五
五	一五〇
六	七二
六	一三三

ナルヲ以テ之ニ出訴期限規則ヲ適用シタルハ違法ノ裁判ナリ
證券印稅違犯者時効ノ年月ヲ經過シ公訴權消滅ニ屬シ處罰ノ責任ヲ免ルル場合ニ於テ其證書
ニ相當印紙ヲ貼用シ之ヲ提出シタルトキ其時効ノ如何ヲ論究セスシテ直ニ不受理ノ判決ヲ爲
シタルハ法則ヲ不當ニ適用シタルモノナリ
係争物件ノ性質刑事裁判ノ確定ニ依ルニ非サレハ之ヲ定ムヘカラサルトキハ先ツ刑事裁判進
行ノ結果如何ヲ極メ果シテ其性質贓物ナルニ於テハ刑法附則第五章ノ法條ニ準據スヘキモノ
ナルニ未タ實施セサル商法ノ法理ヲ説キ之ヲ判決ノ基礎ト爲シテ下シタル判定ハ違法タルヲ
免レヌ

第四百三十六條

『第四百三十六條』

○訴訟手續ノ違背ヲ以テ上告理由ト爲スニハ民事訴訟法第四百三十六條
規定ノ外ハ特ニ無効ト爲ルヘキ重要ナル場合又ハ當事者ノ利害ニ關係
ヲ有スル場合ナラサルヘカラス

○判決ニ當事者ノ氏名ヲ列記セサルノ瑕疵ハ民事訴訟法第四百三十六條
ノ所謂常ニ法律ニ違背シタルモノニ該當セス

○判決ニ法定代理人ヲ表示セサル欠缺ハ民事訴訟法第四百三十六條ニ列
舉セル事項ノ如キ常ニ法律ニ違背シタルモノトスヘキ要件ニ非ス

○構成上欠缺アル裁判所ニ於テ鑑定セシメタル鑑定ヲ採テ判斷ノ資料ニ
供シタル判決ハ利害ノ關係如何ヲ問ハス又當事者カ質責權ヲ行使シタ

二四	二	二四
二五	一	一一七
二五	四	六四
二六	三	二四八
二九	九	八九
三六		八三五

○承認ノ必要ヲ認メ乍ラ其如何ナル理由ニ基キタルカノ理由ヲ明示セサルトキハ法律ニ違背シタル裁判ナリ

二四

二

五

○不知ノ答述ヲ採用シ且判決ノ要點ニ理由ヲ付セサル裁判ハ破毀ノ原由アルモノトス

二五

一

三九

○單ニ組合營業ノ實權ヲ有スルノ故ヲ以テ營業者ト認メ速斷シタル裁判ハ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリ

二五

二

二二

○主要ナル争點ヲ不問ニ措キテ爲シタル裁判ハ不法ノ裁判ナリ

二五

三

五四

○當事者間ノ權利義務ノ消滅ニ非スシテ甲銀行ヨリ乙銀行ニ辨濟スヘキ負債ヲ甲銀行カ他ヨリ得ヘキ債權ヲ以テ振換ヘ即チ轉用セシコトノ記入アルニモ拘ハラズ裁判所ニ於テ唯之ヲ債權ノ放棄若クハ免除ト判定セシハ理由欠缺ノ裁判ナリ

二五

五

五九

○控訴郷ト記セハ無形人ナレトモ前後ノ判決理由ノ文意ニ就テ視レハ控訴郷ハ控訴郷民ノ畧記タルヲ知ルヘシ

二六

二

三六五

○原判文前段ニ於テ年期小作證書ヲ差入レタル事實アリト斷定シタルハ甲者外四名ヲ除クノ控訴人ノミニ係レルニ其後段ニ至リ更ニ此五名ニ對スル何等ノ理由ヲモ示サスシテ此五名モ亦自餘ノ者等ト同一ニ前契約ノ期限滿了シタルモノトシ新小作證書ヲ差入ルヘキ責務アリト爲シ

二六

二

四〇八

タルハ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリ

○村長ノ職務上保管スル帳簿ハ村民タリト雖モ隨意ニ披閱謄寫スルノ權ナキノミナラス其披閱謄寫ノ許否ハ公法上村長ノ職權ニ屬スルヲ以テ

二七

六

縱令村長ノ徵收シタル諸税ニシテ村民カ割戻ヲ受クヘキモノアリテ其私權利ヲ害ツレタリトスルモ其争訟ハ司法裁判ニ屬スヘキモノニ非スト説明シタルハ其理由ニ齟齬スル所アリト云フヲ得ス

二七

六

○當事者ノ資格ニ付キ争アリタルコトハ口頭辯論調書ニ明カナルニ其争ヲ判示説明セサルハ民事訴訟法第四百三十六條第七號ニ該當スル違法ノ裁判ナリ

二七

二九五

○原判決ノ初段ニハ第一審判決某ノ事ヲ中間判決ニ非スシテ本案ニ對スル終局判決ト認メタリ既ニ本案ニ對スル終局判決ト認ムル以上ハ之ニ對スル全部ノ控訴ハ單ニ一部ノ變更ヲ求ムルモノニ非スシテ第一審裁判全部ヲ廢棄シ第一審ニ於テ請求セル全金額ヲ請求スルコトハ自ラ明晰ナリ然ルニ原判決ノ後段ニ「控訴狀一定ノ申立中ニハ被控訴人ニ對シ金若干ノ支拂ヲ求ムル旨ノ申立ハ毫モ包含セス」ト説明シ本案ニ對スル全部ノ控訴ヲ棄却シタルハ前後撞著ノ裁判ナリ

二六

三五五

(同主旨)

判決ノ理由カ其主文ニ副ハサルモ當事者ノ利益ニ影響チ及ホササルトキハ上告ノ理由ト爲ラ

二九

一〇

五四

○「甲號證及ヒ各證人ノ供述ニ依リテ法律上離婚ノ原因ト爲ルヘキ虐待又ハ重大ナル侮辱ヲ受ケタリシ事實アリト認ムル能ハス」トノ理由ヲ以テ離婚ノ請求ヲ棄却シタル判決ハ起訴者カ請求ノ原因トスル日常殘忍ノ取扱ヲ受ケタル事實ヲ認ムルコト能ハスト云フニ在ルカ又ハ此事實ハ之ヲ認メ得ルモ未タ以テ離婚ノ原因ト爲スニ足ルヘキモノト認ムルコト能ハスト云フニ在ルヤ其意味明瞭ナラスシテ理由不備ノ違法アルモノトス

三六

七三

○共同訴訟人ノ一人カ私署證書ノ成立ヲ是認シ他ノ一人ハ之ヲ否認シタル場合ニ其真正ノ成立タルコトヲ確定セスシテ是認ノ效力ヲ否認者ニ及ホシタル判決ハ不法ナリ

三六

一四四

○裁判所カ裁判ヲ爲スニ適切ナル一ノ防禦方法ヲ採用シテ判決ノ資料ト爲シタル場合ニ於テ縱令其事項カ他ノ防禦方法ト牴觸スルコトヲ免レサルモ指シテ以テ理由ノ齟齬アルモノト云フヲ得ス

三七

五九

○運送取扱人トシテ起訴セラレタル者ニ對シ運送ヲ兼業セル事實ヲ認メ

三七

六七三

スシテ商法第二百四十八條ノ規定ヲ適用シタル判決ハ違法ナリ
○詐害行爲取消請求事件ニ於テ債務者及ヒ之ト賣買ヲ爲シタル相手方ニ債權者ヲ害スル惡意アリシ事實ノミヲ判示シ其實買ハ果シテ債權者ニ實害ヲ與ヘタルヤ否ヤヲ判示スルコトナク直ニ詐害行爲トシテ其取消ヲ命シタル判決ハ不法ナリ

三七

二三八

○貸借人カ其借家ニ火ヲ失シタル場合ト雖モ重大ナル過失ノ存セサル以上ハ賠償ノ責ヲ負フコトナシ從テ其失火ニ付キ重大ナル過失アリシヤ否ヤヲ審究セス單ニ失火ノ過失ニ基因セサルコトヲ認メ得ヘキ立證ヲ爲ササル理由ヲ以テ賠償ノ責任アリト爲シタル判決ハ不法ナリ(民法第四百十五條四五年三一五頁參照)

三六

一八二

○未成年者ニ對シ商取引ニ基ク債務ノ履行ヲ請求スル事件ニ於テ裁判所カ其取引當時ノ狀況ニ鑑ミ後見人之ヲ許容シタルコトヲ判示セルニ止マリ果シテ親族會ノ同意ヲ得テ許容シタルモノナルヤ否ヤヲ確定スルコトナク直ニ其取引ヲ取消シ得サルモノト斷定シタルハ不法ナリ
○當事者カ或私書ヲ否認シタルニ拘ハラス其成立ノ真正ナル理由ヲ判示セスシテ之ヲ採用シタル判決ハ不法ナリ

四〇

二三〇

四〇

二八九

○甲者カ乙者ノ爲メニ株金ノ拂込ヲ爲シタル後其利息ノ償還ヲ要求セル

○場合ニ於テ其拂込カ委任ニ原因スルト事務管理ニ原因スルトニ依リ要求シ得ヘキ利息ノ起算點ヲ異ニスルヲ以テ其原因ヲ定メスシテ漫然乙者ニ對シ立替ヲ受ケタル翌日ヨリ年五歩ノ利子ヲ支拂フヘキコトヲ命シタル判決ハ違法ナリ

○經濟狀態ニ因リ價格騰貴スルコトアルヘキ物品ヲ以テ地代ヲ定メタル場合ニ在リテハ其價格如何ヲ判示スルニ非サレハ未タ以テ其比率ノ當否ヲ知ルコト能ハサル筋合ナレハ之ヲ判示セサル判決ハ理由不備ノ不法アルモノトス

○裁判所カ實際ノ生活ニ於テ得タル常識經驗ヲ以テ心證判斷ノ資料ニ供スルモ斯ル常識經驗ノ如キハ特ニ之ヲ證明スルノ必要ナキモノナルヲ以テ其推理判斷ノ因ヲ生スル事實ニ付キ證據ヲ舉示セサレハトテ違法ナリト云フヲ得ス

○家屋取拂地所明渡ノ請求ニ對スル判決ニ於テ家屋ノ朽廢若クハ天災火災ニ因ル滅失ニ至ル迄期間存續スヘキ貸賃借ノ契約アリトノ理由ニ基キ請求ヲ排斥スルニハ其契約カ民法第六百四條第一項ニ牴觸セサル所以ノ旨趣ヲ明カニスルニ非サレハ判決ノ理由ヲ具備スルモノト言フコトヲ得ス

四二	七三
四三	二二
四四	七三
四五	二七

○破産宣告ノ申立ハ債權者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス又支拂ノ猶豫ハ債權ノ存立ヲ前提トスルニ非サレハ認ムルコトヲ得サル筋合ナレハ債權ノ存否ニ付キ審理判斷ヲ爲サスシテ直ニ支拂ノ猶豫ヲ認メ支拂停止ナシト判斷シタルハ裁判ノ理由ニ矛盾アルモノトス

○株券賣買ノ證據ニ援用シタル委任狀ニ關シ當事者乙カ之ヲ作成シテ甲ニ交付シタルコトニ付テハ爭テキ事實ナルニ裁判所ニ於テ甲カ乙ノ財産管理中乙ノ實印ヲ濫用シテ作成シタルモノト推斷シ以テ之ヲ排斥スルノ理由ト爲シタルハ當事者間ニ爭テキ事實ニ反スル事實ニ基キテ裁判シタルノ不法アルヲ免レヌ

○當事者ノ一方カ其過失ニ因リ相手方ノ長女ヲ死ニ致シタルニ付キ慰藉金支拂ノ義務アリト認メタル判決ハ不法行為ニ因リ相手方ノ長女ノ生命權ヲ侵害シタルモノナルコトヲ認メタルモノナレハ該判決ハ理由不備ノ違法アルモノニ非ス

○單ニ占有者ノ惡意ナル旨ヲ確定シタルニ止マリ如何ニシテ之ヲ占有スルニ至レルヤノ事實ヲ確定セヌ直ニ其占有者ニ不法行為上ノ損害賠償ヲ命シタル判決ハ理由不備ノ不法アルモノトス

○甲ヨリ乙ニ乙ヨリ丙ニ順次假裝賣買ヲ爲シ現在登記簿上丙ノ所有名義

四五	七九
元	一〇四三
三	四五三
四	五八五

タル土地ヲ甲ヨリ買受ケタル丁カ甲ニ對シ所有權移轉ノ登記手續ヲ請求シタルニ對シ甲以下乙丙ニ至ル賣買ノ假裝ナルヤ否ヤヲ不問ニ付シ去リ單ニ甲ハ登記簿上所有者ナラサルノ故ヲ以テ右登記手續ヲ爲ス能ハストシテ丁ノ請求ヲ排斥シタル判決ハ理由不備ノ不法アルモノトス

○不確定期限附債務ノ債務者ハ期限ノ到來ヲ知リタル時ヨリ遲滞ノ責ニ任スヘキモノナレハ之ヲ知リタルヤ否ヤノ事實ヲ確定セスシテ期限到來ノ時ヨリ遲滞ノ責ニ任セシメタル判決ハ失當ナリ

第四百三十七條

○上告期間内ニ甲某ヲ上告シ上告期間ヲ經過シタル後ニ及テ原法廷ニ於テ共同對手人タリシ乙丙等數人ノ記載ヲ脱落シタリトテ追加申請スルモ之ヲ期間内ニ提起シタル上告ト爲スヲ得ス

○民事訴訟法第六十七條第一項ノ期間伸長ノ規定ハ之ニ依リ伸長セラレタル期間ヲ以テ適法ノ期間ト爲スモノナレハ上告狀ノ提出ハ伸長期間内ニ爲スヲ以テ足り必スシモ本然ノ上告期間タル三十日内ニ其手續ヲ爲スコトヲ要セス

第四百三十八條

○民事訴訟法第四百三十八條第二項第一號ニ上告セラルル判決ノ表示ト

四	二五	四	四
四	三		
七三	三	一九五	九二

第四百三十九條

アルハ上告セラルル判決ヲ他ノ判決ト識別シ得ヘキ程度ニ表示スルコトヲ必要トスルノ法意ニシテ一定ノ方式ヲ必要トスルモノニ非ス

○民事訴訟法第二百三十六條第二號及ヒ第二百二十二條ノ事項ヲ採テ上告ヲ爲サントスルトキハ法則ノ表示ノ外仍ホ第四百三十八條ノ規定ニ從ヒ其欠缺ヲ明カニスル事實ノ表示ナカルヘカラス

第四百三十九條

○本院ニ於テ上告人ノ居留地ヲ住居地ト認メ法定ノ上告期間ヲ計算シ尙ホ之ニ其居留地ト本院トノ距離ニ應シ里程猶豫ノ日數ヲ加算スルモ上告期間外ノ提起ニ係ルトキハ之ヲ棄却スルハ民事訴訟法第四百三十九條第一項ノ命スル所ナリ

○原狀回復ノ申立ハ其理由ナキニ非サルヲ以テ民事訴訟法第四百三十九條第一項ノ規定中法律上ノ期間ニ於テ起ササルトキトアルニ該當スルモノトハ看做ササルモ同條項ノ末段ニ所謂第四百三十四條ノ規定ニ依ラサルトキトアルニ該當スルトキハ之ヲ棄却セサルヲ得ス

○上告人カ訴訟上ノ救助ヲ許可セラレタルニ非スシテ訴訟物價ノ相當ノ印紙ヲ上告狀ニ貼附セス又上告豫納金ヲ預入セサルトキハ其上告ハ不適法ナリ

六	二六	二	二七〇
六	二		
五三	二七〇	二五	二八

サス上告審ニ於テ右申立ノ部分ノミヲ破毀シ事件ヲ第二審ニ差戻シタル場合ニ於テハ他ノ破毀セラレザリシ部分ハ一部確定ノ效力ヲ生スルモノトス

四

一五九三

○控訴裁判所カ本案ノ終局判決ノ理由中ニ訴ノ原因ニ變更ナシトノ宣言ヲ爲シ右終局判決ハ上告審ニ於テ本案ノ理由ニ基キ破毀セラレタルトキハ其理由中ニ宣言セル訴ノ原因ニ變更ナキ旨ノ裁判ハ破毀セラレヌ

七

一四九四

○シテ存シ依然トシテ其確定ノ效力ヲ有スルモノトス
○上告裁判所カ原判決ヲ破毀スル場合ニ於テ第一審ニ於ケル口頭辯論調書焼失シ辯論ノ公開等方式ヲ遵守シテ第一審判決ノ適法ニ爲サレタルコトヲ知ルニ由ナキトキハ同判決ヲ廢棄シ事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スヲ相當トス

七

一七九二

○當事者雙方ヨリ提出セシ證據ニ依リ事實ヲ確定スヘキ場合ニ於テ其一方カ提出セル證據ノミニ依據シ他ノ一方カ反證トシテ提出セシ證據ヲ全然遺脱シテ事實ヲ確定シタルハ訴訟手續ニ違背セル裁判ニシテ破毀ヲ免レヌ

三

一八五

○訴訟手續違背ノ有無ハ職權調査ニ屬スル事項ナルヲ以テ當事者ノ申立又ハ證明ヲ竣テ始メテ之ヲ判定スヘキモノニ非サルヤ勿論ナリト雖モ

三

一八五

其違背ノ事實ヲ認識スルニ足ルヘキ事跡現ニ存在スルアルニ非サレハ漠然之ヲ推測スヘキモノニ非ス

三五

一八五

○裁判所カ訴訟事件ノ審判ヲ爲スニ當リ訴ノ適法ナリヤ否ヤノ争點ヲ調査スルコトナク直ニ本案ノ攻撃防禦ノ方法ニ付キテ判斷ヲ下シ實體上ヨリ請求ノ當否ヲ決スルハ訴訟手續ノ違背タルヲ免レサルモノトス

二

四三

第四百四十八條

「第四百四十八條」

○控訴ノ判決カ上告ニ因リ破毀セラレ控訴審ニ差戻又ハ移送セラレタルトキハ事件ハ控訴ノ辯論及ヒ判決ヲ爲サザリシ以前即チ嘗テ控訴審ニ繫屬シタルトキノ程度ニ復スヘキモノトス

三

二八二

○上告審ニ於テ終局判決ヲ破毀シ之ヲ原審ニ差戻スモ終局判決前ノ中間判決ニシテ破毀セラレサル以上ハ其效力ヲ失フモノニ非サルヲ以テ差戻ヲ受ケタル裁判所カ新辯論ニ基キ裁判ヲ爲スニ付テハ上告審ノ表示シタル法律上ノ意見ニ牴觸セサル限ハ尙ホ依然トシテ中間判決ノ羈束ヲ免レヌ

二

一四二

○民事訴訟法第四百四十八條第三項但書ノ規定ハ同條第二項ニ依リ申立ニ因リ事件ノ差戻ヲ控訴裁判所ノ他ノ民事部ニ爲シタル場合ニ限り之ヲ適用スヘキモノトス

四

一六二

第四百五十一條

民事訴訟法 上訴 上告

一六八四

第四百五十條

○大審院カ第一回ノ上告以來私訴ノ成立ヲ認許シ其理由ヲ付シテ控訴院ニ移送シタル場合ニ於テ控訴院カ「私訴トシテ提起スヘキニ非サルヤ判然」ト説明シテ棄却シタルハ不法ナリ

○上告審ニ於テ控訴裁判所カ訴ノ變更アリト判決シタルモノヲ更ニ訴ノ變更ナキモノト判斷シ事件ヲ差戻シタルトキハ第二審ノ裁判所ハ裁判所構成法第四十八條及ヒ民事訴訟法第四百五十條ニ依リ其判斷ニ羈束セラル

○民法第一百條ニ所謂正當ノ理由アリトスルニハ本人ノ過失ヲ要スルヤ否ヤハ法律上ノ問題ニ屬スヘキハ勿論代理人カ犯罪行為ヲ爲シタル事實ノミ存在スル場合ニ於テ本人ニ過失アリト爲スヘキヤ否ヤモ亦同シク法律上ノ問題ニ屬スルモノトス

第四百五十二條

民事訴訟法 上訴 上告

一六八四

第四百五十一條

○事實確定シテ裁判ヲ爲スニ熟シ且民事訴訟法第四百二十二條ニ當ル場合ニハ上告裁判所ハ其事件ヲ直ニ第一審裁判所ニ差戻スヘキモノトス

○丙者ノ有シシ證書ノ成立ハ甲者カ某家ノ戸主以前ニ係ルモ現ニ戸主中

二七	二七	二七	二七
二七	二七	二七	二七
二七	二七	二七	二七
二七	二七	二七	二七

第四百五十三條

民事訴訟法 上訴 上告

一六八五

負擔スヘキ義務トシテ起訴セラレ之ニ對スル裁判確定シテ遂ニ其相續人タル乙者ノ債務ニ歸シタルコト原判文ノ理由ニ徴シテ明カナルトキハ判文中該證ハ甲者ノ戸主中ニ起因シタルモノトセシハ失當ナリトスルモ曩ノ確定判決ニハ影響ナキノミナラス甲者退隱後ニ生シタルモノニ非サレハ退隱後ノ甲者ハ之ニ關係ナキヲ以テ丙者ハ甲者ニ對シ訴權ヲ有セサルモノト判定セシ理由ニ因リ原裁判ノ正當ナルコトヲ明知シ得ヘケレハ單ニ證書成立ノ時期ニ誤認アレハトテ破毀ノ理由ト爲ラス而シテ原判決ハ此件ト曩ノ確定判決トハ甲者ノ資格ニ於テ全ク異ナル事實ヲ認メ乍ラ之ニ對シ一事再理ノ法則ヲ適用シタルハ瑕瑾ヲ免レスト雖モ前ニ述ヘタル如ク他ノ理由ニ因リ原裁判ノ正當ナルコトヲ認メタル以上ハ上告ヲ棄却スヘキモノトス

同主旨

○裁判カ法律ニ違背シタルトキト雖モ他ノ理由ニ因リ裁判ノ正當ナルトキハ其判決ヲ破毀スヘキモノニ非ス

民事訴訟法 上訴 上告

一六八五

二六	二五	二六	二六
二六	二六	二六	二六
二六	二六	二六	二六
二六	二六	二六	二六

○控訴ニ於テ新ニ利子ヲ請求スルトキ控訴院カ之ヲ聽許シテ民事訴訟法第四百十六條ノ新ナル請求ニ非スト説明シタルハ不法ヲ免レスト雖モ其判決ハ正當ナリ何トナレハ同條ニ於ケル新ナル請求ノ内相殺ノ場合ハ其過失ニ非スシテ第一審ニ於テ提出シ能ハサルコトヲ疏明セサレハ之ヲ聽許スヘキモノニ非サレトモ其他ノ新ナル請求ハ疏明ヲ要セスシテ聽許スヘキモノナルヲ以テナリ則チ此場合ニ在テハ大審院ハ同法第四百五十三條ノ所謂「裁判カ其理由ニ於テ法律ニ違背シタルトキト雖モ他ノ理由ニ因リ裁判ノ正當ナルトキハ上告ヲ棄却スヘシ」トノ法條ヲ適用スヘキモノトス

○法律上許スヘキ妨訴抗辯ヲ許サザリシハ違法ナリト雖モ其抗辯ヲ本案ニ對スルモノト爲シ判斷ヲ與ヘタル以上ハ妨訴ノ抗辯ト本案トヲ併セテ判定シタル筋合ニシテ其違法ハ形式上ニ止マリ實體上利害ヲ生スヘキ謂レナキニ付キ破毀ノ理由ト爲ラス

○後見人ノ越權行爲ヲ無効ノモノト爲シ原判決理由ノ末段ニ於テ「無効ノ行爲ナルコトヲ知リツツ云云」ト掲載シタル説明ハ本院ノ判例ニ背クト雖モ同理由ノ前段ニ行爲追認ノ事實ヲ認ムル旨ノ説明アリテ實質上取消シ得ヘキ行爲ヲ追認セルコトノ事實ヲ認メタル筋合ト爲ルニ付

三五 一〇 一八

三三 六 八二

第四百五十四條

キ原判決ハ結局相當ニシテ違法ナキコトニ歸著ス
○控訴裁判所カ約束手形ノ振出ヲ以テ民法第十二條ニ所謂借財ニ該當セスト説明シタルハ本院ノ判例ト相異ナルモ其後段ニ親權ヲ行フ繼母カ未成年ノ繼子ニ代リテ約束手形ヲ振出スニハ民法第八百七十八條第九百二十九條第十二條ニ依リ親族會ノ同意ヲ要スト判示シタル以上ハ其旨趣全然同一ニ歸著シ結局正當ナルヲ以テ上告ノ理由ト爲スニ足ラス

第四百五十五條

○新闕席判決ハ故障ヲ許ササル闕席判決ナルヲ以テ之ニ對シテハ懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキニ限リ上告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルモノトス

○終局判決前ニ爲シタル裁判カ中間訴訟ノ闕席判決ニシテ故障ヲ許スモノナルトキハ故障申立ノ方法ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルニ止マリ之ニ對スル不服ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得サルモノトス

○必要的共同訴訟ニ屬セサル共同訴訟人ノ一人ニ對スル上告ノ取下アリタル場合ニ在リテハ其者ニ關スル原審ノ訴訟手續ノ違法ハ他ノ共同訴訟人ニ對スル上告ノ理由ト爲スニ足ラサルモノトス

○職權ヲ以テ調査スヘキ性質ノモノハ縱令第一審ニ於テ提出者自身ニ一

七 九一五

五 一六七

四 九三五

三 九五九

○且取消シタルモ更ニ之ヲ大審院ニ提出スルモ敢テ不當ナリト云フヲ得
ス(民訴四五四條六號四一四條)又本件ハ行政廳ニ係リ營業免許ノ取消
ヲ求ムルモノニ非スシテ漁業權ノ侵害ヲ救済センカ爲メ對手人カ行政
廳ヨリ受ケタル所ノ免許取消願ノ手續ヲ爲サシメント求ムルモノナレ
ハ司法裁判ニ屬スルモノトス

○甲者ノ實父乙者ノ名義ヲ以テ金圓ヲ貸與スト雖モ其實ハ甲者ノ商業資
本ニ借入レタルモノナリトノ事實ヲ確定シ其債務ニ付テハ甲者ト乙者
共ニ連帶ノ義務アリト判決シタリ此債務ニシテ甲者ノ債務ト定マル以
上ハ乙者ニ於テ其連帶義務ノ負擔ニ付テ不服ヲ唱フルハ格別之カ爲メ
却テ利益ヲ得タル甲者ニ於テ不服ヲ唱フルノ理ナシ抑我民事訴訟法ハ
或場合ニ在ラサレハ控訴人ノ不利益ニ判決ヲ變更スルコトヲ得サル旨
ナルヲ以テ縱令原判決ニシテ連帶責任ヲ推定シタル違法アルモノトス
ルモ原判決ヲ變更セシムルニ於テハ結局甲者ノ不利益ニ歸スヘキモノ
ナルカ故ニ大審院ニ於テハ此理由ヲ以テ原判決ヲ破毀スルコトヲ得サ
ルモノトス

第三章 抗告

○訴訟代理人カ裁判所ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スニハ委任者タル本人ノ名
義ヲ用ユヘキモノニシテ自己ノ名義ヲ以テスルコトヲ許シタル規定ナ
シ

○辯論中止ノ申請ヲ却下セラレタル者カ既ニ終局判決ヲ受ケタル後ハ縱
令其決定ニ不服アルモ抗告ヲ提起スルヲ得ス

○一ノ裁判ニ對シテハ二重ニ抗告ヲ提起スルコトヲ許サス

○抗告ニ付キ決定アリタル後抗告人ヨリ追加申立書ヲ提出スルモ裁判所
ハ該申立ニ對シ判斷ヲ爲ササルヲ當然トス

○抗告手續ニ於テ相手方ノ死亡ニ因ル手續ノ中斷アリタルトキハ民事訴
訟法第七十八條ノ準用ニ依リ抗告人ハ裁判所ニ對シ相手方ノ承繼人
ヲシテ手續ヲ續行セシムヘキ旨ノ申立ヲ爲スヘク裁判所ハ其申立ニ付
キ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

(第四百五十五條)

『第四百五十五條』

○口頭辯論期日ヲ適式ニ通知セサルヲ理由トスル抗告ハ民事訴訟法第四
百五十五條ニ適合セサルヲ以テ抗告ヲ許スヘキモノニ非ス

○破産決定正本送達申請ヲ却下スル決定ハ民事訴訟法第四百五十五條ノ
所謂訴訟手續ニ關スル申請ヲ口頭辯論ヲ經スシテ却下シタルモノニ該

三六	四〇	四二	四四	四七	四九
二九	三三	三七	四一	四五	四九
五	九	一三	一七	二一	二五
八〇	八四	八八	九二	九六	一〇〇

二七	三〇	三三	三六	三九	四二
二七	三〇	三三	三六	三九	四二
二七	三〇	三三	三六	三九	四二
二七	三〇	三三	三六	三九	四二

當セス

○會社解散ノ申請ヲ棄却シタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲シ得ヘキ法律ノ規定ナキニ依リ其裁判如何ニ不當ノ廉アルモ之ニ對シ抗告ヲ爲スノ權ナシ

○假差押ノ爲メ供託シタル保證金還付ノ申請ヲ却下シタル決定ハ強制執行ノ手續上口頭辯論ヲ經スシテ爲シタル裁判ナルヲ以テ之ニ對シテハ抗告ヲ爲スヲ得ヘシ

○口頭辯論終結後ニ於ケル辯論ノ再開ハ裁判所ノ職權ニ屬スルヲ以テ縱令當事者ヨリ提出シタル辯論再開ノ申請ヲ却下スルモ之ニ對シ抗告スルヲ得サルモノトス

○執達吏ハ民事訴訟法第八十三條ノ規定ニ於ケル費用ノ辨濟ヲ負擔スヘキ決定ヲ受ケタルカ如キ場合ノ外ハ常ニ公務上ニ關シ抗告ヲ爲シ得ヘキモノニ非ス

○假處分取消ノ申請ニ對シ第一審裁判所カ決定ヲ以テ其取消ヲ命スルハ違法ナレトモ斯ノ如キ裁判ニ對シテハ抗告ニ依リテ救濟ヲ求ムルコトヲ得ス

(同主旨)

二九	一〇	三四
三〇	一一	二九
三一	一二	二六
三二	一三	二五
三三	一四	二四
三四	一五	二三
三五	一六	二二
三六	一七	二一
三七	一八	二〇
三八	一九	一九
三九	二〇	一八
四〇	二一	一七
四一	二二	一六
四二	二三	一五
四三	二四	一四
四四	二五	一三
四五	二六	一二
四六	二七	一一
四七	二八	一〇
四八	二九	〇九
四九	三〇	〇八
五〇	三一	〇七
五一	三二	〇六
五二	三三	〇五
五三	三四	〇四
五四	三五	〇三
五五	三六	〇二
五六	三七	〇一
五七	三八	〇〇
五八	三九	九九
五九	四〇	九八
六〇	四一	九七
六一	四二	九六
六二	四三	九五
六三	四四	九四
六四	四五	九三
六五	四六	九二
六六	四七	九一
六七	四八	九〇
六八	四九	八九
六九	五〇	八八
七〇	五一	八七
七一	五二	八六
七二	五三	八五
七三	五四	八四
七四	五五	八三
七五	五六	八二
七六	五七	八一
七七	五八	八〇
七八	五九	七九
七九	六〇	七八
八〇	六一	七七
八一	六二	七六
八二	六三	七五
八三	六四	七四
八四	六五	七三
八五	六六	七二
八六	六七	七一
八七	六八	七〇
八八	六九	六九
八九	七〇	六八
九〇	七一	六七
九一	七二	六六
九二	七三	六五
九三	七四	六四
九四	七五	六三
九五	七六	六二
九六	七七	六一
九七	七八	六〇
九八	七九	五九
九九	八〇	五八
一〇〇	八一	五七
一〇一	八二	五六
一〇二	八三	五五
一〇三	八四	五四
一〇四	八五	五三
一〇五	八六	五二
一〇六	八七	五一
一〇七	八八	五〇
一〇八	八九	四九
一〇九	九〇	四八
一一〇	九一	四七
一一一	九二	四六
一一二	九三	四五
一一三	九四	四四
一一四	九五	四三
一一五	九六	四二
一一六	九七	四一
一一七	九八	四〇
一一八	九九	三九
一一九	一〇〇	三八
一二〇	一〇一	三七
一二一	一〇二	三六
一二二	一〇三	三五
一二三	一〇四	三四
一二四	一〇五	三三
一二五	一〇六	三二
一二六	一〇七	三一
一二七	一〇八	三〇
一二八	一〇九	二九
一二九	一〇〇	二八
一三〇	一〇一	二七
一三一	一〇二	二六
一三二	一〇三	二五
一三三	一〇四	二四
一三四	一〇五	二三
一三五	一〇六	二二
一三六	一〇七	二一
一三七	一〇八	二〇
一三八	一〇九	一九
一三九	一〇〇	一八
一四〇	一〇一	一七
一四一	一〇二	一六
一四二	一〇三	一五
一四三	一〇四	一四
一四四	一〇五	一三
一四五	一〇六	一二
一四六	一〇七	一一
一四七	一〇八	一〇
一四八	一〇九	〇九
一四九	一〇〇	〇八
一五〇	一〇一	〇七
一五一	一〇二	〇六
一五二	一〇三	〇五
一五三	一〇四	〇四
一五四	一〇五	〇三
一五五	一〇六	〇二
一五六	一〇七	〇一
一五七	一〇八	〇〇
一五八	一〇九	九九
一五九	一〇〇	九八
一六〇	一〇一	九七
一六一	一〇二	九六
一六二	一〇三	九五
一六三	一〇四	九四
一六四	一〇五	九三
一六五	一〇六	九二
一六六	一〇七	九一
一六七	一〇八	九〇
一六八	一〇九	八九
一六九	一〇〇	八八
一七〇	一〇一	八七
一七一	一〇二	八六
一七二	一〇三	八五
一七三	一〇四	八四
一七四	一〇五	八三
一七五	一〇六	八二
一七六	一〇七	八一
一七七	一〇八	八〇
一七八	一〇九	七九
一七九	一〇〇	七八
一八〇	一〇一	七七
一八一	一〇二	七六
一八二	一〇三	七五
一八三	一〇四	七四
一八四	一〇五	七三
一八五	一〇六	七二
一八六	一〇七	七一
一八七	一〇八	七〇
一八八	一〇九	六九
一八九	一〇〇	六八
一九〇	一〇一	六七
一九一	一〇二	六六
一九二	一〇三	六五
一九三	一〇四	六四
一九四	一〇五	六三
一九五	一〇六	六二
一九六	一〇七	六一
一九七	一〇八	六〇
一九八	一〇九	五九
一九九	一〇〇	五八
二〇〇	一〇一	五七
二〇一	一〇二	五六
二〇二	一〇三	五五
二〇三	一〇四	五四
二〇四	一〇五	五三
二〇五	一〇六	五二
二〇六	一〇七	五一
二〇七	一〇八	五〇
二〇八	一〇九	四九
二〇九	一〇〇	四八
二一〇	一〇一	四七
二一一	一〇二	四六
二一二	一〇三	四五
二一三	一〇四	四四
二一四	一〇五	四三
二一五	一〇六	四二
二一六	一〇七	四一
二一七	一〇八	四〇
二一八	一〇九	三九
二一九	一〇〇	三八
二二〇	一〇一	三七
二二一	一〇二	三六
二二二	一〇三	三五
二二三	一〇四	三四
二二四	一〇五	三三
二二五	一〇六	三二
二二六	一〇七	三一
二二七	一〇八	三〇
二二八	一〇九	二九
二二九	一〇〇	二八
二三〇	一〇一	二七
二三一	一〇二	二六
二三二	一〇三	二五
二三三	一〇四	二四
二三四	一〇五	二三
二三五	一〇六	二二
二三六	一〇七	二一
二三七	一〇八	二〇
二三八	一〇九	一九
二三九	一〇〇	一八
二四〇	一〇一	一七
二四一	一〇二	一六
二四二	一〇三	一五
二四三	一〇四	一四
二四四	一〇五	一三
二四五	一〇六	一二
二四六	一〇七	一一
二四七	一〇八	一〇
二四八	一〇九	〇九
二四九	一〇〇	〇八
二五〇	一〇一	〇七
二五一	一〇二	〇六
二五二	一〇三	〇五
二五三	一〇四	〇四
二五四	一〇五	〇三
二五五	一〇六	〇二
二五六	一〇七	〇一
二五七	一〇八	〇〇
二五八	一〇九	九九
二五九	一〇〇	九八
二六〇	一〇一	九七
二六一	一〇二	九六
二六二	一〇三	九五
二六三	一〇四	九四
二六四	一〇五	九三
二六五	一〇六	九二
二六六	一〇七	九一
二六七	一〇八	九〇
二六八	一〇九	八九
二六九	一〇〇	八八
二七〇	一〇一	八七
二七一	一〇二	八六
二七二	一〇三	八五
二七三	一〇四	八四
二七四	一〇五	八三
二七五	一〇六	八二
二七六	一〇七	八一
二七七	一〇八	八〇
二七八	一〇九	七九
二七九	一〇〇	七八
二八〇	一〇一	七七
二八一	一〇二	七六
二八二	一〇三	七五
二八三	一〇四	七四
二八四	一〇五	七三
二八五	一〇六	七二
二八六	一〇七	七一
二八七	一〇八	七〇
二八八	一〇九	六九
二八九	一〇〇	六八
二九〇	一〇一	六七
二九一	一〇二	六六
二九二	一〇三	六五
二九三	一〇四	六四
二九四	一〇五	六三
二九五	一〇六	六二
二九六	一〇七	六一
二九七	一〇八	六〇
二九八	一〇九	五九
二九九	一〇〇	五八
三〇〇	一〇一	五七

○執行文付與ニ對スル異議ノ申立ニ付キ爲シタル裁判ニ對シテハ民事訴訟法第四百五十五條ノ制限ニ依リ抗告ヲ許スコトヲ得ス

○證據決定ニ對シテハ民事訴訟法中特ニ抗告ヲ許シタル規定ナキヲ以テ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

○普通ノ民事訴訟ニ屬スルトヲ問ハス其裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スニハ民事訴訟法第四百五十五條以下ノ規定ニ依ルヘキモノトス

○養親カ養子ニ對シ同居ノ假處分ヲ求ムル事件ハ人事訴訟ニ屬スルト將テ抗告ヲ許シタル規定ナシ

○上告豫納金ヲ添附セサル爲メ上告狀ヲ差戻シタル事件ニ付テハ法令中ニ依リ抗告ヲ許スコトヲ得ス

○假處分命令取消ノ申立ニ對シ民事訴訟法第七百四十五條ニ違背シ終局判決ヲ爲サス決定ヲ以テ裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ法律ノ規定ナキヲ以テ抗告ヲ許サルモノトス

○假處分取消ノ申立ニ付キ民事訴訟法第七百四十七條第二項ノ規定ヲ準用セス命令ヲ以テ假處分命令取消ノ裁判ヲ爲シタルハ違法ナリト雖モ此裁判ニ對シテハ同法第四百五十五條ノ規定ニ依リ抗告ヲ許スコトヲ得ス

○本案ノ裁判所ニ於テ爲シタル假處分取消ノ決定ニ對シテハ其裁判ノ違法ナルニ拘ハラス民事訴訟法第四百五十五條ノ制限ニ依リ抗告ヲ許スコトヲ得ス

(反對)

○終局判決ヲ以テスヘキ決定ヲ以テシタル裁判ニ對スル抗告ハ民事訴訟法第四百五十五條ニ則リ之ヲ受理シ其決定ヲ廢棄シテ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ニ事件ヲ差戻スヘキモノトス

○假處分命令取消ノ申立ニ對シ民事訴訟法第七百四十五條ニ違背シ終局判決ヲ爲サス決定ヲ以テ裁判ヲ爲シタル場合ニ於テハ法律ノ規定ナキヲ以テ抗告ヲ許サルモノトス

○假處分取消ノ申立ニ付キ民事訴訟法第七百四十七條第二項ノ規定ヲ準用セス命令ヲ以テ假處分命令取消ノ裁判ヲ爲シタルハ違法ナリト雖モ此裁判ニ對シテハ同法第四百五十五條ノ規定ニ依リ抗告ヲ許スコトヲ得ス

○本案ノ裁判所ニ於テ爲シタル假處分取消ノ決定ニ對シテハ其裁判ノ違法ナルニ拘ハラス民事訴訟法第四百五十五條ノ制限ニ依リ抗告ヲ許スコトヲ得ス

(反對)

三三	五	一
三四	二	二七
三五	三	二七
三六	四	二七
三七	五	二七
三八	六	二七
三九	七	二七
四〇	八	二七
四一	九	二七
四二	一〇	二七
四三	一一	二七
四四	一二	二七
四五	一三	二七
四六	一四	二七
四七	一五	二七
四八	一六	二七
四九	一七	二七
五〇	一八	二七
五一	一九	二七
五二	二〇	二七
五三	二一	二七
五四	二二	二七
五五	二三	二七
五六	二四	二七
五七	二五	二七
五八	二六	二七
五九	二七	二七
六〇	二八	二七
六一	二九	二七
六二	三〇	二七
六三	三一	二七
六四	三二	二七
六五	三三	二七
六六	三四	二七
六七	三五	二七
六八	三六	二七
六九	三七	二七
七〇	三八	二七
七一	三九	二七
七二	四〇	二七
七三	四一	二七
七四	四二	二七
七五	四三	二七
七六	四四	二七
七七	四五	二七
七八	四六	二七
七九	四七	二七
八〇	四八	二七
八一	四九	二七
八二	五〇	二七
八三	五一	二七
八四	五二	二七
八五	五三	二七
八六	五四	二七
八七	五五	二七
八八	五六	二七
八九	五七	二七
九〇	五八	二七
九一	五九	二七
九二	六〇	二七
九三	六一	二七
九四	六二	二七
九五	六三	二七
九六	六四	二七
九七	六五	二七
九八	六六	二七
九九	六七	二七
一〇〇	六八	二七
一〇一	六九	二七
一〇二	七〇	二七
一〇三	七一	二七
一〇四	七二	二七
一〇五	七三	二七
一〇六	七四	二七
一〇七	七五	二七
一〇八	七六	二七
一〇九	七七	二七
一〇〇	七八	二七
一〇一	七九	二七
一〇二	八〇	二七
一〇三	八一	二七
一〇四	八二	二七
一〇五	八三	二七
一〇六	八四	二七
一〇七	八五	二七
一〇八	八六	二七
一〇九	八七	二七
一〇〇	八八	二七
一〇一	八九	二七
一〇二	九〇	二七
一〇三	九一	二七
一〇四	九二	二七
一〇五	九三	二七
一〇六	九四	二七
一〇七	九五	二七
一〇八	九六	二七
一〇九	九七	二七
一〇〇	九八	二七
一〇一	九九	二七
一〇二	一〇〇	二七
一〇三	一〇一	二七
一〇四	一〇二	二七
一〇五	一〇三	二七
一〇六	一〇四	二七
一〇七	一〇五	二七
一〇八	一〇六	二七
一〇九	一〇七	二七
一〇〇	一〇八	

○ 訟法中抗告ヲ許シタル規定ナケレハ全ク抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

○ 訴訟上救助ノ申請後其付與前ニ於テ控訴狀ニ貼用セシ印紙金額還付ノ申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ抗告ヲ許シタル規定ナシ

○ 供託金還付ノ裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲シ得ヘキ法規ナキヲ以テ抗告ヲ許ササルモノトス

○ 公證人ノ執行文付與ニ關スル異議ノ申立ニ付キ爲シタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ申立ツルコトヲ得サルモノトス

○ 假處分命令申請ノ却下ノ決定ニ對スル抗告ニ付キ口頭辯論ヲ開キタルニ拘ハラズ決定ヲ以テ其裁判ヲ爲シタル場合ニ於ケル上訴ハ抗告ヲ以テ爲スヘキモノトス

第四百五十六條

第四百五十六條

○ 大審院ノ決定ニ對シテハ更ニ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

○ 抗告裁判所ノ委任ニ因ル下級裁判所ノ裁判ハ抗告裁判所ノ裁判ニ非サレハ其裁判ニ對シテ抗告ヲ爲スヘキ場合ニ於テ所謂直近上級ノ裁判所ハ委任ヲ爲シタル抗告裁判所ニシテ其上級ノ裁判所ニ非ス

(同主旨)

三九	二六	七	三	四	三	四
三九	二六	七	三	四	三	四
七三	二六	七	三	四	三	四
七三	二六	七	三	四	三	四

民事訴訟法第四百六十四條ノ委任ニ依リ爲シタル裁判ニ對スル抗告ハ普通ノ場合ト均シク直近上級裁判所即チ其委任ヲ爲シタル裁判所ニ提出スヘキモノトス

○ 民事訴訟法第四百五十六條第一項ニ所謂直近ノ上級裁判所トハ裁判所構成法ノ規定ニ從ヒ抗告ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ヲ指スモノトス

○ 抗告理由カ形式上適法ナルトキハ縱令實質上前ノ裁判ヲ變更シ得ルノ申斐ナキモノタルニモセヨ個ハ唯實質上ノ判斷ニ於テ前ノ裁判ヲ變更スルノ理由ナシト云フ迄ニ止マリ之ヲ以テ新ナル獨立ノ抗告理由ナシトシテ棄却スヘキ筋ナキモノトス

○ 下級裁判所ノ裁判ニ因リ生シタル抗告理由ハ以テ抗告裁判所ノ裁判ニ因リ生シタル新ナル抗告理由ト云フヲ得ス又下級裁判所ト抗告裁判所トノ裁判カ同一ノ理由ニ基クトキハ亦之ニ因リ生シタル抗告理由ヲ以テ獨立ノ抗告理由ト云フヲ得ス

○ 抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ縱令其理由中ニ不當ノ廉アルモ其裁判ニ由リ新ナル獨立理由ヲ生シタルトキニ非サレハ更ニ抗告スルヲ得ス

(同主旨)

再抗告人カ原裁判所ニ於テ主張シタル理由ト同一ニシテ新ナル獨立ノ理由アルニ非サレハ再抗告ノ要素ナキヲ以テ之ヲ棄却ス

再抗告ハ抗告裁判所ノ裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキニ非サレハ提起スル

二七	三	三	六	四	二九	六
二七	三	三	六	四	二九	六
二	四	六	一	二	三	四
二	四	六	一	二	三	四

ヲ得ス

抗告裁判所ノ裁判ノ理由ニ不當ノ廉アリトスルモ新ナル獨立ノ抗告理由ナキトキハ之ヲ以テ再抗告ヲ爲スヲ得ス

○民事訴訟法第四百五十六條第二項ニ謂フ新ナル獨立ノ抗告理由ナルモノハ攻撃セラルヘキ裁判ニ因リ直接ニ生シタル抗告理由ニシテ其裁判ニ付シタル理由ノ新ナルモノニ對シ其當否ヲ攻撃スル場合ニ於テハ右ノ規定ニ所謂新ナル獨立ノ理由アリト云フヘカラス

○抗告裁判所カ原決定中支拂停止ノ日時ヲ指定セル部分ヲ變更シテ之ヲ其レヨリ以前ノ日時ト爲シタルトキハ民事訴訟法第四百五十六條ニ所謂新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生スルモノトス

(同主旨)

抗告裁判所カ第一審裁判所ノ認メタル支拂停止ノ日時ヨリ以前ニ支拂停止アリタルモノト決定シタルトキハ之カ爲メ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生スルモノトス

○抗告ニシテ法律上ノ方式ニ從ハサルカ又ハ相當ナル印紙ヲ貼用セサルノ理由ヲ以テ棄却セラレタルトキハ抗告人ハ其缺點ヲ補正シテ期間内更ニ抗告ヲ爲スコトヲ妨ケスト雖モ民事訴訟法第四百五十六條第二項ニ該當セサルヲ理由トシテ棄却セラレタルトキハ再ヒ同一ノ抗告裁判所ニ之ヲ申立ツルコトヲ得ス

○抗告人ノ提出ニ係ル新事實ト證據トヲ無視シテ爲シタル抗告裁判所ノ裁判ハ重要ナル訴訟手續ニ違背シタルモノニシテ民事訴訟法第四百五十六條ニ所謂抗告裁判所ノ裁判ニ因リテ生シタル新ナル獨立ノ抗告理由ヲ具スルモノトス

(同主旨)

抗告人ニ於テ新ナル事實ノ申立ヲ爲シタルトキハ抗告裁判所ハ其主張ノ新事實カ正當ナルヤ否ヤヲ審査判定セサルヘカラス故ニ若シ之ヲ不問ニ付シタルトキハ重要ナル訴訟手續ニ違背セルモノニシテ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生スルモノトス

○抗告裁判所カ抗告人ノ提出セル理由中數點ノ判斷ヲ遺脱シテ抗告ヲ不適法トシテ棄却シタルトキハ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生スルモノトス
○抗告裁判所ニ於テ前審裁判所ヨリ抗告ノ送付ヲ受ケタル後抗告人カ理由追加申立書ヲ提出シタルモノ前審裁判所ニ提出スヘキモノトシテ之ヲ差戻シ直ニ抗告棄却ノ裁判ヲ爲シタルトキハ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生スルモノトス

○抗告裁判所カ不動産競落許可決定ニ對スル抗告ヲ強制競賣手續ニ關スル異議申立却下ノ決定ニ對スルモノト誤認シ其抗告主旨ニ付キ何等ノ判斷ヲ與ヘス不適法ノ抗告トシテ之ヲ棄却シタルトキハ重要ナル裁判

二六	一	五二
三	四	九
三五	四	一〇五
三六		九六〇
三七	六	八二
三七		六九五
三七		一四七七
三六		四七五
三六		一五
三六		三〇

手續ニ違背セルモノニシテ其裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生スルモノトス

○強制競賣申立取下ノ申請ヲ却下シタル決定ニ對シテハ民事訴訟法第四百五十五條ノ規定ニ從ヒ利害關係人ヨリ抗告ヲ爲スコトヲ得而シテ抗告裁判所カ下級裁判所ト相異ナル裁判ヲ爲シ反對ノ利害關係人ノ爲メニ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキハ更ニ抗告ヲ爲シ得ヘキモノトス

○抗告裁判所カ強制競賣申立取下ノ申請ヲ却下シタル執行裁判所ノ裁判ニ對シテハ抗告ヲ許ササルモノト爲シ其抗告ニ基因スル再抗告ヲ不適法トシテ棄却シタルトキハ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生スルモノトス

○抗告裁判所ノ裁判ニ因リ生シタル獨立ノ抗告理由ハ抗告裁判所カ裁判所構成ノ規定又ハ重要ナル訴訟手續ニ違背シタルカ若クハ抗告裁判所ノ裁判ト前審ノ裁判ト相異ナリタル場合ニ在ラサレハ存セサルモノトス

(同主旨)

民事訴訟法第四百五十六條第二項ノ新ナル獨立ノ抗告理由トハ裁判所構成ノ規定若クハ訴訟手續ニ違背シテ裁判ヲ爲シ又ハ一層抗告人ニ不利益ナル裁判ヲ爲シタルカ如キ場合ヲ指稱ス

民事訴訟法第四百五十六條第二項ニ謂フ新ナル獨立ノ抗告理由ハ抗告裁判所ノ裁判カ前審ノ裁判ト主文上ニ差異ヲ生シタルカ又ハ抗告裁判所カ重要ナル訴訟手續ニ違背シタル場合ニ在ラサレハ存セサルモノトス

○證據調ノ限度ハ裁判所ノ裁量シ得ル所ナレトモ唯一ノ證據方法ナルコトヲ顧ミスシテ其取調ヲ爲ササルカ如キハ重要ノ訴訟手續ニ違背シタル不法アルモノニシテ獨立ノ抗告理由ヲ生シタルモノトス

(同主旨)
公示送達ノ無効ナル事實ヲ立證セント欲シテ抗告人ノ申出テタル唯一ノ證據ニ屬スル人證ヲ排斥シテ之ヲ喚問セサルハ重要ナル訴訟手續ノ違背ニシテ再抗告ノ理由ト爲ルモノトス

○再抗告裁判所カ抗告裁判所ノ裁判ヲ廢棄シ抗告ヲ申立テラレタル裁判ト同一ノ裁判ヲ爲シタルトキハ同一ナル二箇ノ裁判存在スルモノナルカ故ニ民事訴訟法第四百五十六條第二項ニ所謂新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生スルモノニ非ス從テ再抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ重要ナル手續ニ關シ法律ノ規定ニ違背セル廉アルニ非サレハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ

三六 一四〇五

三六 六三

三六 六三

三六 二九三

三六 一

三五 一

三六 六二二

三六 九五六

四二 七九

三三 三六

三三 三六

得ス

(同主旨)

區裁判所カ爲シタル訴訟費用確定決定ニ對シ地方裁判所之ヲ削除シ控訴院ニ於テ之カ負擔ヲ命シタルモノ乃チ前ニ主張シタル理由ニシテ二箇ノ同一ノ裁判存在スルモノハ民事訴訟法第四百五十六條第二項ニ所謂新ナル獨立ノ抗告理由アルモノニ非ス
抗告人カ主張スル理由ニ付キ二箇ノ同一ノ裁判存在スルトキハ民事訴訟法第四百五十六條第二項ニ所謂新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生セサルモノトス

○民事訴訟法第四百五十六條第二項ニ所謂新ナル獨立ノ抗告理由ハ二箇

ノ下級裁判所ノ裁判カ相一致スルトキハ前審ノ構成又ハ重要ナル訴訟手續ニ違法ナキ限ハ存セサルモノトス

(同主旨)

抗告裁判所ノ決定カ原裁判所ノ命令ト實體上同一ニ歸著シタル場合ニ於テハ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生セス
不服ヲ申立テラレタル裁判ト抗告裁判所ノ裁判トカ同一ニ歸著スルトキハ裁判所構成ノ規定若クハ主要ナル訴訟手續ニ違背シテ裁判シタル場合ノ外ハ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生セサルモノトス
下級裁判所ト其上級裁判所トノ二箇ノ決定カ其結果同一ニ歸シタルトキニ於テ再抗告ヲ爲スヲ得ルハ裁判所構成法ノ規定若クハ重要ナル訴訟手續ニ違背シタル如キ場合ニ限レルモノニシテ決定ノ理由ノ如キハ如何ナル不法アリト雖モ原則上抗告ハ二審ニ止マルヲ以テ再抗告ヲ

四五

四七九

二六

一〇八

三七

二〇八

四五

五七

二九

二二

三三

五三

爲スヲ許ササルモノトス

下級裁判所ト上級裁判所トノ二箇ノ裁判カ其結果同一ニ歸シタルトキニ於テ民事訴訟法ノ規定ニ依リ再抗告ヲ爲スコトヲ得ルハ裁判所構成法ノ規定若クハ重要ナル訴訟手續ニ違背シタルカ如キ場合ニ限レルモノニシテ其他裁判ノ理由ノ如キ縱令如何ナル不法アリトスルモ原則上抗告ハ二審ニ止マルヲ以テ再抗告ヲ許ササルモノトス

下級裁判所ト上級裁判所トノ二箇ノ決定カ其結果同一ニ歸シタル場合ニ於テ再抗告ヲ爲シ得ルニハ裁判所構成ノ規定又ハ重要ナル訴訟手續ニ違背シタルカ如キモノアルヲ要ス

抗告裁判所カ區裁判所ノ決定ヲ認可シ二箇ノ裁判同一ニ歸著シタル場合ニ於テハ抗告裁判所ノ裁判カ裁判所構成法ニ違背シ若クハ重要ナル訴訟手續ニ違背スル如キ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキニ非サレハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得ス

下級裁判所ト抗告裁判所トノ二箇ノ決定カ其結果同一ニ歸シタルトキハ抗告裁判所カ裁判所ノ構成其他重要ナル訴訟手續ニ違背シタルカ如キ場合ニ在ラサレハ再抗告ヲ爲スコトヲ許サス故ニ下級裁判所ノ訴訟手續若クハ裁判カ法律ニ違背スルモ又ハ抗告裁判所ノ裁判カ不當ノ理由ヲ付シ又ハ理由ヲ付セサルモノカ爲メニ再抗告ノ理由ヲ生スルモノニ非ス

二箇ノ決定同一ニ歸著スルトキハ其理由ノ如何ニ拘ハラズ第二ノ決定ヲ爲シタル裁判所カ構成ノ法規若クハ無効ニ歸スルカ如キ重要ナル訴訟手續ニ違背スルニ非サレハ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生セサルモノトス

○民事訴訟法第四百五十六條第二項ニ所謂抗告裁判所ノ裁判トハ事件ノ本體ニ付テ爲シタル裁判ヲ指稱シ本體ニ付テノ裁判ヲ前審ニ委任スル裁判ヲ包含セサルモノトス

三三

三三

三三

四〇

三三

三三

三三

四四三

三七

四六七

三七

二二九

元

九六

立ノ抗告理由ヲ生スヘキモノニ非ス
 ○民事訴訟法第四百五十六條第二項ニ所謂新ナル獨立ノ抗告理由トハ抗告裁判所カ不適法トシテ抗告ヲ棄却シタルカ下級裁判所ノ裁判ト反對ノ裁判ヲ爲シタルカ又ハ裁判所構成ノ規定若クハ重要ナル手續ニ違背シテ裁判ヲ爲シタル場合ヲ謂フモノトス

(同主旨)

民事訴訟法第四百五十六條第二項ニ所謂其裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキトハ抗告裁判所カ形式上不適法トシテ抗告棄却ノ裁判ヲ爲シ若クハ實質上下級裁判所ノ裁判ト反對シテ對手人ノ爲メ更ニ抗告ニ服スヘキ裁判ヲ爲シタル場合又ハ下級裁判所ト結果ニ於テ同一ノ裁判ヲ爲スモ其裁判ニシテ裁判所構成ノ規定ニ違背シ若クハ重要ナル訴訟手續ニ違背セル如キ場合ニ生スヘキ抗告理由ヲ云フモノナリトス
 抗告裁判所ノ裁判ニ因リ生シタル新ナル獨立ノ抗告理由トハ抗告裁判所カ形式上不適法トシテ抗告ヲ棄却スルカ、實質上下級裁判所ノ裁判ト反對ノ裁判ヲ爲シ對手人ノ爲メ更ニ抗告理由ヲ生スルカ、下級裁判所ト結果ニ於テ同一ノ裁判ヲ爲スモ法律上除斥セラレタル判事カ其裁判ニ干與スルカ若クハ其裁判カ裁判所構成ノ規定又ハ重要ナル訴訟手續ニ違背セル如キ場合ヲ指スモノトス

民事訴訟法第四百五十六條第二項ニ所謂新ナル獨立ノ抗告理由トハ抗告裁判所カ不適法トシテ抗告ヲ棄却シタルカ下級裁判所ノ裁判ト反對ノ裁判ヲ爲シタルカ又ハ裁判所構成ノ規定若クハ重要ナル手續ニ違背シテ裁判ヲ爲シタル場合ヲ謂フモノニシテ抗告裁判所カ抗告人ノ申

出テタル證據方法ヲ採用セザリシカ如キ場合ヲ包含セサルモノトス

第四百五十八條

第四百五十八條

○民事訴訟法第四百五十八條ニ所謂新ナル事實及ヒ證據ノ提出ニ付テハ別ニ期間ノ定ナケレハ抗告裁判所カ其裁判ヲ爲スマテハ何時ニテモ之ヲ提出シ得ルモノトス
 ○抗告人ハ其前審ニ提出シタル事實證據ノ外新事實並ニ新證據ヲ提出シ得ルモノトス故ニ其抗告ニシテ適法ナル以上ハ抗告裁判所ハ抗告人ノ提出ニ係ル一切ノ事實及ヒ證據ニ付キ當否ノ判定ヲ爲ササルヘカラス
 ○抗告裁判所カ抗告人ヨリ口頭ニテ新ナル證據方法ヲ申立テ且之ニ付キ説明ヲ爲ス必要アリトノ理由ヲ以テ爲シタル口頭辯論ノ申請ヲ採用セザリシ場合ト雖モ之ヲ以テ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ提出スルノ途ヲ杜絶シタルモノト謂フヲ得ス
 ○抗告ノ證據ト爲スヘキ新ナル事實及ヒ證據方法ハ抗告裁判所カ裁判ヲ爲ス迄ニ提出スヘキモノトス
 ○抗告狀ニ掲載セサル新事實及ヒ新證據ノ提出カ時期ヲ失シ裁判所ノ顧ミサル所ト爲ルヘキハ抗告人ノ豫メ覺悟スヘキ所ナレハ送達迄裁判アリタルコトヲ知ラサル事情ハ其時迄ニ新ナル事實及ヒ證據ヲ提出スル

四	一六三二
三	一四七七
三	二四
四	一一六七
七	五〇二

四	一六九二
三	五
三	五九一

コトヲ得ヘキ理由ト爲スニ足ラサルモノトス

○民事訴訟法第四百五十九條ニ依リ抗告裁判所カ再度ノ考案ニ基キ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ更正スヘキ範圍ハ必スシモ其主文ヲ變更スル場合ノミニ限ルヘキモノニ非スシテ不服ノ點全部ヲ包含スルモノトス

○民事訴訟法第四百五十九條ノ規定ハ其不服ヲ申立テラレタル裁判カ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルモノナル場合ニモ適用アルモノトス

○決定ヲ與ヘタル裁判所カ其決定ニ對スル抗告ヲ理由アリトシ再度ノ考案ニ基キ前決定ノ全部ヲ取消ス旨ノ更正決定ヲ爲シタルトキハ之ニ依リ抗告人ノ不服ノ理由ハ全部消滅シ抗告裁判所ニ對シテハ其抗告ハ全然提起ナカリシモノト同一ニ歸スヘキモノトス從テ反對ノ利益ヲ有スル者ヨリ更正セラレタル裁判ニ對シ抗告ヲ爲シ抗告裁判所カ其裁判ヲ爲スニ當リテハ更正前ノ抗告ハ提起ナカリシモノトシテ裁判ヲ爲スヘキモノトス

第四百六十一條

○民事訴訟法第四百六十一條ニ所謂急迫ナル場合トハ同第四百五十七條及ヒ第四百五十九條所定ノ手續ニ依ルニ於テハ訴訟上救フヘカラサル

第四百六十二條

損害ヲ蒙ルノ虞アルカ若クハ之ヲ救フニ困難ナルヘキ場合等ヲ指稱スルモノニシテ抗告人ニ於テ期間ヲ懈怠シ急遽其申立ヲ爲スカ如キ場合ヲ救濟スルノ法意ニ非ス

○抗告申立人カ直ニ抗告裁判所ニ即時抗告ヲ爲ス場合ニ付テハ訴訟法上何等特別ノ規定ナケレハ其申立ノ期間ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ニ申立ヲ爲ス場合ト同一ノ期間ヲ遵守スヘキヲ當然トス

第四百六十二條

○口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ於テ裁判所カ口頭辯論ヲ命スルモノハ固ト記録ノミニ依リ審理スルコトヲ得ヘキ事件ニ付キ其釋明ヲ期スル任意ノ手續ニ過キサルヲ以テ縱令之ヲ命シタルトキト雖モ本來口頭辯論ヲ要スル事件ニ於ケルモノト同視スヘキニ非ス

○抗告裁判所ハ一旦辯論開始ノ爲メ期日ヲ指定シタル場合ト雖モ其職權上何時タリトモ之ヲ取消シ書面ニ依リテ審理決定ヲ爲シ得ルモノトス

○抗告裁判所カ抗告人ノ申請アルニ拘ハラズ口頭辯論ヲ開カスシテ裁判ヲ爲スモ之ヲ以テ訴訟手續ニ違背シタルモノト云フヲ得ス

(同主旨)

七	五〇二
三	六五三
四	九一六
四	二二二
四	五八三
四	五八三
三	一〇〇
三	八二七
三	一五九三

抗告人ニ於テ口頭辯論ヲ開キ證人ヲ以テ其主張事實ヲ證明スヘキ申立ヲ爲スモ抗告裁判所カ
口頭辯論ヲ開クノ必要ヲ認めサルトキハ之ヲ開キテ證人ノ取調ヲ爲スコトヲ要セス
抗告裁判所カ當事者ヲシテ口頭辯論ヲ爲サシムルト否トハ一ニ其職權ニ屬ス故ニ抗告事件ヲ
裁判スルニ當リ口頭辯論ヲ爲サシメス證人喚問ノ申請ヲ採用セサルモ之ヲ以テ重要ナル訴訟
手續ニ違背シタルモノト云フヲ得ス

○抗告裁判所カ口頭審理ヲ爲スト否トハ一ニ其職權ニ屬シ當事者ヨリ之
ヲ申請スルコトハ訴訟法上當然ノ權利ニ非サレハ其申請ヲ採用セサル
ニ付キ特ニ却下ノ決定ヲ爲ササルモ違法ナリト謂フヲ得ス
○人證ノ申出ハ口頭辯論ニ於テ爲スヘキモノニシテ抗告狀ニ掲ケタル其
申出ハ效ナキモノトス

第四百六十三條

第四百六十三條

○抗告裁判所ノ決定ヲ不當トシ全部廢棄ヲ求メ其理由ハ別ニ申立ツヘキ
旨ノ抗告狀ヲ提出シタルモ爾後何等ノ申立ヲ爲ササルトキハ該抗告ハ
不合法トシテ棄却スヘキモノトス

○抗告裁判所ノ決定ニハ訴訟法上必スシモ一理由ヲ付スルコトヲ要セ
ス從テ抗告人カ申立テタル不服ノ點ニ對シ理由ヲ明示スル所ナキモ直
ニ審理ヲ遺脱シタルモノト云フヲ得ス
○一ノ裁判ニ對シ二重ニ抗告ヲ爲シタル場合ト雖モ第一ノ抗告ニシテ權

限ナキ代理人ノ提起セル無効ノモノナルニ於テハ既ニ抗告ノ提起アリ
トノ理由ニ依リ第二ノ抗告ヲ不合法トシテ却下スルコトヲ得ス

○抗告ヲ不合法トシテ棄却スル場合ニハ其本案ニ關スル主張事實ニ付キ
判斷説明ヲ爲ササルモ違法ニ非ス

○認證謄本ニ依リテ原決定ノ理由ヲ具備スルコト明カナル以上ハ縱令抗
告人ニ送達セラレタル決定抄本ニ理由ヲ省畧シ之カ記載ナシトスルモ
之ヲ以テ抗告ノ理由ト爲スコトヲ得ス

○抗告狀ニ訴訟印紙ヲ貼用セサル場合ニ於テハ之カ貼用ヲ命シ之ニ遵ハ
サルトキハ不合法ノ抗告トシテ之ヲ棄却スヘキモノナリト雖モ直ニ之
ヲ棄却スルコトヲ得サルモノトス

○控訴院ハ地方裁判所カ第二審トシテ爲シタル決定及ヒ命令ニ對スル抗
告ニ付キ裁判權ヲ有セサルモノナレハ斯ル抗告ハ之ヲ不合法トシテ棄
却スヘキモノトス

○抗告狀ニ其裁判ヲ爲スヘキ裁判所ヲ記載セサレハ抗告ヲ違法タラシム
ル旨趣ノ規定ナケレハ抗告人カ抗告狀ニ之ヲ記載セサルモ爲メニ該抗
告ヲ方式ヲ具備セサルモノトシテ却下スヘキモノニ非ス

第四百六十四條

第四百六十四條

三七	四
三七	四
四二	二六七
四	三
三六	一〇四
三元	八二

四一	一三五
四二	五五〇
二	八五二
三	六四九
四	一一三
七	一六三

○民事訴訟法第四百六十四條ノ委任ニ依リ爲シタル裁判ニ對スル抗告ハ普通ノ場合ト均シク直近上級裁判所即チ其委任ヲ爲シタル裁判所ニ提出スヘキモノトス

○抗告裁判所カ前審ノ裁判ヲ廢棄シ前審裁判所ニ委任シテ爲サシヌタル裁判ハ抗告裁判所ノ裁判ニ非ス

○不動産ノ競落ヲ許可セストノ決定ヲ不當ナリトスル抗告カ適法ニシテ理由アルトキハ抗告裁判所ハ原決定ヲ廢棄スルト同時ニ自ラ競落ヲ許ス旨ノ決定ヲ爲スカ又ハ之カ裁判ヲ前審ニ委任スル旨ノ決定ヲ爲スヘキモノトス

第四百六十六條

第四百六十六條

○即時抗告ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ送達ヨリ七日ノ不變期間内ニ爲スコトヲ要スルモノナレハ其期間ノ發生前ト雖モ之ヲ爲スヲ妨ケス

○忌避ノ申請ヲ不當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキモノニシテ不變期間ハ七日ナリトス

○裁判所ハ其與ヘタル決定中ニ違算書損及ヒ之ニ類スル著シキ誤謬アルコトヲ發見シタルトキハ職權ヲ以テ何時ニテモ之ヲ更正スルコトヲ得而シテ右ノ更正決定ニ對シテハ其送達ノ時ヨリ起算シテ即時抗告ヲ爲

一八六七

一九二三

二〇三七

九五三

一〇五七

二二〇五

二二六一

二二〇五

二二〇五

二二〇五

二二〇五

二二〇五

二二〇五

二二〇五

二二〇五

スコトヲ得ヘキモノトス
○不動産競賣事件ノ抗告ニ對シ口頭辯論ヲ經テ言渡シタル決定ニ對スル抗告ハ言渡ノ日ヨリ七日ノ期間内ニ申立ツヘキモノトス
○競落許可決定ニ對スル抗告ノ不變期間ハ他ノ利害關係人ノ爲シタル抗告ニ因リ停止セラルルモノニ非ス
○即時抗告ノ期間ハ民事訴訟法第四百六十六條第二項ニ明定セル三箇ノ場合ノ外ハ裁判ノ言渡アリタルトキト雖モ其送達ヨリ始マルモノトス
○民事訴訟法第四百六十六條第三項ハ再審ヲ求ムル訴ニ付テノ要件存スル場合ニ於テ抗告ノ期間ヲ延長シタルニ止マリ特ニ再審ノ申立ヲ爲スコトヲ許スノ旨趣ニ非ス

同主旨

民事訴訟法第四百六十六條第三項ノ規定ハ抗告ヲ爲サスシテ不變期間ヲ經過シタル場合ニ其期間ノ延長ヲ許容シタルニ止マリ抗告ノ結果確定セル決定ニ對シテ更ニ抗告ヲ許容シタルモノニ非ス

○民事訴訟法規上裁判ノ送達ヲ必要トセサル場合ニ於ケル抗告ノ不變期間ハ不服ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マルモノト解スルヲ相當トス

二二〇五

二二〇五

二二〇五

二二〇五

二二〇五

二二〇五

二二〇五

二二〇五

二二〇五

二二〇五

二二〇五

第四編 再審

○再審ノ訴ニ依ラスシテ確定判決ヲ變更セントスルハ訴訟手續ニ違背スルモノナリ

○再審訴訟ノ本案ニ付テ裁判ヲ爲スニ當リ再審ノ訴ヲ理由ナキモノトシテ不服ヲ申立テラレタル判決ト同一ノ判決ヲ爲スヘキ場合ニハ前判決ヲ維持スル旨ヲ言渡スヘキモノナリト雖モ其判決主文ニ不服ヲ申立テラレタル判決ト同旨趣ノ文字ヲ記載シテ言渡ヲ爲スモ結局前判決ヲ維持スルノ旨趣ニ歸スルトキハ必スシモ不法ト云フヲ得ス

○私訴ハ公訴ニ付テ再審ノ原由アルトキ之ト共ニ再審ノ裁判ヲ受クルコトアルニ止マリ私訴ノミニ付テ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス

(同旨趣)

私訴ノ判決ニ付テハ單獨ニ再審ノ訴ヲ爲スヲ得ス

○民事訴訟法第四編中不變期間ノ開始前ニ取消ノ訴ヲ提起シ得サル旨ノ規定ナキヲ以テ其開始前ニ於テモ之ヲ提起シ得ルモノト解釋スルヲ相當トス

三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
九	二	二	二	二	二	二	二	二	二
四	一	一	一	一	一	一	一	一	一

○不動産競落許可決定ニ對スル抗告事件ニ付キ決定ヲ以テ終結シタル不動産強制競賣手續ニ關スル再審ノ申立ハ民事訴訟法上之ヲ許シタル規定ナケレハ不適法トシテ却下スヘキモノトス

○家督相續人廢除判決確定後被相續人死亡スルモ其相續ヲ爲ス者ナキ場合ニ於テ再審ノ訴ヲ提起スルトキハ民法第九百七十八條ニ依リ裁判所ノ選任シタル管理人ヲシテ訴訟ノ相手方ト爲スヘキモノナリト雖モ相續開始シ他ノ相續人タルヘキ者カ既ニ相續ヲ爲シタル後ハ現ニ相續ニ因リ戸主ト爲リタル者ニ於テ再審ノ訴ノ當事者トシテ訴訟ヲ繼續スルコトヲ得ルモノトス

第四百六十七條

○大審院ノ與ヘタル裁判ニ對シ其當否ヲ論難シ再審ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

○裁判所ニ於テ一旦訴訟ヲ受理シ判決ヲ爲シタル上ハ縱令當事者ノ一方カ訴訟無能力者ナリシトテ之カ爲メ其判決ハ當然無効ト爲ルヘキモノニ非スル場合ニハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ再審ノ訴ヲ爲シ更ニ相當ノ裁判ヲ受クヘキモノトス

○當事者ノ一方又ハ雙方ヨリ原狀回復ノ訴及ヒ取消ノ訴アリタル場合ニ

五	四	六	六	六	六	六	六	六	六
一〇	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三〇	八〇	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五	一〇五

第四百六十八條

原狀回復ノ訴ニ付テハ辯論ヲ停止スルト否トハ當該裁判所ニ於テ諸般ノ事情ヲ斟酌シ自由裁量ニ依リ決定シ得ヘキモノトス

第四百六十八條

○民事訴訟法第四百六十八條第二項ノ法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事トハ同法第三十二條各項ノ場合ヲ指シタルモノニテ判事ノ轉任ヲ以テ法律上ニ謂フ所ノ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタルモノト云フヲ得ス

第四百六十八條

○民事訴訟法第四百六十八條第四號ハ自己ノ代理ニ欠缺アル場合ノミヲ指示シタルモノニシテ相手方ノ代理ニ欠缺アル場合ニ適用スヘキモノニ非ス

(同主旨)

民事訴訟法第四百三十六條第五號同第四百六十八條第四號ハ其法文同一ナルモ法意相異ナリ前者ハ當事者カ自己ノ代理ニ欠缺アルト相手方代理ニ欠缺アルトナ間ハス共ニ上告ノ理由ト爲シ得ヘキモ後者ハ自己ノ代理ニ欠缺アル場合ノミヲ指示シタルモノニシテ相手方代理ニ欠缺アル場合ニ適用スヘキモノニ非ス

(反對)

民事訴訟法第四百六十八條第四號ニ「訴訟手續ニ於テ原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレザリシトキ」トアルハ制限的ノ文詞ニ非ス然ルニ原院カ其第四號ハ「原告若クハ被告

四	一六五
二四	八〇
三七	一三五
三〇	一〇

第四百六十九條

告カ適法ニ代理セラレザリシ場合ニシテ其相手方カ正當ニ代理セラレザリシ場合ヲ謂フニ非ス云云若シ相手方ニシテ正當ニ代理セラレザリシナラハ之ヲ爭フコトヲ得繼シ得ザリシトスルモ其過失ナレハ之ニ再審ヲ許ス條理ナシト説明シタルハ右ノ法文ヲ誤解シタルモノナリ

第四百六十九條

○民事訴訟法實施以前ニ再審ヲ受クルノ理由アルモノトノ判決ヲ受クルモ同法實施以後ニ再審ノ申請ヲ爲シタルニ於テハ同施行條例第一條ニ依リ民事訴訟法第四百六十九條ノ制裁ヲ受ケサルヘカラス

○民事訴訟法第四百六十九條第一項第一號乃至第四號ノ場合ニ於ケル原狀回復ノ訴ハ刑法上處罰スヘキ行爲ノ存在スルコトヲ條件ト爲スモノトス

○裁判ノ直接ノ證據ト爲リタル證書ニ非サレハ偽造變造等ヲ以テ再審ノ理由ト爲スコトヲ得ス

○原狀回復ノ訴ニ於テ甲者カ新證據ヲ提出シテ前訴訟ニ於テ乙者カ提出セル證書ヲ偽造ナリト主張スルモ之ヲ排斥シテ乙者ノ證書ヲ偽造ナリト認定スルヲ得スト判決シタル以上ハ新證據ハ適法ニ原狀回復ノ理由ト爲ラス

○民事訴訟法第四百六十九條第三號ニ所謂判決ノ證據ト爲リタル證書カ

二七	四六三
二五	六
三七	一四五
二五	一三
二六	三〇九

○偽造ナリシトキハ必スシモ訴訟當事者ノ偽造シタル事實アルヲ要スルモノニ非ス

○民事訴訟ニ於ケル再審ノ規定ハ確定セル終局判決ノ變更ヲ目的トスルモノナルヲ以テ再審ノ規定存スルカ爲メ確定判決ヲ變更スルニ非サレハ訴訟上ノ不法行爲者ニ對シ損害賠償ノ責任ヲ歸セシムルコトヲ得サル理由ナシ

○民事訴訟法第四百六十九條第四號ニ依ル再審ノ理由タル證人ノ供述カ判決ノ憑據ト爲リタルトハ直接ノ證據ト爲リタルト間接ニ影響ヲ及ボシタルトヲ問ハス主要ノ爭點ヲ判斷スル資料ト爲リタルコトヲ要スルモノニシテ其以外假定事實ノ判斷上援用シタル證人ノ供述ハ判決ノ憑據ト爲リ之ニ影響ヲ及ボシタルモノト謂フコトヲ得サルモノトス

(同主旨)

民事訴訟法第四百六十九條第四號ニ依リ再審ノ原因タル證人又ハ鑑定人ノ供述ハ判決ニ影響ヲ及ボシタルモノナルコトヲ要スト雖モ直接ニ事實認定ノ資料タリシモノノミナラス判斷上間接ノ證據ト爲リタルモノヲモ包含スルモノトス

○民事訴訟法第四百六十九條第六號ノ規定ニ依リ再審ノ訴ヲ提起シ得ヘキハ不服ヲ申立ツル判決ノ口頭辯論終結後ニ於テ再審原告人カ其以前ニ確定ト爲リタル同一事件ニ付テノ判決ヲ發見シ其判決カ不服ヲ申立

(同主旨)

ツル判決ト牴觸スル場合ニ限ルモノナリ然ルニ某判決ハ前訴ノ審理中本訴ノ當事者ト同一ナル當事者間ニ言渡サレタルモノナレハ再審原告人ハ曩ニ與ヘタル判決ノ口頭辯論終結後ニ至リ始メテ之ヲ發見シタルニ非スシテ其以前ヨリ業ニ既ニ之カ存在ヲ熟知シ居ルモノト云ハサルヲ得ス即チ第六號ノ規定ニ適合セサルモノトス

○民事訴訟法第四百六十九條第七號ニ揭示スル所ノ證書自體ノ效力ハ之ヲ以テ前審ト反對ノ裁判ヲ爲スニ至ルヘシト認ムヘキモノニ限レルヲ以テ再審ノ訴ニ於テ新ニ命スヘキ他ノ證據調ノ結果ト併合シテ始メテ反對ノ裁判ヲ爲スニ至ラシムヘキ證書ニ過キサルトキハ再審ノ理由ト爲スヘカラス

(同主旨)

○民事訴訟法第四百六十九條第七ノ所謂「相手方若クハ第三者ノ所爲ニ依リ」トハ隱匿若クハ抑留等ノ所爲ニテ提出ヲ妨ケラレタル場合ヲ云フ故ニ再審請求者ハ前訴ニ於テ提出セントスルモ相手方若クハ第三者ニ妨ケラレ提出シ能ハサリシ事實ヲ證明セサルヘカラス

民事訴訟法 再審

二五	二七	二六	二七
六		二	
二	二五	一	三四七

四	六	三	三
		六	二
一三七	四五	一九六	五四